

科目名・単位数	介護福祉基礎(1年次)	(3)単位	学習レベル	基礎
---------	-------------	---------	-------	----

学習目標

- ① 介護の意義と役割、高齢者や障害者に見られる身体的・精神的特徴等を理解する。
- ② 尊厳を支える介護、自立に向けた支援について、関連する技術を身につける。
- ③ 介護の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

学期	学習内容	学習のねらい
----	------	--------

学期	学習内容	学習のねらい		
前期 (4月～9月)	第1編 介護の意義と役割	第1章 尊厳を支える介護 1. その人らしく・尊厳・基本的人権 2. 高齢者の人格と尊厳 3. 障害のある人の人格と尊厳 4. 利用者本位の介護サービス 第2章 介護従事者の倫理 1. 尊厳・プライバシー保護 2. 専門性と基本姿勢 3. 介護従事者として踏まえるべき倫理	・介護が必要な人とはどのような人か、尊厳とはどのようなことか理解し、尊厳を守るために必要な考え方や態度について理解する。 ・介護従事者として必要な倫理観と、それに基づく態度について理解する。	
	第2編 介護と必要とする人の生活と介護	第1章 高齢者の生活と介護 1. 生活支援 2. 生活を支える介護 3. 介護過程	・高齢者の特徴や活動、認知症等の疾患を理解し、高齢者に対するより良い介護のあり方を考える。また、基本的な生活支援の方法を理解する。 ・利用者のかかえている生活上の問題を解決するために必要な介護過程のプロセスを理解する。	
		第2章 障害者の生活と支援	1. 障害とは	・障害について理解し、障害に対する考え方の変化や障害者の生活環境を理解する。
			2. 視覚障害、聴覚・言語障害者の生活と支援	・視覚障害、聴覚・言語障害者の心理や生活上の問題を把握し、問題の解決法を考える。また、聴覚障害者、言語障害者のコミュニケーションのとり方を理解する。
			3. 肢体不自由者の生活と支援	・脊髄損傷者、脳性麻痺者、脳血管障害者の原因と生活上の困難を理解し心理を考える。
			4. 内部障害者の生活と支援	・内部障害者の特徴をつかみ、適切な支援体制の必要性を考える。
			5. 知的障害者の生活と支援	・知的障害者の生活上の困難を理解し、権利擁護の視点から生活支援について考える。
	6. 発達障害者の生活と支援		・発達障害の特徴を理解し、一人の人間として尊重し支援することを理解する。	
	後期 (10月～3月)	第3編 人の生活を必要とする環境	7. 精神保健福祉	・精神保健について理解し、心の健康づくり、精神障害者の現状について理解する。
8. 精神障害者の生活と支援			・精神障害の特徴を理解し、精神障害者に対する具体的な生活支援の方法を理解する。	
9. 地域生活移行			・地域で支えるシステムを理解し、地域で生活するための支援方法について理解する。	
10. 就労支援			・障害者の地域就労支援の種類や方法を学び、障害者の就労の実態を理解する。	
第2章 自立に向けた介護		1. 自立・生活支援	・リハビリテーションの意味を理解し、医療と介護を関連させることで、その人らしい生活を構成していくことの大切さを理解する。自立や生活支援をICFの視点をもとに考察する。	
		2. 生活支援と介護	・事例をもとに、ICFの視点から生活支援の実態を理解する。	
		3. 自立を支援する介護専門職	・人間の尊厳を守り、自立支援を行う専門職の基本的な業務と態度について理解する。	
		4. 自立を支援する生活環境づくり		
第4編 介護の担い手		第1章 介護従事者をとりまく状況	1. 介護福祉士の養成	・介護福祉士が誕生した社会的背景及び資格の取得方法や養成の現状について理解する。
	2. 介護人材の確保と定着		・福祉サービス需要の増大に対応できる介護福祉人材確保についてEPAに関連づけて考察する。	
	3. 介護従事者のキャリアアップ研修		・介護従事者のキャリアアップについて具体的な方策(自己研鑽など)を理解する。	
	4. 介護従事者の社会的地位向上		・介護従事者の社会的地位向上のための支援について理解する。	
	第2章 介護従事者の役割		1. 介護の役割、介護従事者の役割	・介護福祉士に求められる資質と、専門性の確立の必要性について考察し理解する。
2. 在宅介護従事者の役割	・専門職者としての在宅介護への関わり方について考察する。			
3. 施設介護従事者の役割	・専門職者としての施設介護への関わり方について考察する。			

評価の観点と方法

観点

知識・技術	介護の意義と役割、高齢者や障害者に見られる身体的・精神的特徴等を理解することができたか。
思考・判断・表現	尊厳を支える介護、自立に向けた支援について、関連する技術を身につけることができたか。
主体的に取り組む態度	介護の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。

方法

- ① 上にあげた観点を総合的に評価する。

使用教科書・副読本	介護福祉基礎(実教出版)
-----------	--------------

科目名・単位数	こころとからだの理解(1年次)	(2)単位	学習レベル	基礎
----------------	------------------------	--------------	--------------	-----------

学習目標						
① 介護従事者として必要な、基本的な心と身体のしくみ、高齢者や障害者の特徴について理解する。 ② 学習した基礎的知識を用いて、ワークシートや演習で表現する。 ③ 積極的に自分の意見を表現し、協働の意識を持って授業に対する学びを高める。						
学期	学習内容	学習のねらい	備考			
前期 (4月～10月)	第1編 こころとからだの基礎的理解 第1章 こころの理解 1 私たちの生活と健康 2 人間の欲求の基本的理解 3 動機づけ 4 自己概念と尊厳 5 思考・感情のしくみ 6 学習・記憶のしくみ 7 知能のしくみ 8 適応と防衛機制 第2章 からだのしくみの理解 1 生命維持・恒常性のしくみ 2 脳・神経系のしくみ 3 運動器系のしくみ 4 循環器系のしくみ 5 消化器系のしくみ 6 呼吸器系のしくみ 7 感覚器系のしくみ 8 内分泌系のしくみ 9 生殖器系のしくみ 10 血液・免疫系のしくみ	・健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現する。 ・人間の心とは何か、人間の欲求や尊厳と関連させながら考え、理解する。 ・人間の行動は、動機と動機づけによって起こされることを理解する。 ・アイデンティティと自己覚知と関連させ、個人・他者の尊厳を考え理解する。 ・人間の心の動きや心のしくみを、事例学習をすることにより気づき、理解する。 ・人間の心の動きや心のしくみを、事例学習をすることにより気づき、理解する。 ・記憶のしくみや学習の獲得過程を理解する。 ・人間の心の動きや心のしくみを、事例学習をすることにより気づき、理解する。	ワークシート 演習			
	後期 (10月～3月)	第3編 発達と老化の理解 第1章 人間の成長と発達 1 発達 2 発達段階 3 発達課題 第2章 老年期の理解と日常生活 1 老年期の定義と特徴 2 加齢に伴う心身の変化の特徴 3 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響 4 高齢者の心理 第3章 高齢者と健康 1 高齢者の疾病と生活上の留意点 2 高齢者の健康の維持と・増進 3 保健・医療職との連携	・人間の成長と発達の定義について理解する。 ・発達段階について理解する。 ・発達課題について理解する。 ・老化と加齢の違いを理解する。 ・恒常性機能について理解する。 ・加齢に伴う心身の変化が日常生活に及ぼす影響について理解する。 ・老年期における心理的特徴について理解する。 ・高齢者特有の疾病の特徴について理解する。 ・高齢者の健康の維持・増進について理解する。 ・チームケアによって総合的な支援が行われていることを理解する。	ワークシート 演習		

評価の観点と方法	
観 点	
知識・技術	介護従事者として必要な、基本的な心と身体のしくみ、高齢者や障害者の特徴について理解することができた。
思考・判断・表現	学習した基礎的知識を用いて、ワークシートや演習で表現することができた。
主体的に取り組む態度	積極的に自分の意見を表現し、協働の意識を持って授業に対する学びを高めることができた。
方 法	
① 上にあげた観点を総合的に評価する。	
使用教科書・副読本	教科書:こころとからだのしくみ(実教出版)
教材・道具等	ワークシート・パワーポイント・人体模型・DVD 等

科目名・単位数	コミュニケーション技術（選択）	（ 2 ）単位	学習レベル	基礎
---------	-----------------	---------	-------	----

学習目標

- ① コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得する。
- ② サービス利用者や利用者の家族、多職種協働におけるコミュニケーション能力などを習得する。
- ③ コミュニケーション技術で活用する能力と態度を身につける。

学期	学習内容	学習のねらい	備考	
前期 (4月～9月)	4月 ・オリエンテーション 第1編 介護におけるコミュニケーション 第1章 コミュニケーションの意義と役割	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備する。 ・介護従事者として人間関係形成に必要なコミュニケーションの意味と役割について理解する。	・施設実習でのサービス利用者との関係形成と連動させながら学習する。また、自己の日常生活と人とのかかわり方を関連させ、理解を図る。	
	5月 1 人間の理解と人間関係 2 コミュニケーションとは 第2章 コミュニケーションの基本技術 1 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	・人間を理解する上で大切な他者理解、自己理解をふまえ、自己覚知、自己開示の必要性和在り方を理解する。 ・コミュニケーションをとる意味について考え、コミュニケーションをとるための基本的態度を理解する。 ・演習をとおして、コミュニケーションに関する基礎的な技法を身に付けさせる。		
	6月 2 受容と共感 3 対人援助におけるコミュニケーションの実践 第3章 援助の技法とコミュニケーション	・言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーションの意義や役割を理解する。 ・傾聴、受容、共感、効果的な質問等、演習をとおして理解する。 ・対人援助に必要な基本的なコミュニケーションの技術を事例を通して実践することで、理解する。 ・実践を通して学んだ基本的なコミュニケーションの技術の振り返りを行い、コミュニケーション能力を高める。 ・個別的な援助、集団への援助について理解する。		
	7月 1 個別援助としてのコミュニケーション 2 集団援助としてのコミュニケーション 第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション 第1章 サービス利用者や家族との関係づくり 1 利用者や家族との関係づくり 2 家族への支援	・サービス利用者の状態や状況、利用者を取り巻く家族の状況に応じたコミュニケーションを理解する。 ・サービス利用者と家族を含むコミュニケーションの在り方を、事例を通して考える。 ・サービス利用者や家族の意向を調整する技法、相談・助言・指導する技法を、事例を通して理解する。		
	9月 第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション 1 高齢者とのコミュニケーション 2 障害とコミュニケーション 3 視覚障害のある人とのコミュニケーション	・加齢による心身の変化を理解し、高齢者に合わせたコミュニケーションの必要性を理解する。 ・先天性障害や中途障害、障害をもたらす二次障害を理解し、それがコミュニケーションに及ぼす影響について考える。 ・視覚障害及び視覚障害のある人の理解を深め、介護従事者としてサービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。		
	10月 4 聴覚障害のある人とのコミュニケーション	・聴覚障害及び聴覚障害のある人を理解する。介護従事者としてサービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。		
	後期 (10月～3月)	11月 5 言語障害のある人とのコミュニケーション 6 運動機能障害のある人とのコミュニケーション 7 知的障害のある人とのコミュニケーション 8 認知症の人とのコミュニケーション		・言語障害及び言語障害のある人を理解する。介護従事者としてサービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 ・運動機能障害及び運動機能障害のある人を理解する。介護従事者としてサービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 ・知的障害及び知的障害のある人を理解する。介護従事者としてサービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 ・認知症及び認知症の人を理解する。介護従事者としてサービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。
		12月 第3編 介護におけるチームのコミュニケーション 第1章 記録 1 記録の意義と目的 2 記録の種類		・多様な介護場面におけるチームとしての連携と情報の共有化について基礎的な知識と技術を身に付ける。 ・客観的な記録により利用者理解に繋がることを理解する。 ・記録の種類について理解する。
		1月 3 記録の方法と管理 4 振り返り		・記録の方法を理解する。情報の保護について考える。 ・介護内容の振り返りと、見直しの技術を身に付ける。
		2月 第2章 チームによる連携 1 チームのコミュニケーション 2 情報の共有化 3 会議による情報の共有化		・チームのコミュニケーションとして記録による情報の共有化の重要性を理解する。 ・専門職チームとして情報の共有化の方法を理解する。
3月 第3章 スーパービジョンの技法 1 スーパービジョンとは 2 スーパービジョンの方法		・介護従事者として、自身の能力の向上と成長させる方法としてのスーパービジョンを理解する。 ・スーパービジョンの方法を、演習をとおして身に付ける。		

評価の観点と方法

- 観点 ① コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得したか。
 ② サービス利用者や利用者の家族、多職種協働におけるコミュニケーション能力などを習得したか。
 ③ コミュニケーション技術を習得し、介護現場や授業を通して実践できたか。
- 方法 ① 上にあげた観点を総合的に評価する。

使用教科書・副読本	検定教科書 コミュニケーション技術(実教出版) 新・介護福祉士養成講座 5. コミュニケーション技術(中央法規)
教材・道具等	ワークシート・DVDなど

科目名・単位数	コミュニケーション技術 (1年次)	(2)単位	学習レベル	基礎
---------	-------------------	---------	-------	----

学習目標				
① コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得する。 ② コミュニケーション技術で活用する能力と態度を身につける。 ③ コミュニケーションの必要性について自ら学び、積極的にコミュニケーションを図る姿勢を身につける。				

学期	学習内容	知	思	主	学習のねらい	備考	
前期 (4月～9月)	4月	・オリエンテーション			○	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備する。	・施設実習でのサービス利用者との関係形成と連動させながら学習する。また、自己の日常生活と人とのかわり方を関連させ、理解を図る。
	5月	第1編 介護におけるコミュニケーション 第1章 コミュニケーションの意義と役割				・介護従事者として人間関係形成に必要なコミュニケーションの意味と役割について理解する。 ・人間を理解する上で大切な他者理解、自己理解をふまえ、自己覚知、自己開示の必要性と在り方を理解する。また、コミュニケーションをとる意味について考え、コミュニケーションをとるための基本的態度を理解する。	
		1 人間の理解と人間関係	○	○			
	6月	2 コミュニケーションとは	○				
		第2章 コミュニケーションの基本技術				・言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーションの意義や役割を理解する。また、演習をとおして、コミュニケーションに関する基礎的な技法を身に付けさせる。 ・傾聴、受容、共感、効果的な質問等、演習をとおして理解する。 ・対人援助に必要な基本的なコミュニケーションの技術を事例を通して実践することで、理解する。 ・実践を通して学んだ基本的なコミュニケーションの技術の振り返りを行い、コミュニケーション能力を高める。	
	7月	1 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	○		○		
		2 受容と共感	○		○		
	9月	3 対人援助におけるコミュニケーションの実際			○		
		第3章 援助の技法とコミュニケーション				・個別的な援助、集団への援助について理解する。	
	10月	1 個別援助としてのコミュニケーション	○				
		2 集団援助としてのコミュニケーション	○				
	11月	第2編 サービス利用者や家族とのコミュニケーション 第1章 サービス利用者や家族との関係づくり				・サービス利用者の状態や状況、利用者を取り巻く家族の状況に応じたコミュニケーションを理解する。 ・サービス利用者や家族を含むコミュニケーションの在り方を、事例を通して考える。また、サービス利用者や家族の意向を調整する技法、相談・助言・指導する技法を、事例を通して理解する。	
1 利用者や家族との関係づくり				○			
12月	2 家族への支援			○			
	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション				・加齢による心身の変化を理解し、高齢者に合わせたコミュニケーションの必要性を理解する。 ・先天性障害や中途障害、障害をもたらす二次障害を理解し、それらがコミュニケーションに及ぼす影響について考える。 ・視覚障害及び視覚障害のある人の理解を深め、介護従事者としてサービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 ・聴覚障害及び聴覚障害のある人を理解する。介護従事者としてサービス利用者の状況や状態に応じたコミュニケーションに必要な知識を身に付ける。		
1月	1 高齢者とのコミュニケーション	○		○			
	2 障害とコミュニケーション	○		○			
2月	3 視覚障害のある人とのコミュニケーション	○		○			
	4 聴覚障害のある人とのコミュニケーション	○		○			
3月	5 言語障害のある人とのコミュニケーション	○		○			
	6 運動機能障害のある人とのコミュニケーション	○		○			
4月	7 知的障害のある人とのコミュニケーション	○		○			
	8 認知症の人とのコミュニケーション	○		○			
5月	第3編 介護におけるチームのコミュニケーション 第1章 記録				・多様な介護場面におけるチームとしての連携と情報の共有化について基礎的な知識と技術を身に付ける。また、客観的な記録により利用者理解に繋がることを理解する。 ・記録の種類について理解する。 ・記録の方法を理解する。情報の保護について考える。 ・介護内容の振り返りと、見直しの技術を身に付ける。		
	1 記録の意義と目的	○	○				
6月	2 記録の種類	○					
	3 記録の方法と管理			○			
7月	4 振り返り			○			
	第2章 チームによる連携				・チームのコミュニケーションとして記録による情報の共有化の重要性を理解する。 ・専門職チームとして情報の共有化の方法を理解する。		
8月	1 チームのコミュニケーション	○	○				
	2 情報の共有化	○					
9月	3 会議による情報の共有化	○					
	第3章 スーパービジョンの技法				・介護従事者として、自身の能力の向上と成長させる方法としてのスーパービジョンを理解する。 ・スーパービジョンの方法を、演習をとおして身に付ける。		
10月	1 スーパービジョンとは	○					
	2 スーパービジョンの方法			○			

評価の観点と方法	
観点	① コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得したか。(知識・技能) ② コミュニケーション技術を習得し、介護現場や授業を通して実践することができたか。(思考・判断・表現) ③ コミュニケーションの必要性について自ら学び、積極的にコミュニケーションを図る姿勢を身につけることができたか。(主体的に取り組む態度)
方法	① 上にあげた観点を総合的に評価する。
使用教科書・副読本	検定教科書 コミュニケーション技術(実教出版) 新・介護福祉士養成講座 5. コミュニケーション技術(中央法規)
教材・道具等	ワークシート・DVDなど

科目名・単位数	介護実習(1年次)	(1)単位	学習レベル	基礎
---------	-----------	---------	-------	----

学習目標

- ① 基礎的な介護技術について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- ② 利用者の状態や状況に応じた介護技術についての課題を発見し、創造的に解決する。
- ③ 多様な介護の場について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

学期	学習内容		学習のねらい	備考
前期 (4月～9月)	4	1 オリエンテーション ベッドメイキング	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安楽に気を付け、利用者本位を考えたベッドメイキングの仕方を学ぶ。 ・各シーツの使用目的、適切な使用方法を理解した上で、素早く丁寧なベッドメイキングの仕方を学ぶ。 	ワークシート 演習
	5	2 ベッドメイキング	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安楽に気を付け、利用者本位を考えたベッドメイキングの仕方を学ぶ。 ・各シーツの使用目的、適切な使用方法を理解した上で、素早く丁寧なベッドメイキングの仕方を学ぶ。 ・ボディメカニクスの意味を理解し、うまく活用する技術を学ぶ。 	
	6	3 車イス介助	<ul style="list-style-type: none"> ・車イスの構造を理解し、適切な使用方法を学ぶ。 ・車イスを活用した移動、移乗の方法を学ぶ。 ・坂道や砂利道などにおける、車イス介助の技術を理解する。 	
	7	4 食事介助・口腔ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の楽しみを理解し、安全に気を付け、利用者のペースに合わせた食事介助の知識を理解する。 ・障害のある方への、食事介助に関する基本知識を理解する。 ・誤嚥に関する知識を身につけ、緊急時での対応法を学ぶ。 	
	9	5 歩行介助	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な形態の歩行介助に関する知識を学ぶ。 ・利用者本位に基づいた、安全な歩行介助技術を理解する。 	
後期 (10月～3月)	10	6 杖歩行	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害の特徴や介助の仕方を理解し、同行援護技術を学ぶ。 ・杖の種類や使用方法を学び、活用する技術を学ぶ。 	ワークシート 演習
	11・12	7 体位変換 シーツ交換	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスをうまく活用し、安全安楽な体位変換の介助技術を学ぶ。 ・シーツ交換の必要性や適切な方法を学ぶ。 	
	1・2	8 体位変換 シーツ交換	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスをうまく活用し、安全安楽な体位変換の介助技術を学ぶ。 ・シーツ交換の必要性や適切な方法を学ぶ。 	
	3	9 1年間の振り返り、次年度の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめを行い、学習理解の確認を行う。 	

評価の観点と方法

観点	
知識・技能	基礎的な介護技術について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。
思考・判断・表現	利用者の状態や状況に応じた介護技術についての課題を発見し、創造的に解決することができたか。
主体的に取り組む態度	多様な介護の場について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。
方法	
① 上にあげた観点を総合的に評価する。	
使用教科書・副読本	介護福祉基礎(実教出版)
教材・道具等	パワーポイント・DVD・ワークシート・福祉用具等

科目名・単位数	介護総合演習（1年次）	（ 1 ）単位	学習レベル	基礎
---------	-------------	---------	-------	----

学習目標

- ① 介護実習に必要な知識と技術を身につける。
- ② 介護実習の目標や計画、自己評価の方法を適切に行う。
- ③ 他者と協力しながら意欲的に活動し、介護実習の目的を果たすための方法を学ぶ。

学期	学習内容	学習のねらい	備考
前期 (4月～9月)	4月 介護総合演習の目的	<input type="checkbox"/> 年間の授業計画と準備する学習用具の確認を行う。	介護総合演習と介護実習の関係性を理解し、介護実習の目的を達成する。
	5月	<input type="checkbox"/> 介護総合演習の目的を理解する。	
	6月 介護実習の意義と目的	<input type="checkbox"/> 介護実習で何を学ぶのかを理解する。 <input type="checkbox"/> 介護実習に対して意欲を高める。	介護実習への事前準備、実施、振り返り、次期の課題設定というPDCAサイクルに基づいた学習方法を理解する。
	介護実習の事前学習 実習記録や日誌のまとめ方	<input type="checkbox"/> 介護実習の種類を理解し、実習の目標設定を行う。 <input type="checkbox"/> 介護実習の流れを理解する。 <input type="checkbox"/> 実習記録の意義を理解し、まとめ方を学ぶ。	
	7月	<input type="checkbox"/> 介護現場における情報モラルを理解する。 <input type="checkbox"/> 介護実習における自己評価の方法を学ぶ。	
9月 介護実習の振り返り	<input type="checkbox"/> 実習の振り返りを行い、成果・反省を整理する。 <input type="checkbox"/> 実習報告会の準備作業を通して、記録や資料の編集力を高める。		
後期 (10月～3月)	10月 介護実習報告会の準備作業 介護実習報告会の実施	<input type="checkbox"/> 実習報告会の準備作業を通して、ICTを活用した発表の仕方を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 実習発表を通して、実習生同士の成果・反省を共有し、様々な実習施設の機能を感じ取る。	夏期介護実習同様、PDCAサイクルに基づいた学習を実践する。 ICTを活用した調べ学習を通して、ICTに慣れ親しみながら施設の種類を学ぶ。
	11月	<input type="checkbox"/> 次期介護実習の事前授業 <input type="checkbox"/> 冬期介護実習に向けた事前授業	
	12月	<input type="checkbox"/> 介護実習後の振り返り	
	1月 介護実習施設の種類を学ぶ	<input type="checkbox"/> ICTを活用し、施設の種類や特徴を学ぶ。 訪問介護施設、通所介護、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、小規模多機能型の役割と機能を理解する。	
	2月		
	3月 1年間の学習のまとめ	<input type="checkbox"/> 1年間の振り返りを行い、次年度の学習目標の設定をする。	

評価の観点と方法

観点

知識・技術	介護実習に必要な知識と技術を身に付けている。
思考・判断・表現	介護実習の目標や計画、自己評価の方法を適切に行っている。
主体的に取り組む態度	他者と協力しながら意欲的に活動し、介護実習の目的を果たすための方法を身に付けている。

方法

- ・ 上記にあげた観点を総合的に評価する。

備考

- ・ 「総合的な探究の時間」の代替科目であるため、授業内容は調整しながら実施する。

使用教科書・副読本	使用教科書なし
教材・道具等	ワークシート

科目名・単位数	こころとからだの理解(2年次)	(2)単位	学習レベル	基礎
学習目標				
① 人間の欲求や発達課題、人体の構造や機能、生命維持の仕組みや人体各部の名称などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② こころとからだの基礎的理解を通して、サービス利用者の自立と尊厳を支える介護についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。 ③ こころとからだの基礎的理解について自ら学び、主体的かつ協動的に取り組める。				
学期	学習内容	学習のねらい	備考	
前期 (4月～10月)	第4編 認知症の理解 第1章 認知症をとりまく環境 1 認知症介護の歴史と理念 2 認知症高齢者の現状と今後 3 認知症に関する行政の方針と施策 第2章 認知症の基礎的理解	・認知症の医学的・心理的側面から原因や疾患及び段階に応じた心身の変化や心理状況を理解し、生活支援を行う根拠について扱う。 ・認知症高齢者の現状やについて理解する。 ・地域における認知症高齢者の支援体制や人材育成の必要性を理解する。	・教科書(実教出版、中央法規「こころとからだの理解」、「認知症の理解」) ・ワークシート演習	
	第1編 こころとからだの基礎的理解 第1章 こころのしくみの理解 第2章 からだのしくみの理解	・人間の心理的及び人体の構造や機能の基礎的な知識、生活場面に応じた心身の状況や機能低下を理解する。	・定期テスト	
後期 (10月～3月)	第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの 第1章 生活動作に関するこころとからだのしくみ 第2章 生活に関するこころとからだのしくみ 第3編 人間の発達と発達の基礎的理解 第1章 発達とは 第2章 老年期の理解と日常生活 第3編 高齢者と健康	生活支援の根拠として、サービス利用者の日常生活の全てに関連する行為や緊急時・災害時、終末期の心理的・身体的側面への基礎的な知識を習得する。 人間の成長と発達の過程における、身体的、社会的、心理的变化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な知識を身につける	・教科書(実教出版、中央法規「こころとからだの理解」、「認知症の理解」) ・ワークシート演習	
評価の観点と方法 観 点 ① 人間の欲求や発達課題、人体の構造や機能、生命維持の仕組みや人体各部の名称などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。(知識、技術) ② こころとからだの基礎的理解を通して、サービス利用者の自立と尊厳を支える介護についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決できている。(思考、判断、表現) ③ こころとからだの基礎的理解について自ら学び、主体的かつ協動的に取り組んでいる。(主体的に取り組む態度) 方 法 ① 上にあげた観点を総合的に評価する。				
使用教科書・副読本	教科書:こころとからだの理解(実教出版) 副読本:新・介護福祉士養成講座 発達と老化の理解、こころとからだのしくみ、認知症の理解(中央法規出版)			
教材・道具等	パワーポイント・DVD・人体モデル・ワークシート等			

科目名・単位数		介護過程 (2年次)	(2)単位	学習レベル	基礎
学習目標					
① 介護過程の意義や役割を理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② アセスメントや目標等の介護過程の展開について課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ③ 利用者主体の継続した介護過程の展開について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。					
学期	学習内容		学習のねらい	備考	
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション 第1編 介護過程の意義と目的 第1章 介護過程がめざすもの 第1節 生活支援と根拠にもとづいた介護	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備する。 ・根拠に基づいた介護の実践には、利用者視点での生活課題の解決を目的とした介護過程が必要であることを理解する。	・ワークシート	
	5月	第2節 介護過程の意義	・介護過程における各展開過程を理解するとともに、計画自体の意義について考察する。	・ワークシート	
	6月 7月	第3節 介護過程の目的・基本視点	・介護過程の目的を、日本国憲法にある基本的人権や生存権、幸福追求権を根拠に理解するとともに、実際に展開していく中で求められる視点について考察する。	・ワークシート	
	9月	第2編 介護過程の展開 第1章 情報収集とアセスメント 第1節 アセスメント	・アセスメントの目的や実施していくうえで必要とされる能力について理解するとともに、ICFの視点を活かした望ましいアセスメントのあり方を考察する。	・ワークシート	
後期 (10月～3月)	10月	第2節 情報の収集	・情報収集に関する手段や実際に収集していく中での留意点を理解するとともに、介護過程の中で情報収集が果たす役割について考察する。	・ワークシート	
	11月	第3節 情報の解釈・関連づけ・統合化	・収集した情報の解釈から関連づけ及び統合化、その後の課題の明確化までの一連の流れについて考察する。	・ワークシート	
	12月	第4節 課題の明確化	・抽出された課題をいかに利用者のニーズに対応した形にしていくか、その方法について考察する。		
	1月	第5節 情報の記載の方法	・得られた情報をいかに整理するか、フェイスシートへの記載を中心にその方法を理解する。	・ワークシート	
	2月	第2章 生活課題の目標の設定 第1節 目標の設定	・介護目標を長期、短期に設定することで、目標達成に向けた段階的な取り組みの必要性を理解するとともに目標設定の留意点について考察する。併せて、介護専門委員が作成する施設及び居宅におけるケアプランと介護職が作成する個別介護計画の概要、互いに果たしている役割について学ぶ。	・ワークシート	
3月	第2節 目標の共有化	・介護目標の達成には、介護職として利用者、家族、多職種との課題や情報の共有が必要不可欠であることを理解する。	・ワークシート		
評価の観点と方法					
観点 ① 介護過程の意義や役割を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。(知識、技術) ② アセスメントや目標等の介護過程の展開について課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。(思考、判断、表現) ③ 利用者主体の継続した介護過程の展開について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。(主体的に取り組む態度)					
方法					
① 上にあげた観点を総合的に評価する。					
使用教科書・副読本		介護過程(実教出版)			

科目名・単位数	介護実習(2年次)	(2)単位	学習レベル	基礎
---------	-----------	---------	-------	----

学習目標

- ① 介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけるようにする
- ② 介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	学習内容		学習のねらい	備考
前期 (4月～9月)	4	1 生活支援と介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防について学ぶ。 ・介護保険における介護予防の視点を理解する。 ・生活における介護予防の視点を理解する。 ・演習を通して、介護予防を目的としたレクリエーション支援技術について考える。 	ワークシート 演習
	5	2 介護福祉サービスにおけるレクリエーション支援の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権としてのレクリエーションを学ぶ。 ・楽しみを目的としたレクリエーション活動の支援や評価方法を理解する。 ・演習を通して、レクリエーション活動を楽しむ支援技術について考える。 	ワークシート 演習
	6	3 レクリエーションのもつ意味	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションの生い立ちについて学ぶ。 ・福祉領域でのレクリエーションの意味と役割について理解する。 	ワークシート
	7	4 レクリエーション活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションの主体について理解する。 ・個別的レクリエーションとグループレクリエーションの活用方法を考える。 ・演習を通して、安全で楽しいレクリエーション支援技術について考える。 	ワークシート 演習
	9	5 レクリエーション活動の援助とは	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション計画の過程について理解する。 ・演習を通して、介護実習に向けて計画したレクリエーション活動を発表する。 	ワークシート 演習
後期 (10月～3月)	10	6 レクリエーションの視点と介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション活動におけるチームケアについて理解する。 ・レクリエーション支援者の具体的な業務について理解する。 	ワークシート
	11・12	7 レクリエーション支援の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者へのレクリエーション支援について理解する。 ・障害者へのレクリエーション支援について理解する。 ・演習を通して、多様な利用者へのレクリエーション支援技術について考える。 	ワークシート 演習
	1・2	8 レクリエーション支援の実践 －繁多川公民館ミニデイサービス－	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーション計画に基づいた、レクリエーション活動の実践を行い、利用者への支援技術を習得する。 	ワークシート 実践
	3	9 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめを行い、学習理解の確認を行う。 	ワークシート

評価の観点と方法

観点

- ① 介護予防の意義とレクリエーション活動の役割について理解することができたか。(知識・技能)
- ② 目的や対象にあわせたレクリエーション支援技術を身につけることができたか。(思考・判断・表現)
- ③ レクリエーション計画を立案し、繁多川公民館ミニデイサービスで実践することができたか。(主体的に学習に取り組む態度)

方法

- ① 上にあげた観点を総合的に評価する。

使用教科書・副読本	新・介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I
教材・道具等	パワーポイント・DVD ・ワークシート・レクリエーション活動物品等

科目名・単位数		介護総合演習（2年次）（1）単位		学習レベル	応用
学習目標					
① 介護実習を行う施設や、介護実習の目的を理解する。 ② 介護実習に関する目標設定、計画、評価を行う。 ③ 介護実習の準備を通し、自らの学ぶ姿勢を身につける。					
学期	学習内容		学習のねらい	備考	
前期 (4月～9月)	4月	施設の概要について(訪問介護) 施設の概要について(通所介護)	<input type="checkbox"/> 訪問介護のサービス内容や利用者像及び地域環境を理解する。 <input type="checkbox"/> 通所介護のサービス内容や利用者像及び地域環境を理解する。	介護実習を行う施設の種類のついて、ICTを活用しながら調べることができる。 介護実習における学習体制の目的を理解し、習慣化する。また、次期介護実習へ備える。	
	5月	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 グループホーム	<input type="checkbox"/> 特養のサービス内容や利用者像及び地域環境を理解する。 <input type="checkbox"/> 老健のサービス内容や利用者像及び地域環境を理解する。 <input type="checkbox"/> グループホームのサービス内容や利用者像及び地域環境を理解する。		
		小規模多機能型居宅介護 軽費老人ホーム	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護のサービス内容や利用者像を理解する。 <input type="checkbox"/> 軽費老人ホームのサービス内容や利用者像及び地域環境を理解する。		
	6月	情報モラル 実習日誌作成の目的と方法、練習 自己評価の目的と方法	<input type="checkbox"/> 介護施設における情報モラル(個人情報保護法、リスクマネジメント) <input type="checkbox"/> 介護実習の目的と日誌の作成方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 介護実習に対する自己評価の意義を理解する。		
	7月	自己評価の仕方(ICTの活用) 介護実習に対する心構え	<input type="checkbox"/> ICTを活用した自己評価方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 介護実習オリエンテーションを通して、心構えを確認する。		
	9月	介護実習の振り返り① 介護実習の振り返り②	<input type="checkbox"/> 介護実習Ⅰから学んだ知識と技術を振り返る。 <input type="checkbox"/> 介護実習Ⅰの振り返りから見つけた課題を設定する。		
後期 (10月～3月)	10月		<input type="checkbox"/> 設定した課題に対して、対策を計画し実践する。 <input type="checkbox"/> 設定した課題に対して、対策を計画する。	地域福祉に関する研究を行う。	
	1月	実習事例検討①	<input type="checkbox"/> 介護実習で学んだ知識と技術をいかし、地域福祉について考え、支援体制を計画する。		
	2月	実習事例検討② 実習事例検討③	<input type="checkbox"/> 地域福祉について計画したことを、実践する。 <input type="checkbox"/> 地域福祉について実践したことを、振り返る。		
	3月	次年度介護実習への課題設定	<input type="checkbox"/> 次年度介護実習への課題設定		
評価の観点と方法					
観点					
知識・技能		介護実習を行う施設や、介護実習の目的を理解している。			
思考・判断・表現		介護実習に関する目標設定、計画、評価を行っている。			
主体的に取り組む態度		介護実習の準備を通し、自らの学ぶ姿勢を身につけている			
方法					
① 上にあげた観点を総合的に評価する。					
使用教科書・副読本		新・介護福祉士養成講座 9. 介護総合演習(中央法規)			
教材・道具等		・ビデオ、DVD、ワークシート			

科目名・単位数	社会福祉基礎(2年次)	(2)単位	学習レベル	基礎	
学習目標 ①社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会構造の変容やライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのような影響を及ぼしているか考える力を身に付ける。 ②現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解し、社会福祉の基本的な見方や考える力を身に付ける。 ③対人援助のあり方や社会福祉制度の基礎的な理解のもと、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の向上を図る能力と態度を身に付ける。					
学期	学習内容	学習のねらい	補助教材		
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション 第1編 社会福祉の理念と意義 第1章 生活と福祉 1 少子高齢化と人口減少社会の到来 2 地域社会の変化 3 生活の変化 4 疾病構造の変化と国民の健康づくり 5 人の一生と社会福祉 第2章 社会福祉の理念 1 日本国憲法と社会福祉 2 現代の福祉理念 3 社会福祉を支える諸原理 第3章 人間の尊厳と福祉社会の創造 1 人間としての尊厳 2 自立生活支援 3 福祉社会の創造 第2編 社会福祉の歴史と福祉社会の課題 第1章 諸外国における社会福祉 1・2 イギリスの社会福祉の発展 3・4 アメリカの社会福祉の発展 5・6 北ヨーロッパの社会福祉 7 アジア少子高齢化と社会福祉の課題 9月	<input type="checkbox"/> 年間の授業計画と基本的な心構えを準備する。 <input type="checkbox"/> 進行する少子高齢化と人口減少の中での社会福祉が担う役割を考察する。 <input type="checkbox"/> 人間に内在する「人間の尊厳」という価値を理解し、福祉サービス利用者に対する自立支援のあり方を考察する。 <input type="checkbox"/> 世界の社会福祉の成り立ちについて考察すると共に、東西問わずに社会福祉の発展について理解する。	動画資料 新聞記事 DVD 新聞記事		
	後期 (10月～3月)	第2編 社会福祉の歴史と福祉社会の課題第2章 日本における社会福祉 1 近代社会福祉の誕生と先覚者 2 「地域福祉」の始まり 3 社会事業への着手 4 戦後の混乱期から福祉三法体制の確立へ 5 高度経済成長時代と社会福祉六法 6 福祉改革とゴールドプラン 7 少子化への対応・次世代の育成支援に向かって 第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度第1章 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 1 社会保障制度の意義と役割 2 社会福祉と社会保障制度 3 社会福祉を推進する機関 第2章 子ども家庭福祉 1 少子化時代の子ども子育て支援 2 子育て支援と保育 3 障がいのある子どもの福祉 4 子どものすこやかな成長への支援 5 市町村と児童相談所の役割 6 社会的養護と児童虐待への対応 7 子どもの貧困とひとり親家庭の支援 8 子どもの権利と子ども家庭福祉	<input type="checkbox"/> 社会福祉の基軸である社会福祉六法について理解するとともに、今後の社会福祉のあり方について考察する。 <input type="checkbox"/> 社会保障制度における社会福祉の位置づけを理解し、地域社会の中で求められる社会福祉のあり方について考察する。 <input type="checkbox"/> 社会的養護の制度的な仕組みや児童虐待の実態、児童虐待防止法について理解するとともに、対応のあり方について考察する。	新聞記事 DVD 新聞記事	
評価の観点と方法 観 点 【知識・技能】社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得しており、社会構造の変容やライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのような影響を及ぼしているか考える力を身に付けている。 【思考・判断・表現】現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解しており、社会福祉の基本的な見方や考える力を身に付けている。 【主体的に取り組む態度】対人援助のあり方や社会福祉制度の基礎的な理解のもと、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決しており、社会福祉の向上を図る能力と態度を身に付けている。					
方 法 定期考査の成績、プリント・レポートなどの提出物の内容、発表の仕方や内容、学習活動への参加の態度など`総合的に評価する。					
使用教科書・副読本	検定教科書 社会福祉基礎 (実教出版) 新・介護福祉士養成講座 2. 社会と制度の理解 (中央法規)				
教材・道具等	新聞記事・DVDなど				

科目名・単位数	生活支援技術(2年次)	(5)単位	学習レベル	基礎
学習目標				
① QOLの向上を目指した生活支援の意義や役割を理解し、基礎的な知識・技術を身につけることができる。 ② 基礎的な知識と技術を基に、利用者の心身の状況や各介護場面における支援方法を考察し、実践する事ができる。 ③ ICFの視点に基づいてアセスメントし、自立生活に向けた適切な支援に主体的かつ協働的に取り組むことができる。				
学期	学習内容	学習のねらい	備考	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション 第1編 私たちの暮らしと生活支援 第1章 生活支援の理解 第1節 生活に視点を置く 第2節 生活支援の考え方 第3節 他の職種との役割と協働 第2章 生活支援に向けたアセスメント 第1節 生活支援におけるアセスメント 第2節 ICFの視点とアセスメント	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備する。 ・要介護者や家族の生活を重視した介護のあり方を考察する。 ・個人の尊厳が持つ価値について理解し高齢者や障害者に対する自立生活支援のあり方を考察する。 ・介護現場に求められるチームアプローチのあり方を考察する。	全ての項目において、ワークシートを使用し、演習する。 また、他科目と関連して行う。	
	6月 7月 第2編 自立に向けた生活支援技術 第1章 居住環境の整備 第1節 生活支援における居住環境整備の意義・基本理念 第2節 安心して快適な生活の場づくり	・利用者及びその家族が抱えるニーズの把握に向けた関わり方を考察する。 ・ICFを活用したアセスメントの方法を詳しく考察する。 ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの考えに基づいた居住環境について理解する。 ・利用者の安心して快適な生活の構築に向けたその手法を習得する。		
	9月 第2章 家事の介護 第1節 家事の支援の意義と目的 第2節 家事支援における介護技術	・家事の介護を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた家事介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
	10月 第3章 身じたくの介護 第1節 身じたくの意義と目的 第2節 身じたくにおける介護技術	・身じたくの介護を理解し、ICFの視点を活かした望ましい介護のあり方を考察する ・利用者の状況に応じた身じたくの介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
後期 (10月～3月)	11月 第4章 移動の介護 第1節 移動の意義と目的 第2節 移動・移乗における介護技術	・移動介護を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
	12月 第5章 食事の介護 第1節 食事の意義と目的 第2節 食事における介護技術	・食事の意義を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
	1月 第6章 入浴・清潔保持の介護 第1節 生活を支える入浴・生活保持の介護 第2節 入浴・清潔保持における介護技術	・入浴と清潔保持の意義を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
	2月 第7章 排せつの介護 第1節 自立生活を支える排せつ介護 第2節 排せつにおける介護技術	・排せつの介護を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
3月 第8章 睡眠の介護 第1節 睡眠の意義 第2節 睡眠における介護技術 まとめ	・睡眠の意義を理解し、ICFの視点を活かした支援のあり方を考察する。 ・利用者の状況に応じた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・1年間のまとめを行い、学習理解の確認を行う。			
評価の観点と方法				
観点 ① QOLの向上を目指した生活支援の意義や役割を理解し、基礎的な知識・技術を身につけることができたか。(知識・技能) ② 基礎的な知識と技術を基に、利用者の心身の状況や各介護場面における支援方法を考察し、実践する事ができたか。(思考・判断・表現) ③ ICFの視点に基づいてアセスメントし、自立生活に向けた適切な支援に主体的かつ協働的に取り組むことができたか。(主体的に取り組む態度)				
方法 ① 上にあげた観点を総合的に評価する。				
使用教科書・副読本	教科書:生活支援技術(実教出版) 副読本: 新・介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術Ⅰ 7. 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版)			
教材・道具等	パワーポイント・DVD・福祉用具・ワークシート等			

科目名・単位数	こころとからだの理解(3年次)	(4)単位	学習レベル	応用
---------	-----------------	---------	-------	----

学習目標

- ① 自立生活を支援するために必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ② 自立生活を支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	学習内容	学習のねらい	備考
----	------	--------	----

前期 (4月～9月)	オリエンテーション 第4章 老化に伴うからだの変化と日常生活 1 老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響 2 免疫機能と日常生活への影響 3 感覚機能の変化と日常生活への影響 4 咀嚼機能・消化機能の変化 5 循環器の機能の変化 6 呼吸器の機能の変化 7 筋、骨、関節の機能の変化 8 泌尿器・生殖機能の変化 9 体温維持機能の変化 第5章 高齢者と健康 1 高齢者の症状・疾患の特徴 2 高齢者に多い症状・訴えとその留意点	・年間の授業計画と基本的な心構え、評価方法について確認する。 ・多側面にわたる身体的老化現象を理解する。 ・老化に伴い、日常生活がどのように変化しやすいのかを理解する。 ・関連領域との連携を推進するための知識を学ぶ。 ・加齢により低下する機能と、維持・向上する機能があることを理解する。 ・個々のおかれた環境や経験の違いから、個人差があることを理解する。 ・高齢者の健康が近年注目されるようになった背景について学ぶ。 ・高齢者の症状・疾患として共通してみられる特徴について理解する。	ワークシート ペア・グループワーク 定期テスト ワークシート 定期テスト
---------------	--	--	--

後期 (10月～2月)	第5編 障害の理解 第1章 障害の基礎的理解 1 障害の概念 2 障害者福祉の基本理念 第2章 生活機能障害の理解 1 身体障害 2 精神障害 3 知的障害 4 発達障害 5 高次脳機能障害 6 難病 第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活 1 障害のある人の心理 2 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響 第4章 障害と地域生活支援 1 地域におけるサポート体制 2 家族への支援	・障害者基本法の成立の過程と概要について理解する。 ・障害者福祉に関する用語が作られた経緯から、基本理念を理解する。 ・身体障害の現状と、生活上の困難について考察する。 ・精神障害者の現状と、生活上の困難について理解する。 ・知的障害者の現状と特徴に伴う生活上の困難について理解する。 ・発達障害者の現状と特徴に伴う生活上の困難について理解する。 ・高次脳機能障害者の特徴と社会的支援について理解する。 ・難病患者の生活の現状、生活上の困難について理解する。 ・障害の受容過程を事例を通して理解し、どのような支援が必要か考察する。 ・障害者の自立生活の支援に必要な、全人的理解とは何か理解する。 ・生活支援の特徴から地域生活支援におけるチームアプローチを考察する。 ・家族の障害受容の過程について理解し、必要な支援について考察する。	ペア・グループワーク ワークシート 定期テスト ペア・グループワーク ワークシート 定期テスト
----------------	---	---	--

評価の観点と方法

観点

- ① 自立生活を支援するために必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。(知識・技術)
- ② 自立生活を支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。(思考・判断・表現)
- ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。(主体的に取り組む態度)

方法

上にあげた観点を総合的に評価する。

使用教科書・副読本	教科書:こころとからだの理解(実教出版) 副読本:新・介護福祉士養成講座 障害の理解、こころとからだのしくみ(中央法規出版)
教材・道具等	パワーポイント・DVD・人体モデル・ワークシート等

科目名・単位数		介護過程(3年次)		(2)単位	学習レベル	応用	
学習目標							
① 人間の尊厳保持と自立支援の観点から介護過程の意義と役割を理解する。 ② サービス利用者の希望を尊重した個別援助計画を展開する能力を身につける。 ③ 介護過程の各展開に必要な知識・技術を理解し、自ら考え、個別支援計画書を作成することができる。							
学期	学習内容		学習のねらい		備考		
前期 (4月～9月)	4月	オリエンテーション 第2編 介護過程の展開 第2章 生活課題と目標の設定 1 目標の設定 2 目標の共有化	・年間の授業計画と基本的な心構えを準備する。 1. 介護目標の長期、短期に設定することで、目標達成に向けた段階的な取り組みの必要性を理解するとともに目標設定の留意点について考察する。併せて、介護支援専門員が作成する施設及び居宅におけるケアプランと介護職が作成する個別介護計画の概要、互いに果たしている役割についても学ぶ。 2. 介護の目標の達成には、介護職としての利用者、家族、他職種との課題や情報の共有が必要不可欠であることを理解		1 ワークシート		
	5月	第3章 介護計画の立案 第1節 介護計画の概要 第2節 個別介護計画の立案	介護計画の概要について理解するとともに、介護職としての計画を立案していくうえで求められる視点について考察する。 個別介護計画が持つ意義と目的について理解するとともに、介護目標の実現に向けた取り組み方を具体的に考察する。		2 ワークシート 3 ワークシート		
	6月	第4章 介護計画の実施と評価 第1節 介護計画の実施 第2節 介護過程のモニタリング	介護計画を実施していく中で行う実施状況の把握や記録の意義、目的を理解するとともに介護職として求められる視点を考察する。 介護過程における評価の意義、目的を理解するとともにその評価の際の留意点について介護職の視点で考察する。		5 ワークシート 個別援助計画票	6 ワークシート	
	7月	第3編 介護過程の実践展開 第1章 介護過程の展開の実際 第1節 アセスメントの実際	高齢者の事例を活用し、ICFの視点による実際のアセスメントの方法を具体的に理解する。		7 ワークシート		
	8月	第2節 評価の実際	障害のある人の事例を活用し、個別介護計画にそった介護の実践に対する評価の方法を具体的に考察する。		8 ワークシート		
	9月	第4編 介護過程とチームアプローチ 第1章 介護過程とチームアプローチの意義					
後期 (10月～2月)	10月	第1節 チームアプローチが持つ意義 第2節 多職種連携	チームアプローチが持つ意義を理解するとともにチームアプローチ運営の望ましい、あり方を考察する。 利用者の生活課題の解決に向け、チーム内における介護職としての役割を理解するとともに、多職種としての役割を理解するとともに、多職種と円滑に連携を深めていく上での方法を具体的に考察する。		9 ワークシート	10 ワークシート	
	11月	第2章 介護過程とチームアプローチの実際 第1節 施設介護におけるチームアプローチ	事例を題材に施設での専門職による連携のあり方を理解するとともに、チームアプローチを図る上で介護職に求められる姿勢を考察する。		11 ワークシート		
	12月～1月	第2節 在宅介護におけるチームアプローチ	事例を題材に在宅福祉サービスでの専門職による連携のあり方を理解するとともに、チームアプローチを図る上で介護職に求められる姿勢を考察する。		12 ワークシート		
	2月						
評価の観点と方法							
観点 ① 人間の尊厳保持と自立支援の観点から介護過程の意義と役割を理解することができたか。 ② サービス利用者の希望を尊重した個別援助計画を展開する能力を身につけることができたか。 ③ 介護過程の各展開に必要な知識・技術を理解し、自ら考え、個別支援計画書を作成することができる。							
方法 ① 上にあげた観点を総合的に評価する。							
使用教科書・副読本	(実教出版)「介護過程」、副読本(新・介護福祉士養成講座 介護過程(中央法規出版))						
教材・道具等	フェイスシート、個別援助計画票、事例集、パソコン						

科目名・単位数	介護実習(3年次)	(3)単位	学習レベル	応用
---------	-----------	---------	-------	----

学習目標

- ① 介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに。関連する技術を身に付ける。
- ② 介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- ③ 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	学習内容		学習のねらい	備考
前期 (4月～9月)	4	対人援助に必要な基礎的・基本的なコミュニケーション技術	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティを通した、対人援助に必要なコミュニケーションについて学ぶ。 ・介護の原則は、個別ケアであることを理解する。 ・コミュニケーションを円滑に図るために、関連する技術を学ぶ。 ・演習を通して、個別・集団ワークができる技術を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク ・個別ワーク
	5	利用者の状態に応じた介護技術	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の状態に応じた介護技術について学ぶ ・サービス利用者の介護の状態に応じた、介護計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループワーク ・個別ワーク
	6	個別的な介護技術の実践と介護過程の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用者や家族とのコミュニケーション方法について実践的に学ぶ ・サービス利用者が望む継続的な生活や自己実現を支援する方法について学ぶ。 ・個々の生活課題に応じた介護過程の計画や実施等について学ぶ。 	演習
	7	多職種協働及びチームケアの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生活課題について、自立生活支援のための多職種協働について学ぶ 	演習
	～		<ul style="list-style-type: none"> ・多職種との協働の中で介護従事者としての役割を理解する。 	
9		<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議やカンファレンスを学び、多職種協働やチームケアの重要性について学ぶ。 		
後期 (10月～2月)	10	個別的な介護技術の実践と介護過程の実践の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・個別的な介護技術と介護過程の実践について、振り返り資料をまとめる。 	
	11	個別支援計画の実践について	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画の実践・成果等を発表する。 	演習
	12	地域における継続した生活支援方法	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における様々な場におけるサービス利用者の生活や家族も含めた支援のあり方について学ぶ。 	ワークシート グループワーク
		利用者の状態に応じた介護計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・介護や障害の状態に応じた、支援方法について学び、計画を立てる。 	個別ワーク及び グループワーク
	1	個人情報保護やリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護やリスクマネジメントについて学び、職業人に求められる倫理観を深める。 	ワークシート
2	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> これまでの内容を振り返り、自己の課題やこれからの目標について整理、明確化する。 	ワークシート グループワーク	

評価の観点と方法

観点	
知識・技能	介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに。関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けた。
主体的に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けた。

方法

- ① 上にあげた観点を総合的に評価する。

使用教科書・副読本 教科書：生活支援技術(実教出版)、介護過程(実教出版社)、副読本：生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(中央法規)

教材・道具等 パワーポイント・DVD・福祉用具・ワークシート等

科目名・単位数	介護総合演習（3年次）	（ 1 ）単位	学習レベル	応用
---------	-------------	---------	-------	----

学習目標				
① 介護実習Ⅱの内容について理解し、実習目標や計画を立てることができる。 ② 自立に配慮した個別援助計画の立案・実践ができる能力を身につける。 ③ 演習・実習の目標達成度の評価を行い、自己の介護観・職業観の構築を行う。				

学期	学習内容	学習のねらい	備考
前期 (4月～9月)	4月 実習モデル①	□利用者を取り巻く社会の支援体制を理解する。	・ワークシート
	5月 実習Ⅱのねらいと実習モデル 想定される実習Ⅱのモデル 介護過程を展開する実習	□実習Ⅱのねらいを理解する。 □実習Ⅱの目的を理解し、実習計画を立てる。 □介護過程の展開方法を理解する。	・ワークシート
	6月 介護に必要な情報収集 情報の解釈と関連づけ	□介護に必要な情報収集方法を理解する。 □情報の解釈と関連づけ、生活課題の分析方法を理解する。	・ワークシート
	7月 介護計画が立案できる	□介護計画の立案方法を理解する。	・ワークシート
	9月 評価について	□目標達成の評価方法を理解する。	・ワークシート
後期 (10月～2月)	10月 実習の振り返り	□実習の振り返り・評価・反省を行う。	・ワークシート
	11月 個別援助計画発表会の準備作業	□個別援助計画をまとめあげ、発表会の準備を行う。発表に必要な資料整理、まとめる力を身につける。	・パソコン
	12月 個別援助計画発表会の実施	□個別援助計画発表会の実施を行い、プレゼンテーション能力を高める。また他ケースの計画実践を聞き、生活支援の多様性を理解する。	・評価シート
	1月 資格取得時の到達目標の評価	□資格取得時の到達目標の評価を行う。	
	2月 演習課題による全体のまとめ	□介護実習の目標達成度の評価を行い、自己の介護観・職業観の構築を行う。	・ワークシート

評価の観点と方法				
観 点 ① 実習Ⅱの内容について理解し、実習目標や計画を立てることができたか。 ② 自立に配慮した個別援助計画の立案・実践ができる能力を身につけることができたか。 ③ 演習・実習の目標達成度の評価を行い、自己の介護観・職業観の構築を行うことができたか。				
方 法 ① 上にあげた観点を総合的に評価する。				

使用教科書・副読本	
教材・道具等	・ビデオ、DVD、パソコンなど

科目名・単位数		介護福祉基礎(3年次)		(2)単位	学習レベル	応用				
学習目標										
① 介護福祉士の役割と多職種連やチームケアの実践方法について理解する。 ② サービス利用者の尊厳保持や自立を促す介護サービスについて理解する。 ③ サービス利用者や介護者自身のリスクマネジメント能力・健康管理意識を身につける。										
学期	学習内容			学習のねらい		備考				
前期 (4月～9月)	4	第4編 介護の担い手	第1章 介護従事者をとりまく状況	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士が誕生した社会的背景及び資格の取得方法や養成の現状について理解する。 福祉サービス需要の増大に対応できる介護福祉人材確保についてEPAIに関連づけて考察する。 介護従事者のキャリアアップについて具体的な方策(自己研鑽など)を理解する。 介護従事者の社会的地位向上のための支援について理解する。 	全ての項目において、ワークシートを使用し、演習する。 また、他科目と関連して行う。					
			1. 介護福祉士の養成							
			2. 介護人材の確保と定着							
			3. 介護従事者のキャリアアップ研修							
	5	第5編 介護福祉サービスの概要と連携	4. 介護従事者の社会的地位向上	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士に求められる資質と、専門性の確立の必要性について考察し理解する。 専門職者としての在宅介護への関わり方について考察する。 専門職者としての施設介護への関わり方について考察する。 						
			第2章 介護従事者の役割							
			1. 介護の役割、介護従事者の役割							
	6	第6編 介護における安全確保と危機管理	2. 在宅介護従事者の役割	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度のサービス利用までの流れ、ケアマネジメントについて理解する。 在宅サービスの役割、特徴を理解する。 居宅介護サービスの必要性を考察する。各種の居宅介護サービスについて理解する。 施設サービスの役割や特徴について理解する。 障害者自立支援法の概要と、サービス内容、サービス利用の手続きについて理解する。 障害者支援サービスの実際を、事例をとし理解する。 						
			3. 施設介護従事者の役割							
第1章 介護サービスの概要										
1. 介護サービスの利用方法										
2. 介護サービス提供の場の特性(在宅)										
7	第7編 介護福祉サービスの概要と連携	3. 居宅介護サービス(福祉系)	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者の自己の健康管理の大切さを理解し、その方法を理解する。 介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解する。 介護従事者自身の身体を守るための健康管理の具体的な方法について理解する。 介護従事者の権利保障として、根拠となる法律を把握する。また、重量物の取り扱いに関する留意点、介護機器の有効活用について理解する。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をとし理解する。 							
		4. 居宅介護サービス(医療系)								
9	第8編 介護福祉サービスの概要と連携	5. 介護サービス提供の場の特性(施設)	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者の自己の健康管理の大切さを理解し、その方法を理解する。 介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解する。 介護従事者自身の身体を守るための健康管理の具体的な方法について理解する。 介護従事者の権利保障として、根拠となる法律を把握する。また、重量物の取り扱いに関する留意点、介護機器の有効活用について理解する。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をとし理解する。 							
		6. 施設サービス								
		7. 障害者支援サービス								
後期 (10月～2月)	第9編 介護福祉サービスの概要と連携	8. 障害者支援サービスの実際	<ul style="list-style-type: none"> 介護に関わる様々な職種について理解し、チームケアの目的と意義について考察する。 医療を必要とする要介護者の実態を理解し、医療従事者との連携について考察する。 介護支援専門員の役割を理解し、ケアチームの目的、意義、効果について考察する。 ボランティアの役割、介護従事者との協働について理解する。 リスクマネジメントの方法、介護事故の特性と対応の基本について理解する。 事例を通して、介護の現場で起こる事故の要因について分析と対応、組織としての事故防止対策について考察する。 身体拘束が原則禁止となった背景を理解し、身体拘束をしない介護の3つの原則について考察する。また、やむを得ず身体拘束をする場合の手続きについて理解する。 福祉施設における防災対策を理解し、防災対策の重要性を理解する。 感染症を予防方法を考察、予防のための実際について理解する。また、介護施設における感染対策や感染管理の必要性について理解する。 感染経路、症状について理解し、感染対策について考察する。 介護従事者の自己の健康管理の大切さを理解し、その方法を理解する。 介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解する。 介護従事者自身の身体を守るための健康管理の具体的な方法について理解する。 介護従事者の権利保障として、根拠となる法律を把握する。また、重量物の取り扱いに関する留意点、介護機器の有効活用について理解する。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をとし理解する。 							
		第2章 介護における連携								
		1. 多職種連携とチームケア								
		2. 介護と医療								
		3. 介護支援専門員とケアチームの連携								
		10		第10編 介護における安全確保と危機管理	4. 介護従事者とボランティアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者の自己の健康管理の大切さを理解し、その方法を理解する。 介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解する。 介護従事者自身の身体を守るための健康管理の具体的な方法について理解する。 介護従事者の権利保障として、根拠となる法律を把握する。また、重量物の取り扱いに関する留意点、介護機器の有効活用について理解する。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をとし理解する。 				
		第1章 介護における安全確保と事故対策								
		1. 介護におけるリスクマネジメント								
		2. 事故予防対策								
		3. 転倒・転落事故								
11	第11編 介護における安全確保と危機管理	4. 身体拘束の禁止について	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者の自己の健康管理の大切さを理解し、その方法を理解する。 介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解する。 介護従事者自身の身体を守るための健康管理の具体的な方法について理解する。 介護従事者の権利保障として、根拠となる法律を把握する。また、重量物の取り扱いに関する留意点、介護機器の有効活用について理解する。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をとし理解する。 							
5. 防災対策										
第2章 感染対策										
1. 感染症の理解										
2. 感染症の予防対策										
12		第12編 介護における安全確保と危機管理		3. 介護現場で出会うこと多い感染症	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者の自己の健康管理の大切さを理解し、その方法を理解する。 介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解する。 介護従事者自身の身体を守るための健康管理の具体的な方法について理解する。 介護従事者の権利保障として、根拠となる法律を把握する。また、重量物の取り扱いに関する留意点、介護機器の有効活用について理解する。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をとし理解する。 					
第3章 介護従事者の健康管理										
1. 健康管理の重要性										
2. 心の健康管理										
3. からだの健康管理										
1	第13編 介護における安全確保と危機管理		4. 労働安全衛生に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者の自己の健康管理の大切さを理解し、その方法を理解する。 介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解する。 介護従事者自身の身体を守るための健康管理の具体的な方法について理解する。 介護従事者の権利保障として、根拠となる法律を把握する。また、重量物の取り扱いに関する留意点、介護機器の有効活用について理解する。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をとし理解する。 						
5. 家族介護者の健康										
2			第14編 介護における安全確保と危機管理			5. 家族介護者の健康	<ul style="list-style-type: none"> 介護従事者の自己の健康管理の大切さを理解し、その方法を理解する。 介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解する。 介護従事者自身の身体を守るための健康管理の具体的な方法について理解する。 介護従事者の権利保障として、根拠となる法律を把握する。また、重量物の取り扱いに関する留意点、介護機器の有効活用について理解する。 家族の介護負担を軽減するための支援事業について、事例をとし理解する。 			
5. 家族介護者の健康										
評価の観点と方法										
観点										
知識・技術		介護福祉士の役割と多職種連やチームケアの実践方法について理解することができたか。								
思考・判断・表現		サービス利用者の尊厳保持や自立を促す介護サービスについて理解することができたか。								
主体的に取り組む態度		サービス利用者や介護者自身のリスクマネジメント能力・健康管理意識を身につけることができたか。								
方法										
①上にあげた観点を総合的に評価する。										
使用教科書・副読本		介護福祉基礎(実教出版)、新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ・Ⅱ(中央法規出版)								

科目名・単位数	社会福祉基礎(3年次)	(2)単位	学習レベル	基礎
学習目標				
①社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会構造の変容やライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのような影響を及ぼしているか考える力を身に付ける。 ②現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解し、社会福祉の基本的な見方や考える力を身に付ける。 ③対人援助のあり方や社会福祉制度の基礎的な理解のもと、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の向上を図る能力と態度を身に付ける。				
学期	学習内容	学習のねらい	補助教材	
前期 (4月～9月)	4月 第3章 障害者福祉 1 障害者福祉とは 2 身体障害者の現状と課題 3 身体障害者福祉の推進 4 障害者の生活支援 5 知的障害者の現状と課題 6 知的障害者の在宅支援と施設の役割 8 障害者グループホーム 9 発達障害をめぐる多様な課題と支援 10 精神障害者の支援 11 障害者福祉の今後 第4章 高齢者福祉 1 人口の高齢化と高齢者福祉 2 高齢者の健康保持と社会参加 6月 3・4 介護保険制度 5・6 高齢者の在宅サービス 7 認知症ケア 8 介護保険施設 9 老人福祉施設その他 10 高齢者の地域生活を支える各種サービス 7月 11 高齢者福祉の将来 第5章 生活のための公的扶助 1 生活保護とは 2 生活保護の種類と基準 3 生活保護の実施運営体制と動向の傾向 4 生活資金の支援制度・ホームレスの自立支援 第6章 国民生活を支える社会保障制度 1 日本の社会保険制度の枠組み 2 健康保険・国民健康保険 3 高齢者医療制度等 4 公的年金制度の体系 5 公的年金の給付 6 雇用保険と労災保険	<input type="checkbox"/> 年間の授業計画と基本的な心構えを準備する。 <input type="checkbox"/> ノーマライゼーション思想や自立生活運動等の障害者福祉の意義について考察する。 <input type="checkbox"/> 発達障害者支援法を中心とした発達障害者に対する支援体制を理解し、多様化する課題やニーズにどのように向き合っていくか考察する。 <input type="checkbox"/> 介護保険制度成立までの経緯、概要について理解する。改正の趣旨、施設の再編、高齢者虐待防止、福祉人材確保と我が国が抱える課題を考察する。 <input type="checkbox"/> 相互扶助から社会連帯を手本とした新しい地域社会づくりのあり方を考察する。	DVD	
後期 (10月～3月)	第4編 人間関係とコミュニケーション 10月 第1章 コミュニケーションの基礎 1 コミュニケーションの意義・役割 2 コミュニケーションの基礎的方法 第2章 援助における人間関係の形成 1 傾聴・受容・共感の姿勢 2 利用者理解と援助者の自己理解 第3章 社会福祉援助活動の概要 1 個別援助技術の活用と福祉活動 2 集団援助技術の活用と福祉活動 3 地域援助技術の活用と福祉活動 4 社会福祉援助活動の発展 12月 第5編 地域福祉の進展と多様な社会的支援制度 第1章 地域福祉の進展と地域の将来 1 地域福祉の進展と地域の将来 2 多様な社会的支援制度 1月 第3章 社会福祉の将来と福祉の担い手 3月	<input type="checkbox"/> コミュニケーション活動が持つ意義や役割について考察する。言語的、非言語的コミュニケーションや近年広がりを見せる情報技術を理解し、それらが持つ意義を考察する。 <input type="checkbox"/> 利用者理解と援助者の自己理解が援助活動を進めていく上でどのような意義を持つか考察する。ボランティアの定義について理解し、地域福祉活動の中でどのような役割を担っているか考察する。社会福祉が担う役割と新たな時代に向け福祉社会をどのように構築していくかを考察する。	新聞活用	
評価の観点と方法 観 点 【知識・技能】社会保障制度に関する理念と意義を理解し、今後の福祉社会の人材となる資質を身につけることができたか。 【思考・判断・表現】各領域の福祉の現状と課題を理解し、主体的に解決する能力と態度を身につけ、今後の福祉社会の人材となる資質を身につけることができたか。 【主体的に取り組む態度】公的扶助及び介護実践に関わる諸制度の施策を理解し、今後の福祉社会の人材となる資質を身につけることができたか。 方 法 定期考査の成績、プリント・レポートなどの提出物の有無と内容、発表の仕方や内容、学習活動への参加の態度などで評価する。				
使用教科書・副読本	検定教科書 社会福祉基礎 (福祉701実教出版)			
教材・道具等	ワークシート、パワーポイント、新聞記事・DVDなど			

科目名・単位数	生活支援技術(3年次)	(6)単位	学習レベル	応用
---------	-------------	---------	-------	----

学習目標				
① 利用者にとって安全で的確な喀痰吸引、経管栄養の必要性を理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② 医療的ケアを実施するために必要な課題を見だし、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ③ 医療的ケアについて自ら学び、主体的かつ協動的に取り組む。				
学期	学習内容	学習のねらい	備考	
前期 (4月～9月)	第1章 人間と社会			
	1 個人の尊厳と自立	・個人の尊厳と自立および医療の倫理について理解を深める		ワークシート
	2 医療の倫理			
	3 利用者や家族の気持ちの理解	・医行為を受ける利用者や家族の気持ちについて学ぶ		ワークシート
	第2章 保健医療とチーム医療		・介護職員が医行為を実施するまでの経緯と関連する保健医療制度について知り、チーム医療について学ぶ	
	1 保健医療に関する制度			
	2 医行為に関する法律			ワークシート
	3 チーム医療と介護職員との連携			
	第3章 安全な療養生活		・たんの吸引や経管栄養を安全に提供することの重要性を理解する	ワークシート
	1 たんの吸引や経管栄養の安全な実施		・救急の事態に遭遇したとき、適切な応急手当ができる知識を身につける。	演習
	2 救急蘇生法		・感染予防の基礎知識と実施上の留意点について学ぶ。	
	第4章 清潔保持と感染予防		・感染予防の方法について理解し、正しい手洗いやうがい方法を身につける	ワークシート
	1 感染予防			
	2 職員の感染予防		・療養環境の清潔とリネンの消毒について学ぶ	
	3 療養環境の清潔、消毒法		・滅菌と消毒の違い、消毒剤の使用上の留意点について学ぶ	ワークシート
	4 滅菌と消毒		・健康状態を把握するための知識を身につける	ワークシート
	第5章 健康状態の把握		・バイタルサインの測定と観察の視点について学ぶ	演習
	1 身体・精神の健康		・急変状態に対応するための知識を身につける	
	2 健康状態を知る項目			
	3 急変状態について			
	第6章 高齢者及び障害者・児の「たんの吸引」概論			ワークシート
	1 呼吸のしくみとはたらき		「たんの吸引」に必要な知識と技術について学ぶ	演習
	2 いつもと違う呼吸状態			
	3 喀痰吸引とは			
4 人工呼吸器と吸引		人工呼吸器が必要な状態と人工呼吸器のしくみ、人工呼吸療法の場合の吸引の留意点を理解する		
5 子どもの吸引について		・子どもの吸引に特徴的な危険と吸引時の留意点について理解する		
6 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応		・吸引を受ける家族や利用者の気持ちを考え、対応について学ぶ		
7 呼吸器の感染と予防		・たんの吸引に伴う感染とその予防について理解する		
8 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認		・吸引により生じる主な危険やトラブルの種類と対応策、医療職との連携についてを理解する。		
9 急変・事故発生時の対応と事前対策		・緊急を要する状態と急変時の対応について学ぶ		

学期	学習内容	学習のねらい	備考
後期 (4月～9月)	第7章 高齢者及び障害者・児の「たんの吸引」実施手順解説 1 たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ 2 吸引の技術と留意点 3 喀痰吸引に伴うケア 4 記録及び報告 5 口腔内の喀痰吸引 6 口腔内の喀痰吸引(人工呼吸器装着の場合)	・痰の吸引に用いる器具・器材および物品の清潔保持の重要性とその方法を理解する。 ・痰の吸引の実実施手順と留意点および利用者の観察のポイントと片づけについて確実に理解する ・喀痰吸引を行う利用者に必要なたんを出しやすくするケアと口腔ケアについて理解する ・吸引後の利用者の観察及び報告、記録について確実に理解する ・口腔内の喀痰吸引の手順を理解し、シミュレーターを用いて、一人で正しく実施できる。 ・人工呼吸器を装着している利用者の口腔・鼻腔内の喀痰吸引の手順を理解し、シミュレーターを用いて、一人で正しく実施できる	ワークシート 演習
	第8章 高齢者及び障害者・児の「経管栄養」概論 1 消化器系のしくみとはたらき 2 消化吸収とよくある消化器の症状 3 経管栄養とは 4 注入する内容に関する知識 5 経管栄養実施上の留意点 6 子どもの経管栄養 7 経管栄養に関する感染と予防 8 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 9 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 10 急変・事故発生時の対応と事前対策	・消化器官の働きと嚥下のしくみ、よくある消化器症状について理解する ・経管栄養が必要な状態を理解し、経管栄養の特徴について学ぶ ・注入する栄養剤や半固形剤について学ぶ ・経管栄養を行うときの留意点を理解する ・子どもに特有な経管栄養の留意点について学ぶ ・経管栄養法に関係する消化器感染の原因とその予防について学ぶ ・経管栄養を受ける家族や利用者の気持ちに寄り添うことの重要性を理解し、説明と同意について学ぶ ・経管栄養法における危険とその予防および対応について学ぶ ・経管栄養法における緊急を要する状態とその予防および対応について学ぶ	ワークシート 演習
	第9章 高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順解説 1 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2 経管栄養の技術と留意点 3 経管栄養に伴うケア 4 記録及び報告 5 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 6 経鼻経管栄養	経管栄養に用いる器具・器材のしくみ、栄養剤の種類と使用方法、必要物品の清潔保持について理解する ・経管栄養の実実施手順と留意点および利用者の観察のポイントと片づけについて確実に理解する ・経管栄養に必要なケアについて学ぶ ・経管栄養に関する報告内容と実施記録について学ぶ。 ・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の手順を理解し、シミュレーターを用いて、一人で正しく実施できる。 ・経鼻経管栄養の手順を理解し、シミュレーターを用いて、一人で正しく実施できる。	ワークシート 演習

評価の観点と方法

観 点

知識・技能	利用者にとって安全で的確な喀痰吸引、経管栄養の必要性を理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。(知識・技能)
思考・判断・表現	医療的ケアを実施するために必要な課題を見だし、科学的根拠に基づいて創造的に解決することができたか。(思考・判断・表現)
主体的に取り組む態度	医療的ケアについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。(主体的に学習に取り組む態度)

方 法

- ① 上にあげた観点を総合的に評価する。

使用教科書・副読本	副読本:最新介護福祉士養成講座15 医療的ケア(中央法規)第2版
教材・道具等	パワーポイント、DVD、喀痰吸引・経管栄養シミュレーター、ワークシート等

科目名・単位数	こころとからだの理解(選択) (2)単位	学習レベル	基礎
---------	----------------------	-------	----

学習目標			
① こころとからだのしくみについて理解する。 ② 基礎的な医学的知識と疾病の状態、治療法、予防法、及び患者やその家族の心理状態を理解する。 ③ 日常生活の援助及び診療におけるに関する知識と技術を習得する。			

学期	学習内容	学習のねらい	備考
前期 (4月～9月)	4月 第1編 こころとからだの基礎的理解 第1章 こころのしくみの理解 1 私たちの生活と健康 2 人間の欲求の基本的理解 3 自己概念と尊厳 4 意欲・動機づけのしくみ 5 思考・感情のしくみ 6 記憶・学習のしくみ 7 適応のしくみ 第2章 からだのしくみの理解 1 生命維持・恒常性のしくみ 2 脳・神経系のしくみ 3 運動器系のしくみ 4 循環器系のしくみ 5 消化器系のしくみ 6 呼吸器系のしくみ 7 感覚器系のしくみ 8 内分泌系のしくみ 9 泌尿器系のしくみ 10 生殖器系のしくみ 11 血液・免疫系のしくみ 第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 第1章 生活動作に関するこころとからだのしくみ 第2章 生活に関するこころとからだのしくみ 第3編 人間の成長と発達の基礎的理解 第1章 発達とは 第2章 老年期の理解と日常生活	介護従事者として必要な、基本的なこころのしくみについて理解する。 介護従事者として必要な、基本的なこころのしくみについて理解する。	ワークシート 演習 ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート ワークシート
	10月 第3章 高齢者と健康 11月 第4編 認知症の理解 第1章 認知症をとりまく環境 1 認知症介護の歴史と理念 2 認知症高齢者の現状と今後 3 認知症に関する行政の方針と施策 第2章 認知症の基礎的理解 12月 第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活 1月 第4章 認知症と地域サポート 第5編 障害の理解 第1章 障害の基礎的理解 2月 第2章 生活機能障害の理解 3月 第3章 障害に伴う心身の変化と日常生活 第4章 障害と地域生活支援	認知症の代表的な症状について理解し、対応の仕方 や留意点について考察する。 障害とはどのようなことか、障害に伴う様々な影 響や個人際について理解する。 介護従事者として、障害のある人を理解し、適 切な支援をすることの必要性を理解する。	ワークシート ワークシート

評価の観点と方法			
観点 ① 関心・意欲・態度を評価する。 ※出席状況や授業態度(質問・発問等)も含まれる。 ② 基礎的な医学的知識と疾病の状態、治療法、予防法、及び患者やその家族の心理状態を理解できたか。 ③ 日常生活の援助及び診療におけるに関する知識と技術を習得したか。			
方法 ① 上にあげた観点を総合的に評価する。 ② 2年次については、3観点別(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」)で評価を行う。			
使用教科書・副読本	7)実教出版 福祉704 こころとからだの理解		
教材・道具等	パワーポイント・DVD・ワークシート等		

科目名・単位数	介護福祉基礎 (2・3年次)	(2)単位	学習レベル	基礎
---------	----------------	---------	-------	----

学習目標				
① 介護福祉に関する基礎的な意義と役割を理解することができる。 ② 尊厳を支える介護について理解し、その人らしい生活ができるように支援方法を考え、発表することができる。 ③ 実技を通して適切な介護技術を主体的に取り組むことができる。				
学期	学習内容		学習のねらい	備考
前期 (4月～9月)	4月	介護の意義と役割	○介護を必要とする人の立場を理解し、相手の気持ちに寄り添う介護の理念を学ぶ。 ○相手の身になって介護を行うことの大切さを考えるきっかけとする。 ○自立支援の意味を理解する。	・ワークシート
	5月		○認知症高齢者の特徴と接し方を理解する。	
	6月		○実技において、衛生面の知識を身に付け生活の中にかかす。	・実習
	7月	介護福祉士の担い手	○現代における介護現場の状況を把握する。 ○介護福祉士の国家資格取得ルートについて理解する。 ○尊厳・プライバシー保護・専門性と基本姿勢・介護従事者として踏まえるべき倫理を学ぶ。	・ワークシート
9月	○形態別の要支援者を想定した、介護技術の知識と技術を養う。 ○福祉サービスの種類・目的を理解する。		・ワークシート	
後期 (10月～3月)	10月	介護を必要とする人の理解と支援	○在宅・施設の介護サービスの内容や機能、役割を理解し、利用者のニーズに適したサービスを提供するには何を選択すれば良いか考える。 ○個人の尊厳や、基本的人権について理解する。	
	12月		○形態別の支援方法を、実技授業をとおして身に付ける。	・実習
	1月	介護における安全確保と危機管理	○介護現場における安全のあり方を知り、自身の生活にも役立てる。	・ワークシート
	2月		○感染症の理解、予防対策を学ぶ。	
	3月		○事例検討などで、実際の現場状況を把握し、対策を考える。	

評価の観点と方法

観点

3年次	介護福祉に関する基礎的な意義と役割を理解し、介護を必要とする方の特徴を押さえた支援を考えることができる。また、発表や実技授業を通して主体的に取り組むことができるか。	
2年次	知識・技能	介護福祉に関する基礎的な意義と役割を理解することができたか。
	思考・判断・表現	尊厳を支える介護について理解し、その人らしい生活ができるように支援方法を考え、発表することができたか。
	主体的に取り組む態度	実技を通して適切な介護技術を主体的に取り組むことができたか。

方法

- ① 上にあげた観点を総合的に評価する。
- ② 2・3年次合同授業であり、それぞれの年次に対して、新・旧課程の評価をおこなう。

使用教科書・副読本	実教出版 介護福祉基礎
教材・道具等	・ビデオ、DVD、ワークシート

10 防災計画

(1) 自衛消防隊の編成と任務

係名	場所	係職名	職務内容
本部	職員室又は校長の指定する場所	校長（本部長） 教頭（防災管理者） 教頭（防災管理者） 事務長	<ul style="list-style-type: none"> 全般についての企画及び総括 渉外事項についての処理
指導通報	本部	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 各係への連絡調整 消防署への通報 関係官公署又は支援機関等への連絡 情報の提供
避難誘導	運動場	図書視聴覚部 3学年主任 各学級担任	<ul style="list-style-type: none"> 避難計画、訓練 避難者の誘導及び避難所への安全管理 避難器具の管理操作
物品搬出	運動場	事務部 教務部（主任・学籍係）	<ul style="list-style-type: none"> 搬出計画 重要物件の管理 搬出物件の管理
消火	現場	生徒指導部・美化営繕部	<ul style="list-style-type: none"> 消火訓練 消火活動 延焼防止 消防団への協力
警備監視	校内	渉外係・一学年主任 情報係	<ul style="list-style-type: none"> 校内巡視 外来者の監視 安全指導
施設設備の管理及び検査	各設置場所又は置き場	火気取締責任者 （次項（3）参照）	<ul style="list-style-type: none"> 火気使用施設設備の管理、検査 電気施設設備の管理、検査 危険物、可燃物の管理、検査 消火施設設備の管理、検査
救護	運動場又は保健室	保健カウンセリング部	<ul style="list-style-type: none"> 負傷者の看護 医療機関との連携

(注) 1. 休業日、夜間等に緊急事態が発生した場合は、職員は別紙連絡要領により通報を受け、可及的速やかに登校し、上記防災組織に従い対応する。ただし、状況に応じて臨時的に防災組織を編成することがある。
2. 諸訓練の実施計画は別に定める。
3. 生徒の係については、各係職員であらかじめ指名し指導する。

(2) 防災の心得

- ① 日頃から火災防止に心がけるとともに防災施設器具を点検し、異常のある場合は本部へ連絡する。
- ② 火災発見認知した場合は、迅速な連絡と初期消火防災活動に努める。
- ③ 外部関係機関、連絡先は次のとおりである。
那覇市中央消防署（098-832-0119）、那覇市中央消防署神原出張所（098-836-0119）
県教育庁 総務課（098-866-2705）、施設課（098-866-2736）、
県立学校教育課（098-866-2715）、保健体育課（098-866-2726）
株式会社ナカソネ電省（098-946-7716）、沖縄電力那覇支店（0120-586-701）
新垣クリニック（校医 新垣敏幸 098-864-1330）

1. 学校概要

(1) 所在地 〒902-0072 沖縄県那覇市字真地 248 番地

T E L (098) -833-0810・3068

F A X (098) -834-5281

(2) 施設

①校地

種 別	面 積	
校 舎 敷 地	23,742 m ²	県有地 19,039 m ²
		借 地 4,703 m ²
運 動 場	18,427 m ²	県有地 12,311 m ²
		借 地 6,116 m ²
計	42,169 m ²	県有地 31,350 m ²
		借 地 10,819 m ²

②建物

種 別	面 積	建 築 年 度
体育館	2,797.95 m ²	2005 年 (平成 17 年)
家庭科教室	1,468.00 m ²	1983 年 (昭和 58 年)
プール管理棟	164.00 m ²	1985 年 (昭和 60 年)
普通教室及管理棟	812.00 m ²	1989 年 (平成 元年)
〃	996.30 m ²	〃 (〃)
〃	2,513.09 m ²	〃 (〃)
特別教室 (理科棟)	1,611.20 m ²	1990 年 (平成 2 年)
〃 (芸術棟)	2,520.34 m ²	〃 (〃)
電気室	51.61 m ²	〃 (〃)
生徒会室	45.21 m ²	1991 年 (平成 3 年)
倉庫兼塵置き場	39.60 m ²	2001 年 (平成 13 年)
部室A棟	135.20 m ²	2009 年 (平成 21 年)
部室B棟	86.10 m ²	〃 (〃)
合計	13,240.60 m ²	

2. 学校沿革の概要

昭和41年度

- 10月27日 琉球政府立真和志高等学校設立許可（創立）
- 11月 1日 初代校長 新屋敷文太郎、発令
- 11月21日 起工式、地鎮祭執行
- 1月16日 校章（帽子、バッジ）制定

昭和42年度

- 4月 6日 開校式、第1回入学式（奥武山陸上競技場）普通科520名 家政科104名 計624名
- 9月 8日 校旗樹立
- 11月11日 第1期校舎落成記念式典

昭和44年度

- 9月 3日 校歌制定（作詞 新屋敷文太郎 作曲 城間繁）
- 11月22日 図書館落成式及び祝賀会举行
- 3月 3日 第1回卒業式（普通科437名 家政科99名 計536名）
- 3月28日 第42回選抜高校野球大会に出場（於：甲子園）

昭和46年度

- 8月30日 生徒会クラブ室完工（24坪）

昭和47年度

- 5月15日 復帰に伴い沖縄県立真和志高等学校となる
- 11月27日 時計塔設置（玄関上）第3期卒業生寄贈

昭和49年度

- 7月20日 九州大会にて弓道部女子団体優勝（佐賀県）
- 3月29日 創立10周年記念事業期生会設立総会

昭和50年度

- 7月21日 九州大会にて、弓道女子団体2連勝なる（佐賀県）
- 1月 9日 体育館起工式

昭和51年度

- 7月31日 体育館新築
- 10月27日 創立10周年記念事業体育館兼講堂落成式式典
- 2月23日 A棟3階東側増築、C棟増築、図書館2階増築、渡り廊下、浄化槽完成

昭和54年度

- 7月23日 九州弓道大会 男子チーム優勝（福岡）

昭和57年度

- 10月27日 創立15周年記念式典及び第3回文化祭
- 12月 8日 テニスコート用地（私有地2,231㎡）賃貸契約
- 11月20日 私有地 土地売買契約が締結学校用地となる。（合計3,384㎡）
- 2月23日 テニスコート完工
- 3月 1日 家庭科ビル完工
- 3月31日 15周年記念事業校門前擁壁工事完工

昭和58年度

- 6月22日 創立15周年記念PTA事業として各教室扇風機設置（台数160台）
- 3月28日 屋外教育環境整備工事竣工（図書館前）

昭和59年度

- 5月24日 昭和58年度卒業記念時計台完工
- 11月15日 弓道場建設完工
- 1月15日 C棟美術工芸教室改装工事完工
- 3月16日 水泳プール建設工事完了

昭和60年度

- 3月 8日 運動場整備工事竣工

昭和61年度

- 5月 7日 校訓制定
- 11月 8日 創立20周年記念式典
- 2月 9日 創立20周年記念PTA事業として図書館及び視聴覚室へ冷房機設置

昭和62年度

- 6月 1日 創立20周年記念P T A事業の学力向上対策の一環としてコンピュータ11台、ワープロ1台購入
- 11月28日 県高等学校新人体育大会弓道女子団体優勝
- 12月15日 学校教育設備整備費等補助金の交付により、C A Iシステム（24台構成）設置
- 1月21日 家政科推薦入学制度導入実施（定員の20%）

昭和63年度

- 4月22日 教育方法改善のための高等学校C A I研究開発校指定（昭和63年、平成元年度）
- 10月 7日 校舎改築第1期工事A校区着工
- 11月29日 県高等学校家庭クラブ研究発表会 教育長賞受賞（全国大会派遣）

平成元年度

- 11月14・15日 第1回舞台祭
- 12月 8日 創立25周年記念事業実行委員会発足
- 12月22日 校舎改築2期理科棟着工
- 1月19日 校舎改築2期芸術棟着工
- 2月 2日 県教育委員会指定（2年間）高等学校C A I研究発表
- 3月17日 創立25周年記念事業クラブ室建築工事開始（鉄筋コンクリート2階建て）

平成 2年度

- 4月 6日 新校舎D校区4階竣工に伴い、家政科6クラスC棟より新校舎へ移動
- 4月27日 創立25周年記念事業クラブ室（鉄筋コンクリート2階建て）竣工
- 7月 2日 理科棟竣工
- 7月30日 芸術棟一期工事（1階～3階半分）工事完了、電気室竣工
- 8月 3日 全国高等学校家庭クラブ研究発表会で全国高等学校長協会会長賞
- 3月16日 芸術棟（3階半分～4階）竣工

平成 3年度

- 12月17日 校舎周辺アスコン舗装、中庭緑化、日本宝くじ協会補助により完成
- 1月18日 創立25周年、校舎改築落成式、校舎周辺工事完了、記念式典、祝賀会

平成 4年度

- 12月17日 A棟前緑化植栽（県補助）完了

平成 6年度

- 7月27日 第18回全国高校囲碁選手権大会 準優勝（個人の部）
- 8月 6日 第19回全国高等学校総合文化祭囲碁の部 準優勝（個人の部）
- 10月 1日 コンピュータ教室新型機種（40台）導入

平成 8年度

- 6月10日 第43回NHK杯全国高校コンテスト テレビ番組部門 優良賞受賞
- 6月23日 第20回全国高校囲碁選手権沖縄大会団体優勝
- 11月16日 創立30周年記念教育シンポジウム－真和志高校をこんな学校にしたい－
- 12月 8日 平成10年度より単位制高校へ移行決定
- 1月24日 創立30周年記念式典及び祝賀会
- 1月28日 創立30周年記念校訓碑（揮毫：池村幸夫教頭）除幕式

平成 9年度

- 6月10日 第44回NHK杯全国高校コンテスト テレビ番組部門 優秀賞受賞

平成10年度

- 4月 7日 全日制課程普通科単位制スタート
- 10月22日 第2回全国高等学校詩歌コンクール俳句部門 優秀賞受賞
- 11月10日 第13回全国高等学校文芸コンクール俳句部門 優秀賞受賞
- 11月23日 第43回文部大臣杯全国大会青年弁論大会 福岡県教育長賞受賞
- 1月28日 第8回全国韻文コンテスト短歌部門 地賞受賞

平成11年度

- 7月28日 第6回全国高校写真選手権大会（写真甲子園）特別賞受賞九州ブロック代表
- 8月 8日 第8回全国高校マンガ選手権大会出場 決勝進出
- 10月31日 第6回全国高校デザイン選手権大会 準優勝
- 11月 4日 第14回全国高校文芸コンクール 最優秀賞
- 11月18日 全国高校詩歌コンクール 学校賞、最優秀賞
- 3月 1日 家政科廃科 廃科式を行う（33年の幕を閉じる、卒業生総数2,152名）

平成12年度

- 4月 4日 多目的利用棟を改築し「有心館」と命名
- 7月28日 第7回全国高校写真選手権大会(写真甲子園)特別賞受賞(九州・沖縄ブロック代表)
- 12月19日 第44回旺文社全国科学学芸コンクール 学校賞
デザイン部門 銅賞 立体造形部門 佳作 絵画部門 佳作

平成13年度

- 6月25日 第10回全国高等学校漫画選手権大会(まんが甲子園)インターメディア部決勝進出
- 9月20日 全国学芸科学コンクール 学校賞受賞
- 1月30日 第5回全国高校生の生活フォトメッセージコンテスト優秀賞(全国2位)

平成14年度

- 7月 5日 第9回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2002」九州・沖縄ブロック代表
- 8月 9日 第11回全国高等学校漫画選手権大会(まんが甲子園)アイシー賞

平成15年度

- 8月 2日 第10回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2003」全国制覇

平成16年度

- 4月 7日 第38回入学式 入学生229名(男子120名 女子109名)
コース制スタート(クリエイティブアーツコース35名、介護福祉コース38名、普通コース156名)
- 7月29日 第11回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2004」準優勝
- 1月11日 体育館起工式

平成17年度

- 7月29日 第12回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2005」3位
- 8月 5日 第14回全国高等学校漫画選手権大会「まんが甲子園」4位
- 10月21日 体育館落成記念式典及び祝賀会

平成18年度

- 7月30日 第13回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2006」優勝 3年ぶり2度目
- 1月13日 本校創立40周年記念式典・祝賀会 体育館

平成19年度

- 7月27日 第14回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2007」優勝 2年連続3度目
- 1月23日 第29回よみうり写真大賞 大賞受賞

平成20年度

- 9月 6日 第1回琉米高校生漫画コンテスト2008 最高賞
- 1月31日 第30回よみうり写真大賞 高校生の部 2席受賞
- 2月 1日 第30回読売学生書道展 金賞受賞
- 2月12日 部室新築工事竣工
- 3月18日 築庭工事(植栽事業:ロータリー西側)完成

平成21年度

- 6月21日 第15回九州高文連美術・工芸・書道・写真展 大分大会
写真部門優秀賞、美術部門優秀賞、写真部門撮影会優秀賞
- 7月28日 第16回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2009」準優勝
- 7月29日 全日本写真展2009(高校生の部)銅賞
- 9月17日 第38回沖縄県高等学校音楽コンテスト(～9/19)器楽アンサンブルの部 金賞
- 9月30日 第34回国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール県大会優秀賞(県教育長賞)
- 1月16日 第27回沖縄県高校新人ラグビー大会 10人制の部 優勝
- 1月24日 第28回全国高校選抜弓道大会沖縄県大会 個人戦 女子優勝
- 1月30日 第31回よみうり写真大賞 高校生の部 大賞

平成22年度

- 6月18日 第16回九州高文連「美術・工芸・書道写真展」沖縄大会 写真部門撮影会 優秀賞
- 8月 5日 第34回全国高等学校総合文化祭宮崎大会 写真部門 文化連盟賞
- 9月16日 第39回沖縄県高等学校音楽コンテスト(～17日)ヴォーカルアンサンブル部門 金賞
- 9月23日 「倉敷芸術科学大学フォトコンテスト2010」準グランプリ、1等賞、優秀賞
- 10月23日 第6回沖縄県高校生中国語発表大会(県高校中国語教育研究会)漢詩の部 第1位
- 11月 6日 第34回沖縄県高等学校総合文化祭文芸部門・詩1位 美術工芸部門、写真部門 優秀賞
- 11月16日 第27回沖縄県青少年赤十字大会「青少年赤十字功労賞」
- 12月11日 第14回全国高校生中国語スピーチコンテスト初級部門 中国語教育研究会長賞

1月14日 運動場改修工事完了（平成23年1月14竣工 竣工面積13,002m²）

1月20日 第41回全国学生俳句大会（日本学生俳句協会） 特選

平成23年度

7月26日 第51回沖縄県吹奏楽コンクール（沖縄県吹奏楽連盟） Bパート最優秀賞

8月22日 全国スポーツ写真コンクール（文部科学省、財団法人日本体育協会等）全国優秀賞

9月14日 第40回沖縄県高等学校音楽コンテスト（沖縄県高等学校音楽教育研究会）（～16日）

ヴォーカルアンサンブルの部金賞 ピアノ独奏の部銀賞 管楽器独奏の部銀賞

金管楽器独奏の部銀賞 独唱の部銀賞

9月16日 琉米高校生フォトコンテスト2011（琉球アメリカ総領事館）アメリカ領事館特別賞

10月10日 倉敷芸術科学大学フォトコンテスト2011（倉敷芸術科学大学）優秀賞

10月13日 第1回高校生「働くヒト」写真コンテスト（ジェイウホーム）グランプリ

10月22日 真和志フェスティバル、後夜祭（～23日）

10月23日 沖縄県高等学校新人体育大会テニス競技（高体連）Bブロック 準優勝 男子テニス部

10月29日 第59回全琉図画・作文・書道コンクール（沖縄タイムス社）韻文の部 詩・俳句・短歌 最優秀賞

11月 7日 CAP（自分を大切にすること、人権教育、子どもへの暴力防止）教職員・生徒ワークショップ

11月23日 第7回アイデム写真コンテスト「はたらくすがた」高校生の部グランプリ

2月 3日 平成23年度魅力ある学校づくり推進事業「県立学校生き生き活性化支援事業」報告会

2月11日 第5回沖縄県ヴォーカルアンサンブルコンテスト 金賞

平成24年度

4月16日 2012年度県教育委員会研究指定「体育・スポーツ推進校」（H24～H26年度）

7月23日 第18回九州高等学校総合文化祭福岡大会 写真部門 優秀賞

8月 7日 第36回全国高等学校総合文化祭富山大会美術・工芸部門（全国高文連：8/10）優秀賞

8月10日 第36回全国高等学校総合文化祭富山大会合唱部門（全国高文連：8/13）文化連盟賞

9月13日 第41回沖縄県高等学校音楽コンテスト（沖縄県高等学校音楽教育研究会～14日）

独唱の部金賞

9月17日 第36回沖縄県高文連囲碁将棋秋季大会 男子団体優勝

10月29日 第60回全流小・中・高校図画作文書道コンクール韻文の部 最優秀

11月 1日 第36回全国高等学校総合文化祭富山大会（全国高文連：11/4）写真部門 優秀賞

美術・工芸部門（立体：陶芸）優秀賞 美術・工芸部門（平面：デザイン）優秀賞

11月25日 第47回ワープロ実務検定試験1級合格

12月 1日 第8回アイデム写真コンテスト「はたらくすがた」高校生の部 準グランプリ

1月24日 第36回高校写真コンテスト（県高文連写真専門部）金賞

2月 1日 第43回全国学生俳句大会（日本学生俳句協会）推薦大賞（全国1位）

2月10日 第51回全沖縄児童生徒書き初め展（琉球新報社）最優秀賞

平成25年度

8月 2日 NHK全国学校音楽コンクール沖縄県大会金賞（九州派遣）

8月31日 全国高校生の手話によるスピーチコンテスト 奨励賞

9月15日 沖縄県高等学校商業実務競技新人大会 ワープロ速度の部 団体優勝

9月21日 第37回県高校文化連盟囲碁将棋秋季大会 囲碁男女団体1位

1月27日 沖縄県高校生芸術文化交流プログラム（美術工芸部門） シンガポール派遣

平成26年度

7月22日 第38回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会出場（～24日）

男子団体 女子団体 女子個人

7月30日 全国高等学校総合文化祭茨城大会 写真部門出場 囲碁部門出場 自然科学部門出場

8月 8日 全国高等学校写真選手権大会（写真甲子園2014）特別賞

9月13日 沖縄県商業実務競技新人大会 ワープロ速度の部 団体優勝 正確賞

9月20日 第38回県高校囲碁将棋秋季大会 女子団体の部 優勝 女子個人の部 優勝

11月 8日 第38回沖縄県高等学校総合文化祭 工芸部門・写真部門 優秀賞 全国大会派遣

デザイン部門 優秀賞

11月15日 第29回全九州囲碁選手権福岡大会 女子団体7位

11月23日 全国高校生手話パフォーマンス甲子園（鳥取県）九州・沖縄地区1位 本選出場

12月 5日 福沢諭吉記念第53回全国高等学校弁論大会（大分県）優秀賞

1月25日 第38回琉球新報旗争奪高等学校ウェイトリフティング選手権大会 48kg級 優勝

平成27年度

- 5月23日 沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋夏季大会 女子団体の部 優勝
- 5月29日 沖縄県高等学校総合体育大会(～7日) 男子団体20位 女子団体27位 総合23位
- 6月20日 全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園2015)ブロック別公開審査会出場(九州上位5校)
- 7月11日 第1回沖縄県介護技術コンテスト 部門二 最優秀賞(九州大会派遣)
- 7月28日 第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会(2015滋賀・びわこ総文)(～8/1)
美術・工芸部門 文化連盟賞 写真部門 文化連盟賞
- 8月25日 第2回九州地区高等学校介護技術コンテスト奨励賞
- 8月29日 第32回全国高校手話によるスピーチコンテスト 第2位
- 9月 5日 沖縄県高等学校音楽コンテスト 独唱部門 金賞
- 9月20日 沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋秋季大会 女子団体の部 優勝
- 9月22日 第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 第6位
- 10月31日 沖縄県高等学校新人体育大会 ウェイトリフティング競技 女子48kg級 第1位
- 1月16日 全九州高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会 48kg級 第2位
- 2月11日 沖縄県ヴォーカルアンサンブルコンテスト 金賞(全国大会派遣)
- 3月 1日 全国福祉高等学校校長会 理事長賞
- 3月 1日 第47回卒業式 平成27年度卒業生総数156名(男子64名、女子92名)
- 3月19日 第9回声楽アンサンブルコンテスト全国大会(福島大会) 優良賞
- 3月26日 第31回全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会 全国5位
- 3月28日 介護福祉士国家試験結果発表 19名国家資格取得

平成28年度

- 4月 7日 始業式・就任式・第50回入学式(男子138名、女子97名、計235名)・P T A入会式
- 4月16日 有心館解体工事 ～27日
- 5月27日 沖縄県高等学校総合体育大会(～4日) 男子団体39位 女子団体31位 総合42位
- 7月 9日 第2回沖縄県介護技術コンテスト 部門二 最優秀賞(九州大会派遣)
- 7月17日 第18回全国高等学校女子ウェイトリフティング競技選手権大会 北九州市 48kg級 4位
- 7月26日 県立高校居場所支援事業 サポートルーム「和Nagomi」お披露目会
- 7月30日 全国高等学校総合文化祭広島大会 美術・工芸部門 出展
- 8月 6日 第63回全国高等学校ワープロ競技大会出場 団体16位
- 8月25日 第2回九州地区高等学校介護技術コンテスト3位(全国大会派遣)
- 9月 1日 ハワイオキナワフェスティバル講演 (～7日) 新唄大賞
- 9月 2日 第45回沖縄県高等学校音楽コンテスト(～3日) ヴォーカルアンサンブル部門 金賞
- 9月17日 第40回沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋秋季大会 女子団体の部 優勝
- 9月25日 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 準優勝
- 11月 6日 第26回全国産業教育フェア石川大会・第5回全国高校生介護技術コンテスト 最優秀賞
- 11月13日 創立50周年記念 講演会・式典・祝賀会
- 12月 9日 第60回沖縄県高等学校家庭クラブ研究発表大会 沖縄県高等学校P T A連合会長賞
- 1月27日 第40回沖縄県高等学校写真コンテスト 最優秀賞
- 3月 1日 平成28年度全国福祉高等学校校長会 理事長賞
- 3月 1日 第48回卒業式 平成28年度卒業生総数170名(男子84名、女子86名) 前期卒業生3名
- 3月25日 第7回言の葉大賞 入賞 栗谷玲音(2年)
- 3月28日 第29回 介護福祉士国家試験合格 介護福祉コース(3年) 26名

平成29年度

- 4月 7日 みらい福祉科開設
- 5月13日 第41回沖縄県高等学校文化連盟 囲碁将棋 夏季大会 女子団体優勝
- 5月26日 沖縄県高等学校総合体育大会(～4日) 男子団体36位 女子団体49位 総合44位
- 7月16日 第32回県選手権第28回屋我地サイクルレース大会ビギナー部門優勝
- 8月22日 第3回九州地区高等学校介護技術コンテスト2位(全国大会派遣)
- 9月 3日 平成29年度県高校新人体育大会(水泳)50M・100M平泳ぎ 九州大会派遣
- 9月16日 第41回沖縄県高等学校文化連盟 囲碁将棋 秋季大会 女子団体の部 優勝
- 10月 1日 第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 審査員特別賞
- 10月22日 第27回全国産業教育フェア秋田大会・第6回全国高校生介護技術コンテスト 最優秀賞
- 11月26日 平成29年度沖縄県民体育大会自転車競技ロードレースビギナー競技13Km 第1位
- 12月15日 第2回いじめ防止ポスター・標語コンクール、
ポスター部門 最優秀賞 優秀賞 優良賞
- 12月25日 河川愛護月間「絵手紙」奨励作品賞

- 2月 1日 第6回全国高校生介護技術コンテスト 最優秀賞
 2月 4日 南部地区歯科医師会表彰 介護福祉コース 全国高校生介護技術コンテスト最優秀賞2連覇
 3月 1日 平成29年度全国福祉高等学校校長会 理事長賞 1名
 3月28日 第30回 介護福祉士国家試験合格 介護福祉コース (3年) 17名
- 平成30年度
- 5月13日 第42回沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋夏季大会 囲碁の部
 ・男子団体 優勝【全国大会出場】 ・男子個人2位 【全国大会出場】
 5月25日 沖縄県高等学校総合体育大会(～3日) 男子団体48位 女子団体49位 総合51位
 6月 9日 写真甲子園九州審査会 2位3名【全国大会出場】
 7月14日 第4回沖縄県高校生介護技術コンテスト 部門二 最優秀賞
 8月 4日 第25回全国高校写真選手権大会「写真甲子園」 敢闘賞 3名
 8月 8日 第42回全国高等学校総合文化祭 囲碁部門 文化連盟賞 2名
 8月23日 第4回九州地区高等学校介護技術コンテスト 奨励賞
 9月 8日 平成30年度沖縄県高等学校商業実務競技新人大会ワープロ速度の部
 ・個人競技の部 優勝 1名
 10月 7日 第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 最優秀賞
 10月 8日 第42回沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋秋季大会
 ・男子団体 優勝 ・男子個人優勝 1名 ・女子個人3位 1名
 10月20日 第42回沖縄県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門 優秀賞 2名 優良賞 5名
 11月25日 沖縄県県民体育大会 弓道競技一般女子 団体1位
 1月17日 第55回全沖縄青少年読書感想文・感想画コンクール 最優秀賞 1名
 1月18日 平成30年度沖縄県高等学校文化連盟活動賞 1名
 2月17日 第57回全沖縄児童生徒書き初め展 金賞 1名 銀賞 1名
 3月 1日 全国福祉高等学校福祉校長会 理事長賞
 3月27日 第31回 介護福祉士国家試験合格 介護福祉コース (3年) 19名
- 令和元年度
- 4月23日 第25回沖縄県高等学校ボクシング春季大会 ライトフライ級2位 1名
 5月18日 第43回沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋夏季大会 囲碁の部
 男子団体優勝 男子個人1位 2名
 5月25日 沖縄県高等学校総合体育大会(～6月5日)男子団体30位 女子団体54位 総合41位
 7月28日 第43回全国高等学校総合文化祭 美術・工芸部門 文化連盟賞 1名
 8月21日 第6回九州地区高校生介護技術コンテスト(～22日) 優秀賞(全国大会出場)
 8月25日 全国高等学校ファッションデザイン選手権大会 最終審査出場 2名
 9月28日 第43回沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋秋季大会 男子団体 1位
 9月29日 全国高校生手話パフォーマンス甲子園 最終秀賞受賞
 11月 2日 令和元年度沖縄県高等学校新人レスリング競技大会(～3日)
 92kg級1位 1名
 12月 8日 第33回全九州高等学校囲碁選手権鹿児島大会 男子団体 6位入賞
 3月 1日 全国福祉高等学校福祉校長会 理事長賞 比嘉愛海(3年)
 令和元年度専門高等学校等御下賜金 優良卒業生 (1名)
 3月25日 第32回 介護福祉士国家試験合格 みらい福祉科 (3年) 21名
- 令和2年度
- 7月23日 令和2年度沖縄県総合体育大会出場 男子54位 女子53位 総合57位
 レスリング125kg級 優勝
 8月 2日 第49回全国高校書道展(四国大学主催) 準特選21名 入選38名 佳作23名
 9月27日 全国高校生手話パフォーマンス甲子園 第3位受賞
 10月30日 県高校新人大会(～11/3)
 レスリング競技 51kg級 2位(九州新人大会出場決定)
 92kg級 3位(九州新人大会出場決定)
 11月 5日 第44回沖縄県高等学校総合文化祭写真部門 〈審査員特別賞〉 1名
 11月 7日 第19回全国書道展(岐阜女子大学主催) 特賞8名 優秀賞25名 秀作賞24名
 11月28日 令和2年度JOCジュニアオリンピックカップ沖縄県予選(カデットの部)(～11/29)
 51kg級 1位(全日本JOCジュニアオリンピックカップ出場決定)
 11月29日 第48回全沖縄高校ボウリング選手権大会 女子5位
 2月 7日 第64回 西日本読書感想文コンクール(西日本新聞社) 優秀賞 1名
 2月21日 第59回全沖縄児童生徒書き初め展 金賞1名 銀賞8名 銅賞22名
 3月 1日 全国福祉高等学校福祉校長会 理事長賞 1名
 令和2年度専門高等学校等御下賜金 優良卒業生 1名
 3月26日 第33回 介護福祉士国家試験合格 みらい福祉科 (3年) 18名

令和3年度

- 5月15日 第45回沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋夏季大会 囲碁の部 女子団体 3位
5月29日 沖縄県高等学校総合体育大会（～6/2）レスリング競技92kg級 2位 ボウリング競技
女子団体 3位 総合44位 男子43位 女子36位
7月21日 令和3年度沖縄県高校生介護技術研究発表会 最優秀賞受賞
9月18日 第45回沖縄県高等学校文化連盟囲碁将棋秋季大会 囲碁の部 女子団体 優勝
第20回全国書道展（岐阜女子大主催）
〈書道展賞〉2名 〈特賞〉6名 〈優秀賞〉24名 〈秀作賞〉24名 〈努力賞〉23名
10月 3日 全国高校生手話パフォーマンス甲子園 奨励賞受賞
10月 8日 第三回学生かりゆしウェアデザインコンテスト 金賞 受賞
10月17日 第19回全沖縄高等学校対抗ボウリング選手権大会 男子団体 5位 女子団体 3位
10月29日 令和3年度沖縄県高等学校新人体育大会ボウリング競技
男子個人戦 2位 女子個人戦 3位
11月11日 令和3年度「税に関する高校生の作文」沖縄県税事務所長賞 1名
12月11日 沖縄ふるさとづくり写真コンクール 最優秀賞受賞 1名
1月22日 令和3年度グローバル・リーダー育成海外短期研修（専門高校生国外研修）～1/28 1名派遣
1月28日 令和3年度沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム（美術・工芸部門）2名派遣
1月30日 第34回介護福祉士国家試験受験 みらい福祉科 23名
2月1日 全国福祉校長学校長会主催 社会福祉・介護福祉検定 合格
1級5名 2級2名 3級3名 4級2名
2月17日 第60回沖縄児童生徒書き初め展 最優秀賞1名 金賞1名 銀賞3名 銅賞35名
2月26日 第58回 全沖縄青少年読書感想文・感想画コンクール 最優秀賞受賞1名
3月 1日 全国福祉高等学校福祉校長会 理事長賞 1名
令和3年度専門高等学校等御下賜金 優良卒業生 1名

令和4年度

- 4月 1日 定期人事異動で職員22名が就任
島尻特別支援学校真和志高等学校分教室（ゆい教室）職員1名就任
4月 7日 第56回入学式（真和志高校 男子79名、女子79名、計158名）
（ゆい教室 男子1名、女子1名、計 2名）
4月 8日 真和志スタンダード研修会（1年）
4月15日 前期HR役員認証式・対面式・部紹介
4月18日 三者面談（～27日）
4月20日 新入生歓迎球技大会
4月25日 交通安全講話
4月28日 校外研修（全学年）
4月20日 新入生歓迎球技大会
4月28日 校外学習
5月18日 前期中間考査（～5/19）
5月22日 P T A総会
5月24日 高校総体激励会
5月28日 高校総体（～6/1）
【出場競技】 男子バスケット、女子卓球、男子テニス、男子サッカー、
男女バドミントン、女子弓道、男女ボウリング
【大会結果】 ボウリング競技 女子団体：準優勝（下川結琉、又吉純菜）全国大会出場
個人戦 女子：下川結琉 3位、又吉純菜 6位、男子：仲里だいち 6位
【学校別順位】 総合44位 男子43位 女子36位
6月 1日 慰霊の日統一LHR
6月 6日 介護実習（校内代替実習）3年（～6/20）
6月 9日 第32回「児童・生徒の平和メッセージ」入賞 平井華織・川満彩貴・知念穂波（3年）
6月12日 全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園」九州・沖縄ブロック審査会出場（10校/60校中）
上原美鈴・奥山倫（3年）、松長洋汰郎（1年）
6月17日 生徒総会、 防災訓練
7月11日 前期末考査（～7/12）
7月13日 個人面談（～7/20）
7月15日 生徒会長選挙
7月16日 第101回全国高等学校野球選手権沖縄大会パンフデザイン最優秀デザイン親川弥玲（2年）
7月19日 性教育講話、 第1回学校評議委員会
7月20日 ビオスの丘フォトコンテスト2022 ビオスの丘賞 神谷亜珠、平井華織（3年）
7月20日 スポーツアイランド沖縄ロケット審査委員会賞 与那覇拓、平井華織、瑞慶覧光優（3年）
7月21日 夏季休業前全体集会 ※夏季休業期間（7/22～8/29）

- 7月31日 第51回全国高校書道展 (四国大学主催)
〈準特選〉7名 〈入選〉26名 〈佳作〉28名
- 8月23日 第9回九州地区介護技術コンテスト優良賞 新城夏帆、仲野蓮華、名嘉真百葉、銘苺真捺 (2年)
- 8月23日 2022年度第32回沖縄県高等学校野外スケッチ大会 優良賞 川満彩貴 (3年)
- 8月24日 令和4年度高文連写真専門部撮影大会 優秀賞 村山碧 (1年)
優良賞 宮城青波 (2年) 松長洋汰郎 (1年) 佳作 源河由樹 (2年)
- 9月15日 リーダー研修
- 9月22日 オープンスクール
- 9月24日 第9回高校生フォトグランプリ 入選 村山碧(1年)、上原美鈴、奥山倫(2年)
- 9月27日 第8回北九州高校生イラストコンテスト 特別入賞 下川結琉(3年)
- 9月30日 前期終業式
- 10月1日 秋休み(～4日)
- 10月5日 後期始業式・後期HR役員認証式
- 10月6日 第26回真和志高校外国語発表コンテスト
- 10月7日 1・2年基礎力診断テスト
- 10月9日 第21回全国書道展 (岐阜女子大学主催)〈大学賞〉川満彩貴(3年)
〈特選〉7名〈優秀賞〉24名〈秀作賞〉24名〈努力賞〉24名
- 10月16日 第32回全国産業教育フェア「第9回全国高校生介護技術コンテスト」 奨励賞(青森大会)
新城夏帆、仲野蓮華、名嘉真百葉、銘苺真捺(2年)
- 10月16日 第20回全沖縄高等学校対抗ボウリング選手権大会
男子個人戦2位 仲里だいち(3年)
男子団体4位 仲里だいち、大瀨高平(1年) 女子団体2位下川結琉(3年)、又吉純菜(1年)
- 10月19日 第6回アートコンクール 優良賞 玉城侑香(2年)
- 10月21日 真和志フェスティバル(～22日)
- 10月28日 新人大会等激励会
- 10月29日 ・令和4年度沖縄県高等学校新人体育大会ボウリング競技
女子個人戦2位 又吉純菜(1年) 女子団体戦2位入賞
・第151回九州地区高等学校野球選手権大会パンフレットデザイン 最優秀賞 親川弥玲(2年)
- 10月31日 ・第46回沖縄県高等学校総合文化祭[美術・工芸部門] 平面1名 立体2名 優良賞
・第4回学生かりゆしウェアデザインコンテスト 優良賞 平井華織(3年)
・第19回田山淳朗賞高校生ファッション画コンテスト熊本朝日放送賞 奥山倫(3年)
・第8回北九州高校生イラストコンテスト特別入賞 下川結琉(3年)
- 11月1日 第69回全琉小・中・高校図画作文書道コンクール
【書道の部】 優秀賞1名 優良賞4名 佳作25名 【絵画・デザインの部】 佳作7名
- 11月1日 ゆい教室志願前相談(～11/4)、 追認考査
- 11月12日 令和4年度グローバル・リーダー育成海外短期研修事業(オーストラリア研修 ～11/21)
中曽根 心椰(みらい福祉科2年)参加
- 11月15日 令和4年度「税に関する高校生の作文」那覇県税事務所賞 宮城美仁加
- 11月16日 環境学習(地域奉仕)
- 11月18日 令和4年度「家庭の日」絵画・ポスターコンクール
生徒の部 優良賞 高村葉の子(1年) 親川弥怜(2年)
特別支援の部 最優秀賞 宮里日和(1年) 優秀賞 上原拓巳(1年)
- 11月19日 美ら島おきなわ文化祭2022 ちむぐくる結フェスタ ステージ出場 手話部
- 11月28日 秋期介護実習(1年～12/2、2年～12/8)
- 12月1日 芸術鑑賞「お笑い米軍基地」
- 12月6日 クリエイティブアーツコース卒業記念展(～12/11)
- 12月8日 島尻特別支援学校とみらい福祉科1年との共同学習①
- 12月10日 ガクアルFESTAスペシャル2022冬 最優秀賞 手話部
- 12月11日 第6回全九州高等学校総合文化祭写真部門 九州高文連賞 宮城青波(2年)
- 12月15日 島尻特別支援学校とみらい福祉科1年との共同学習②
- 12月19日 第2回学校評議員会
- 12月21日 M3チャンピオン
- 12月22日 島尻特別支援学校とみらい福祉科1年との共同学習③
- 12月23日 冬季休業前全体集会 ※冬季休業期間(12/24～1/5)
- 1月6日 第2回漢字力テスト
- 1月10日 後期期末考査(選択)～1/17
- 1月12日 後期期末考査(必修)
- 1月18日 金融講話(3年)、進路決定者による1・2年生への進路講話(1、2年)
- 1月20日 第3回漢字能力検定、第3回英語検定試験(校内)
令和4年度明るい選挙ポスターコンクール 優秀賞 平良こころ(3年)

1月23日 人権講話「サイバー犯罪防止教室」
1月29日 第35回介護福祉士国家試験（10名受験）
2月 2日 学年末考査 ～2/3
2月 6日 スポレク、予餞会
2月 7日 令和4年度沖縄県児童生徒等表彰 他の児童生徒の模範部門
（介護技術コンテスト）新城夏帆、仲野蓮華、名嘉真百葉、銘苺真捺（2年）
2月20日 第3回学校評議員会
3月 1日 第54回卒業式
卒業生総数101名（男子60名 女子41名）

3. 学校教育目標

1 教育目標

自己の将来の進路について、自分で考え、自分で判断し、自分の責任で選択できるとともに、他者を尊重できる思いやりのある生徒を育成する。

2 教育方針

- (1) 単位制の特性を最大限にいかし、生徒一人ひとりの個性の伸長に努める。
- (2) 興味・関心、能力・適性や進路などに応じ、自ら学習計画を立て積極的に学習に参加する自己決定力のある個性豊かな生徒を育成する。
- (3) 自由と責任を重んじ、自らの意思で生活規範を守るとともに自分とは異なる意見に十分耳を傾け、他者を尊重できる思いやりのある生徒を育成する。
- (4) 豊かな人間性や社会性を身につけ、時代の変化に柔軟に対応できるたくましい生徒を育成する。

3 経営方針

- (1) 本校の強みである生徒支援力を最大限に発揮し、生徒の社会的・職業的な自立に向け、学習指導・生徒指導・教育相談等による多角的かつ重層的なキャリア支援に取り組む。
- (2) 報告・連絡・相談をとおして情報の共有化を図り、職員同士の同僚性と協働性を高め、風通しの良い活気に満ちた学校づくりに努める。
- (3) 職員の自主・向上性を促し、教育者としての使命感・倫理観及び指導力・実践力の向上を図る。
- (4) 家庭・地域・関係機関との連携を深め、信頼される特色ある学校づくりに努める。

4 重点努力事項

(1) 学習指導の充実

- ① 選択科目登録説明会などで履修ガイダンスを充実させ、主体的に学ぶ態度を育てる。
- ② 授業の規律を確立するとともに、言語活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する授業に取り組み、わかる授業を実施する。
- ③ 各教科の到達目標となる基礎・基本を明確にし、その確実な定着を図る指導を徹底する。
- ④ ICT等を積極的に活用し、生徒の基礎学力の向上に努める。
- ⑤ 対外的な競技会や発表会などへの参加、各種資格取得を奨励する。
- ⑥ 図書館の蔵書を生徒や時代が求める内容に替え、生徒一人ひとりの読書量の向上を図る。
- ⑦ 支援企業の開拓を図り、生徒の学習発表の場とする。

(2) キャリア教育の充実

- ① 生徒一人ひとりが自己の個性に気づき主体的に進路を選択する能力、態度を育成するとともに、進路の早期決定を促す。
- ② 進路に関する情報を全教職員が共有し、出口指導の充実を図り、進路決定率の向上を図る。
- ③ 企業、事業所等の関係機関と連携を深め、体験学習を充実するとともに望ましい職業観や勤労観を育てる。
- ④ PTA・同窓会、県内企業と連携し進路研修会などを開催するとともに、生徒・保護者の進路に関する意識の高揚を図る。

(3) 生徒指導の充実

- ① 基本的な生活習慣を確立するとともに、場にふさわしい身なりを自らの判断で選択できる能力を育成する。
- ② 勤怠状況の改善を図るとともに身なりの指導を充実するため、計画的な年次集会を実施する。

- ③ 生徒会活動やホームルーム活動の活性化を図り、成就感や達成感を味わえる学校行事を行う。
 - ④ 部活動やボランティア活動を奨励して部活動の加入率を向上させる。
 - ⑤ 家庭・地域・関係機関との連携・協力を強化し、問題行動やいじめの未然防止に努める。
- (4) 健康の保持増進と安全教育の徹底
- ① 健康に関心を持ち、健康的な生活を実践していく能力を育てる。
 - ② 健康診断や健康相談を充実し、生徒・教職員の健康の保持・増進を図る。
 - ③ 教職員間で必要な情報を共有し、心身の健康問題を抱えている生徒の早期発見とその課題解決に
関係機関と連携してあたる。
 - ④ 生徒の安全管理・安全教育を点検し、再構築を図る。
 - ⑤ 学校の危機管理体制の点検・再構築を行い、全教職員へ周知徹底する。
- (5) 学校改革の推進
- ① 単位制におけるコース制及び学科制を検証し、教育内容の質の維持・向上の観点からカリキュラム・マネジメントの確立を図る。
 - ② 校区内の中学校を積極的に訪問し、本校の特色ある教育システム等の理解を図るとともに、本校への要望等に対して適切に対処する。
 - ③ 集中講座開設や高卒認定といった学外取得単位の認定など、特色ある教育課程の編成に努める。
 - ④ 生徒の基礎学力の確かな育成、主体的・対話的な深い学びの視点に立った授業改善に取り組む。
- (6) 教育相談の充実
- ① 全教職員が生徒の多様な個性や能力などを多面的に評価するとともに、受容的な態度で接し共感的な理解を深める。
 - ② 自らの生き方を自らの力で選択できるように最大限の援助を行う。
 - ③ 全教職員が積極的に校内巡視、家庭訪問や個人面談を行い生徒の悩みを把握するとともに、授業参加の手助けなど、教育相談体制を強化して中途退学者の減少を図る。
 - ④ 特別な支援が必要な生徒については、保護者や関係機関と積極的に連携し適切なカウンセリングを行う。
 - ⑤ 校内に安心・安全な生徒の居場所を提供し生徒と教師を繋ぐ役目を担い、不登校の対策に努める。
- (7) 教職員の資質・能力の向上
- ① 各種研修会への参加や各教科、各部など校内研修会の開催を奨励するとともに、教職員評価システムを活用し全教職員が自己の資質・能力の向上を目指す雰囲気醸成する。
 - ② 人権意識の向上など、職員のリーガル・マインドを高める研修等を開催し、危機管理能力の向上を図る。
- (8) 環境及び施設設備の整備促進
- ① 単位制としてそれぞれのコース・学科の特性が十分発揮できるよう施設設備の改善を図る。
 - ② 老朽施設の改築と学科設置に伴い、施設設備マスタープランを策定する。
 - ③ 計画的に校内緑化を推進し、緑化コンクールなどへ積極的に応募するとともに、全教職員・全生徒が花づくりに関わる雰囲気醸成する。
- (9) 開かれた学校づくりの推進
- ① 卒業生や地域人材など外部講師を積極的に活用するとともに、学校評議員による会議の一層の充実を図る。
 - ② 内部評価や外部評価の充実を図り学校経営の改善に役立てる。
 - ③ P T Aや地域、関係機関・団体との連携を深め、生徒の健全育成を目的としたネットワーク型教育支援の体制構築を図る。
- (10) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の推進
- ① 島尻特別支援学校真和志高等学校分教室「ゆい教室」は、連携学級で可能な限り「共に学ぶ」を追求する。その研究と検証を教育行政や島尻特別支援学校、関係機関等と連携し努める。

4. 各部・各年次・各教科の重点努力目標

(1) 各部の重点努力目標

部	事 項	目 標
教 務	1 教育課程について	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修などを通して全職員で教育課程の共通理解を図り、内容を深める。 ○生徒本人や保護者に向け、あらゆる機会に教育課程の周知徹底に努める。 ○単位制の特色を生かす科目の充実に取り組むとともに、生徒自身の進路に応じた適正な科目選択が出来るように働きかける。 ○新学習指導要領に向けて選択科目等の研究に努める。
	2 学校運営支援システムについて	<ul style="list-style-type: none"> ○データの定期的なバックアップと保守管理
	3 単位認定に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○技能検査、高校卒業程度認定試験等の単位認定に関する取り扱いや手続き等の周知を図る。 ○追試の取り組みを強化する。
	4 指導要録、諸表簿の作成保管	<ul style="list-style-type: none"> ○実務処理を検討し、効率化を図る。 ○諸表簿等の処理手続きを明確にする。 ○指導要録の書式変更に伴う記載項目を検討する
	5 教務関係事務の合理化と簡素化	<ul style="list-style-type: none"> ○学籍異動に関する迅速な対応、適切な事務処理体制の確立。 ○諸手続きの手順の周知徹底を図る。
	6 高校入試	<ul style="list-style-type: none"> ○関係部署と連携をして、入試業務の円滑な運営に努める。
	7 行事	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の目標を踏まえた行事を推進し、社会的・職業的自立に必要な意欲・態度や資質・能力を養う活動への取り組みを行う。 ○年次会や関係部署との連携を強化し、行事の活性化に努める。
	8 広報	<ul style="list-style-type: none"> ○学校案内（パンフレット、ポスター、ホームページ等）の作成と各中学校への配布。 ○オープンスクールの推進。 ○各中学校訪問や上級学校訪問時の学校紹介。
	9 視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> ○視聴覚教室の機器の管理
	10 渉外	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA役員を中心にPTA行事などへの円滑な運営を図る。

部	事 項	目 標
進 路 指 導	1 進路意識の育成	<p>○自己の進路や将来の生き方等について考えさせ、具体的な目標を持たせる指導の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な進路相談、生徒への声かけ推進 ・HR担任が計画的な進路指導を実施するための援助と資料提供 ・進路講演会、進路別説明会の実施 ・進路を決定した生徒への継続的な支援 ・進路調査に基づく進路未決定者に対する個別指導 <p>○各教科・学習委員と連携し、基礎学力の向上に努め、課外講座等を通して各種資格・検定取得等を奨励する。</p>
	2 進路の早期決定指導	<p>○HR担任・年次会・進路部が連携し、三者面談や個人面談を通して早期の進路決定を促し、計画的に進路活動ができるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路部を中心に行う総合的な探究の時間の計画的な実施 ・資料（進路の手引や進路適性検査等）の提供・進路別説明会の実施 <p>○「使っ手帳」を全生徒に配布し、ノートの活用及びスケジュール管理ができるよう指導する。</p> <p>○進路先ごとの手続き方法について周知徹底を図る。</p> <p>○各年次集会等を通し、勤怠状況が大学入試や就職試験等に大きく影響することを認識させる。</p> <p>○講話・体験学習・ガイダンス等を通じて生徒の就職に対する意識改革を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業人講話・職業講話・出前講座等の実施 ・3年次対象の県外企業職場体験実習の呼びかけ ・県内外就職面接会への積極的な参加の奨励 ・マナー講習会の実施 ・就職ガイダンスの実施 ・キャリア教育の取り組み <p>○生徒の適性に応じた進路先を提案しながら、県内・県外の企業開拓に努める。</p> <p>○LHR・総合的な探究の時間、夏休み等を利用した志願書・履歴書指導等の実施を充実させる。</p>
	3 効果的な進路支援	<p>○進路室の効果的な利用の推進と情報提供の工夫を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路だより」や「就職ガイド」による最新の進路情報の提供 ・LHR等を活用した進路室利用の推進 <p>○キャリアセンター、ハローワーク等外部機関との連携を強化する。</p> <p>○生徒の興味・関心を考慮した情報提供の工夫を図る。</p> <p>○ホームページ等を活用し、進路に関する広報を充実させる。</p> <p>○情報機器を活用した進路支援の充実を図る。</p> <p>○進学を希望している生徒への奨学金制度の周知徹底に努める。</p>

部	事 項	目 標
美化 営繕	1 校内環境の美化	<ul style="list-style-type: none"> ○「使えば使うほどきれいになる学校」の推進。 ○美化委員の活動を通して生徒の環境美化に対する意識を高め、思いやりの心を育てる。 ○自主的なゴミの3種分別の徹底。 ○環境問題に関する施設訪問等の実施。 ○清掃時注意事項をクラスへ掲示。 ○全清掃区域に職員を配置し、清掃の徹底を図る。 ○全職員による声かけやポスターなどによる環境意識の喚起。
	2 校内緑化について	○校内緑化・花作りを推進し、緑化に対する生徒の意識を高め、より良い学習環境を整える。
生 徒 指 導	1. 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ①カード指導等を通しての、勤勉に関する意識の育成 ②深夜徘徊に関する指導の実施
	2. けじめある生活態度の確立	<ul style="list-style-type: none"> ①真和志スタンダードの徹底 ②各部署と連携した問題行動に対する指導の実施 ③全職員によるチケットを利用したモラル・マナー指導の実施 ※統一した指導, その場指導の充実 ④HR担任と連携した身なり指導の実施 ⑤外部機関等と連携した情報収集および指導の実施
	3. いじめ防止及び思いやりのある生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ①保健カウンセリング部等と連携したいじめ問題への対処 ②生徒指導通信を利用したいじめ問題に対する意識の涵養 ③SNS等を使用する際の情報モラルの徹底
	4. 生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒会活動の自主性の促進 ②緻密な計画による生徒会活動の実践 ③一人一人を大切に楽しく、有意義な学校生活を目指す
	5. 部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ①新入生に対する対面式・部紹介を通じた部活動の周知 ②推戴式を通じた部活動に対する興味関心の涵養
	6. 交通安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①交通安全講話の実施 ②生徒指導通信を利用した情報提供および交通安全意識の涵養

部	事 項	目 標
保 健	1 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ○定期健康診断の受診率の向上および事後措置の徹底。 ○健康管理上配慮を要する生徒の把握と情報共有、必要に応じた支援体制の確立と関係職員との連携強化。 ○学校感染症の予防の徹底及び、発生時の感染拡大防止。
	2 保健教育 (保健指導・健康相談)	<ul style="list-style-type: none"> ○保健だよりや掲示物を活用した健康安全の情報発信、啓もう。 ○保健調査票、健康診断結果を活用した保健指導や健康相談の実施。 ○基本的生活習慣の育成。 ○学校三師と連携した専門的な健康相談等の実施。
	3 環境衛生	<ul style="list-style-type: none"> ○学校環境衛生の維持。 (飲料水、プール、換気・照度等)
	4 組織活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学校保健委員会を活用した、健康・安全等の課題解決に向けた、組織的な取り組み。
教 育 相 談	1 生徒の実態把握・問題の早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ○各部署との連携を密にして生徒の実態を把握し、問題の早期発見に努める。
	2 支援を要する生徒への早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラー・就学支援員を積極的に活用し、合理的配慮の方法や準不登校傾向の生徒の相談を迅速に行う。 ○外部相談機関との連携を行う。
	3 HR担任との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○担任との連携を密にし、生徒の状況把握および問題解決に努める。
	4 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○HR担任を通じて保護者と連携する。
	5 校内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の技量向上となるよう、生徒理解のための研修会を持つ。
	6 中途退学対策	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任や各分掌と連携し、協働体制で生徒理解と支援に取り組む。 ○中退対策で関わる生徒や保護者と連絡を密にし、信頼関係を構築する中で、効果的な中退対策の支援を行う。
事 務	1 施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の安全保持に努め、危険箇所の修繕等、迅速な対応を行う。
	2 予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ○法規・法令に則った正確・迅速な会計事務を目指す。
	3 給与の認定等について	<ul style="list-style-type: none"> ○法規・法令に則った正確・迅速な業務を目指す。

(2) 各年次の重点努力目標

部	事 項	目 標
一年次	1 基本的な生活習慣の確立	①身なりを整え、あいさつができる生徒を育てる。 ②年次集会等を利用し、集合整列や話を聞く態度を身につけさせる。 ③教育相談係や中途退学対策係、スクールカウンセラーと連携し、支援の必要な生徒に対応する。 ④生徒指導部と連携し、学校や社会のルールに対する規範意識をつけさせる。
	2 学習指導の育成	①教科担任と HR 担任の連携を密にし、習熟度別学習を利用しながら基礎学習の定着を図る。 ②教育課程の理解を深め、未履修者を減らす指導を行う。
	3 進路指導の充実	①講話の実施や、進路指導部からの情報提供を通して、就職・進学に対する意識を高揚する。 ②三者面談などを通して、家庭と連携を取りながら進路に対する意識付けを行う。
二年次	1 基本的な生活習慣の確立	○家庭と学校との連携を密にし、朝の遅刻と無届欠席を重点的に対応する。 ○普段の学校生活を通し、身なり・マナー教育を充実させ生徒の規範意識を高める。 ○担任と保健カウンセリング部との連携を密にし、支援の必要な生徒に対応する。
	2 学習態度の育成	○各部と連携し、意欲的に授業へ参加できる体制をつくり基礎学力の定着を図る。 ○教科担任や教育相談やと連携し支援の必要な生徒の学びに対応する。 ○全生徒の全教科単位修得と過年度未修得単位の取得を目指し支援を行う。
	3 キャリア教育の推進	○職業講話などを通して、生徒の好ましい職業観の涵養を図る。 ○生徒が自己分析を行い、自分を見つめ直す機会を作ることで、自己実現ができるような進路意識の向上を図る。 ○各種資格検定に積極的に取り組ませ、進路意識の向上を図る。
三年次	1 進路の早期決定と進路指導の強化	○進路説明会、職場見学会、体験学習、企業合同面接会への参加を通して、生徒に進路決定に向けて意識づけるよう指導する。 ○個別面接指導（キャリア・カウンセリング）を行い、適切な職業観・勤労観を育成する。 ○各種資格検定を積極的に受検させ、達成感と学習意欲の向上を図る。 ○進路部と3年次会との連携を密にし、進路の早期決定につなげる。
	2 基本的な生活習慣の確立	○出席状況をこまめに把握し、指導する。 （遅刻・欠席の多い生徒には常に保護者との連携を密にする） ○問題行動の予防に努め、生徒指導部との連携を図る。 ○進学・就職に向けた、身なり・マナー教育を徹底する。
	3 教育相談の積極的推進	○教育相談係やスクールカウンセラー等と連携を図る。 ○保護者との連絡・相談を充実させる。
	4 卒業に向けた指導	○取得単位と出席状況を絶えず確認し、適宜面談（三者・個人）を行い、卒業に向けた指導の充実を図る。

(3) 各教科の重点努力目標

科	事項	目標
国語科	1 基礎学力の向上と学習への動機づけ	○必履修科目「現代の国語」「言語文化」「文学国語」を習熟度別学級編成し、きめ細やかな指導を行う。 ○漢字力の定着に向けて漢字検定の案内を行い、受験ならびに合格者増を目指す。 ○各種コンクールの取り組みに向けて努力する。 ○進路指導部と連携した進路対策講座を実施する。
	2 進路指導に向けて	○必要に応じて個別指導の実施に努める。
地歴公民科	1 基礎学力の向上と学習への動機づけ	○視聴覚教材・コンピュータ・図書館・校外学習等を活用し、学習への興味・関心を持たせる。 ○基礎・基本的な知識の定着を図り、より発展的な学習へとつなげる。 ○教材・教具の不携帯の生徒指導の徹底。
	2 主権者教育の充実	○授業を通して主権者としての自覚を育む。
	3 進路指導の取り組み	○進路指導部と連携した進路対策講座の実施。
数学科	1 基礎学力の向上と学習への動機づけ	○必履修科目「数学Ⅰ」の習熟度別授業を実施し、生徒のやる気を引き出す指導法の工夫を行う。 ○教材の精選に努め、基礎学力を高める
	2 進路指導に向けて	○課外講座等で進学や検定対策を行い、学習意欲の向上を図る。 ○キャリア教育の視点に立った、授業方法の研究に努める
理科	1 基礎学力の向上と学習への動機づけ	○観点別評価を踏まえた授業展開と評価方法を工夫する。 ○授業内容を精選し、指導方法を工夫する。 ○必要に応じ小テスト等で理解度を確認し、基礎力の向上を図る。
	2 科学的な見方・考え方を育てる	○実験・実習を充実させる。 ○ITC 機器の活用を図る。 ○観点別評価の共通理解に努める。
	3 安全管理を徹底する	○実験・実習時の事件器具の安全な取り扱い方を指導販売する。 ○実験機器・教具の更新と適切な管理に努める。
保健体育科	1 教科の目標	○学習態度の育成。(体づくりと集団行動の育成の課題解決、自主的・主体的集団の形成) ○施設利用心得やマナーの遵守、教材・教具の整理整頓や清掃の徹底。 ○健康・安全面の指導。(健康管理能力・危機管理能力の育成) ○保健学習を通して生命尊重と将来の自己実現に向けた自己指導能力の育成。
	2 学習への動機づけ	○授業の創意工夫・運動技能の向上。(技術構造の解明、基礎・基本の重視と系統性の確立) ○選択科目等の研究 ○「琉球舞踊」「古武術」Ⅰ・Ⅱの履修に伴う技術向上と段位取得の推進。 ○体育学習ノートの活用。
外国語科	1 基礎学力の向上と学習への動機づけ	○学習の定着、向上を目標とした授業・教材研究 ○習熟度授業における指導形態や教材の工夫 ○視聴覚教材やソフトウェアの効果的な活用 ○ICTを活用した教材研究の充実 ○ティームティーチングによる指導の充実、教材共有
	2 応用力の養成	○各種コンテスト(スキット、スピーチ、レシテーション等)への積極的な取り組み ○留学・国際交流プログラム参加への積極的な呼びかけ
	3 自己理解・異文化理解	○英語、中国語、スペイン語圏の文化、また、自国の文化理解を促進する授業の展開 ○課外講座等の指導体制の強化
	4 進路指導部との連携	○進学・就職試験対策における個別指導の充実

科	事 項	目 標
芸術科	<p>〈音楽〉</p> <p>1 教科の目標</p> <p>2 学習活動の動機づけ</p> <p>3 施設設備の整備</p>	<p>○個に応じた指導で基礎基本の徹底を図る。</p> <p>○生徒一人一人の実態に合わせた授業作りを行い、「わかる」「できる」授業の実践を目指す。</p> <p>○自己表現するための基本的な技能を身につけ、豊かな表現力を養う。</p> <p>○クラスコンサート等を実施し、発表を通して表現する喜びを体験させる。</p> <p>○備品（楽器等）を扱う時の心がけやマナーを身につけさせ、心の教育に繋げる。</p> <p>○音楽コンクール等、対外的な活動への参加を目指す。</p>
	<p>〈書道〉</p> <p>1 教科の目標</p> <p>2 学習活動の動機づけ</p> <p>3 施設設備の整備</p>	<p>○個に応じた指導で基礎基本習得の徹底を図り、書写能力の向上を目指す。</p> <p>○表現と鑑賞を通して基礎的な知識を学び、書の伝統と文化について理解を深める。</p> <p>○表現することの喜びや書を楽しむ態度を通して、感性を高め、書に親しみ書を愛好する心情や豊かな心の育成を図る。</p> <p>○技法の練習を繰り返して行い、習得の状態を生徒自身で確認させる。</p> <p>○教材を工夫し、日常生活における書への関心を高め、生涯学習へと繋げる。</p> <p>○互評会や班活動を通して生徒の自主的発言を促し、自己の目標を明確にさせる。</p> <p>○校内での展示会の場を設ける。</p> <p>○高文祭、各種コンクール、書写検定など、対外的活動へ積極的に参加する。</p> <p>○用具・用材の扱い方の指導を強化するとともに、保管場所および使用する生徒を固定化・明確化する。</p>
	<p>〈美術・クリエイティブアーツコース〉</p> <p>1 教科の目標</p> <p>2 学習活動の動機づけ</p> <p>3 施設設備の整備</p>	<p>○生徒の個性や技量に応じた表現力を身につける。</p> <p>○自己の専門的な課題への取り組みを推進する。</p> <p>○鑑賞や講評会を通して発表力を伸ばす。</p> <p>○教科全体で生徒の実態、要望に即した教育課程の見直しを図る。</p> <p>○校外体験・鑑賞学習の実施。</p> <p>○卒業記念展の充実と継続的实施。</p> <p>○教科と部活動のつながりで、その発展性と活性化を図る。</p> <p>○高文祭等、対外的活動への積極的参加。</p> <p>○進路指導部と連携した進路対策講座の実施。</p> <p>○外部講師の授業実践で刺激を与える。</p> <p>○美術に関する検定の推進。</p> <p>○コースの特色を生かす為に幅広い多様な科目に対応出来る、施設設備の充実を図る。</p> <p>○教材教具を共有化・精選し、実習環境の充実を図る。</p> <p>○備品（道具等）を扱うときの注意やマナーの指導を徹底し、心の教育・安全教育に繋げる。</p>

科	事項	目標
家庭科	1 基礎学力の向上と学習への動機づけ 2 基本的な生活指導 3 施設・設備の整備	○実生活に即した教材の工夫に努め、視聴覚機器等を活用したわかりやすい授業への実践を図る。 ○計画的な実習（被服・調理）を通して基礎基本の定着を図る。 ○全国高等学校家庭科技術検定4級（食物・被服・保育）の実施。 ○実習時の安全・衛生指導、服装指導の徹底。 ○実習後の清掃・整理整頓の徹底。 ○実習時における安全・衛生管理の徹底。 ○食材等の安全・衛生管理の徹底。
商業・情報科	1 情報社会で生き抜く知識や技術を身につける 2 社会人として必要な知識・マナー等を身につける	○変化の著しい情報社会の中で、必要な情報を収集・活用し、自ら判断できる知恵を身につけさせる。 ○情報モラルや情報社会での望ましい態度を身に付けさせ、問題解決能力を向上させる。 ○教材に携帯電話やインターネットなどの内容を盛り込み、生徒の実生活とリンクさせてリアリティのある授業実践を展開する。 ○実社会で即戦力となる力として、検定取得を推奨する。 ○言葉遣いや接遇態度等、社会人として必要な知識・技術・マナー教育を行う。
福祉科	〈みらい福祉科〉 1 指導目標 2 学習活動の動機づけ 3 基本的な生活指導 4 学科充実に向けて	○地域福祉を担いリードする福祉人材の育成。 ○知識・技術・思いやりの心を兼ね備え、実践力のある人材育成を目指した体験的な授業の実施。 ○資格取得や養成研修等を通して、主体的な取り組みを促進する。 ○地域や福祉施設、指導者等との交流事業や特設授業、ボランティア活動、他府県の福祉系高校との交流会を通して、多様な福祉観を育む。 ○福祉従事者としてふさわしい態度、教育の指導徹底と身なり・勤怠指導の展開。 ○他者と尊重した姿勢や丁寧な言葉遣いなど、基本的な態度を身につける。 ○施設設備や内規、教育課程、施設実習等のあり方について研究・充実化を進める。 ○学科独自のオープンスクールをはじめ、特色のある学科の広報活動を積極的に行う。
ゆい教室	1 ゆい教室の教育目標及び取り組み	○共生社会の形成及びインクルーシブ教育システムの構築に向け、障害のある生徒と障害のない生徒が共に学ぶ仕組みと、一人一人の教育的ニーズに応じた学習指導の充実を努める。 ・【知】 社会規範について考え、実践する態度を育てる。 ・【徳】 集団生活に積極的に参加し、健全な人間関係を築く態度を育てる。 ・【体】 基本的な生活習慣を整え、意欲を持って活動する態度を育てる。

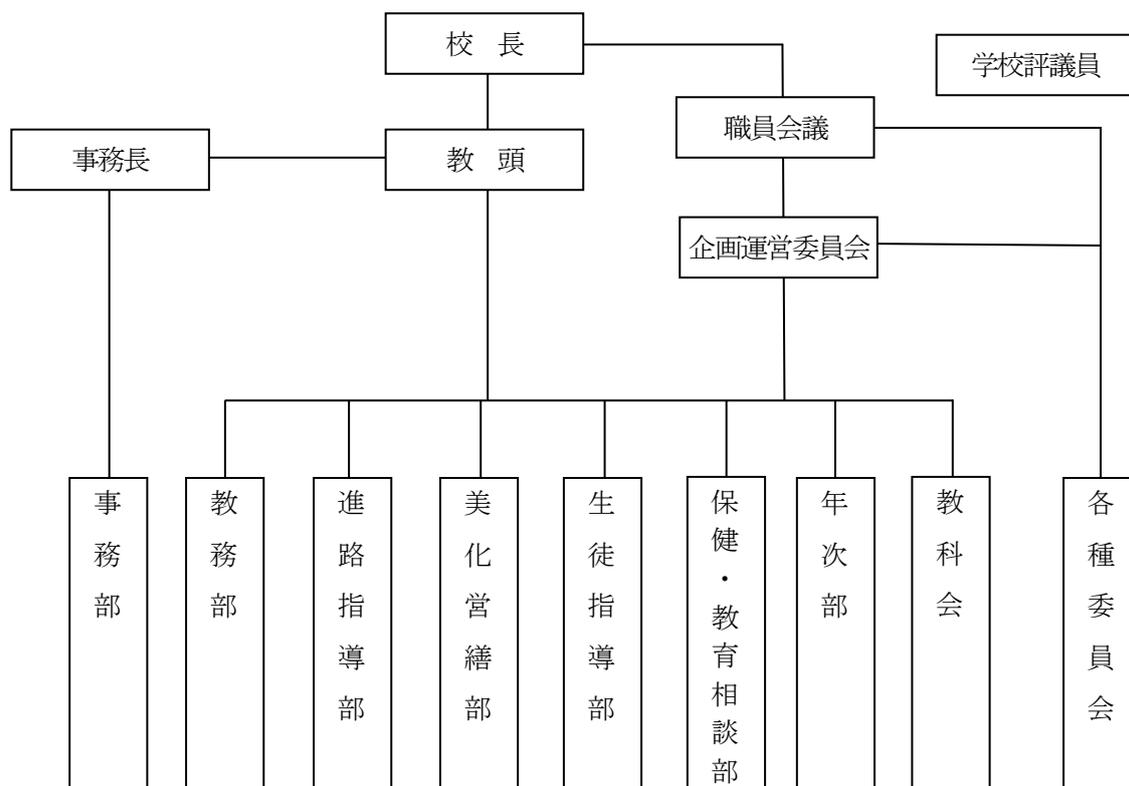
5. 職員構成・校務運営組織・各種委員会

(1) 職員構成

令和5年4月1日現在

	校長	教頭	事務長	教諭	ゆい教室	養護教諭	実習助手	事務	司書	用務員	A L T	非常勤講師	特別支援教育 支援員	学校三師	P T A職員	計
男	1	1		19	2			1		1		4	1	2		32
女		1	1	32	3	2	4	3	1	1	1	10	2	1	2	64
計	1	2	1	51	5	2	4	4	1	2	1	14	3	3	2	96

(2) 校務運営組織図



6. 各学科・コースの目標・教育課程表

(1) 各学科・コースの目標

課程	学科	コース	目標・特色・概要
全 日 制 （ 単 位 制 ）	みらい福祉科		<p>福祉に関する基礎的知識と技術を習得させ、次世代を担う福祉人材の育成を目指す。</p> <p>充実した校内外介護実習や地域連携事業、ボランティア活動等を通して介護・福祉関連職業に従事する資質と能力を育成し、進学・就職活動を支援する。</p> <p>県内唯一の介護福祉士養成校として、在学中の介護福祉士国家試験合格をはじめとする様々な資格取得を目指し、職業人を育成する。</p>
	普通	普通コース	<p>基礎基本を定着させ、幅広い学力を養成し、生徒個々の進路目標の実現を目指す。県内外の大学・短大・専門学校等への進学を支援するとともに、多様な資格取得の機会を設け、就職の支援も行う。単位制の特色を生かし、商業科目や情報一般、文化教養、語学等の幅広い学校設定科目を設置し修得させ、生涯学習社会に対応できる能力を育成する。</p>
	科	クリエイティブアーツコース	<p>美術教育を通して表現力を伸ばし、感性豊かで創造的な人間を育成する。美術の基本的な知識や技法を習得するとともに、コースとしての特色を生かし、美術系各学校への進学を支援し、専門的技術者の育成を目指す。</p> <p>2年次より次の3つの専攻に分かれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■イラストレーション・まんが表現専攻 ■写真・映像デザイン専攻 ■陶芸専攻

令和3年度入学生 みらい福祉科 教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日制課程

共・専	学年・類型等		標準 単位数	1 年 次	2 年 次	3 年 次	各教科単 位数合計	備考
	教科	科目						
各学科に共通する各教科・科目（共通教科・科目）	国語	◎国語総合	4	4			4～8	※2年次「現代文A」「数学A」から1科目選択 ※3年次「教養国語」「化学基礎」「英語表現 I」から1科目選択
		☆現代文A	2		②			
		★教養国語	2			②		
	地理歴史	◎世界史A	2	2			4	※「日本史A」「地理A」から1科目選択
		○日本史A	2]	2		
		○地理A	2					
	公民	◎現代社会	2			2	2	
	数学	◎数学 I	3	4			4～6	※2年次「現代文A」「数学A」から1科目選択
		☆数学A	2		②			
	理科	◎科学と人間生活	2		2		4～6	※3年次「教養国語」「化学基礎」「英語表現 I」から1科目選択
		◎生物基礎	2		2			
		☆化学基礎	2			②		
	保健体育	◎体育	7～8	4	2	2	8	※「こころとからだの理解」を保健に代替
◎保健		2						
芸術	○音楽 I	2]	2		2	※「音楽 I」「美術 I」「書道 I」から1科目選択	
	○美術 I	2						
	○書道 I	2						
外国語	◎コミュニケーション英語 I	3	4			4～6	※3年次「教養国語」「化学基礎」「英語表現 I」から1科目選択	
	☆英語表現 I	2			②			
家庭	◎家庭総合	4		2	2	4	※福祉専門選択科目「人間と社会」として読み替え可	
情報	◎社会と情報	2		2		2		
主として 各教科・専門 科目へ専門 科目として 開設される 科目	福祉専門 指定科目	<input type="checkbox"/> 社会福祉基礎	2～6		2	2	4	
		<input type="checkbox"/> 介護福祉基礎	2～6	3		2	5	
		<input type="checkbox"/> コミュニケーション技術	2～4	2			2	
		<input type="checkbox"/> 生活支援技術	4～12		5	6	11	
		<input type="checkbox"/> 介護過程	2～6		2	2	4	
		<input type="checkbox"/> 介護総合演習	2～3	1	1	1	3	
		<input checked="" type="checkbox"/> 介護実習	4～16	2	3	2	7	
		<input type="checkbox"/> 介護実習	4～16	1	2	3	6	
		<input type="checkbox"/> こころとからだの理解	2～8	2	2	4	8	
		合計			31	31	30	92
共通科目単位数 合計			1年次(20単位) 2年次(12単位) 3年次(6単位) 合計38単位					
専門科目単位数 合計			1年次(11単位) 2年次(19単位) 3年次(24単位) 合計54単位					
科目単位数 合計			各年次:(30～31単位)					
総合的な探究の時間			2・3年次1単位 合計2単位 (1年次は介護総合演習で代替)					
特別活動			ホームルーム活動 各年次1単位 合計3単位					
単位数 総合計			合計単位数(94単位)					

◎必履修科目 ○選択必履修科目 □学科必履修科目 ☆共通履修科目 ★学校設定科目

■介護実習は、福祉施設で夏季休業中等に実施する ■介護実習は、卒業単位に含めない

1年次8日間(2単位)、2年次11日間(3単位)、3年次8日間(2単位)

【備考】◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)

令和3年度入学 普通科(クリエイティブアーツコース)教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日制課程

共・専	学年・類型等		標準 単位数	1 年次	2 年次	3 年次	各教科 単位数 合計	自由選択履修科目 (2・3年次)
	教科	科目						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 (共 通 教 科 ・ 科 目)	国語	◎国語総合	4	4			8	◇国語表現④ ◇現代文A② ◇古典A② (3年生のみ選択可) ★発展国語②
		☆現代文B	4		2	2		
	地理歴史	◎世界史A	2	2			4	◇世界史B④ ◇日本史B④ ◇地理探求④ ★世界史基礎② ★日本史基礎② ★沖縄の歴史②
		○日本史A	2		2			
		○地理A	2					
	公民	◎現代社会	2			2	2	★就職社会②
	数学	◎数学Ⅰ	3	4			4	◇数学A② ◇数学B② ◇数学活用② ★発展数学② ★就職数学② ★数学基礎②
	理科	◎科学と人間生活	2	2			4	◇物理基礎② ◇化学基礎② ◇地学基礎② ★生活の科学② ★環境の科学② ★郷土の自然②
		◎生物基礎	2		2			
	保健体育	◎体育	7~8	4	2	2	10	
		◎保健	2	2				
	芸術	◎美術Ⅰ	2	2			4	◇美術Ⅲ② ★沖縄の音楽② ★硬筆② ★書の表現(応用)② ★書の表現(基礎)②(3年生のみ選択可)
		□美術Ⅱ	2		2			
外国語	◎コミュニケーション英語Ⅰ	3	4			4	◇コミュニケーション英語Ⅱ④ ◇コミュニケーション英語Ⅲ④ ◇英語表現Ⅰ② ◇英語会話② ★英語演習基礎②(2年生のみ) ★英語演習応用④(3年生のみ) ★中国語基礎② ★中国語Ⅰ④ ★中国語Ⅱ④ ★スペイン語基礎② ★スペイン語Ⅰ④ ★スペイン語Ⅱ④	
家庭 情報	◎家庭総合	4		2	2	4	★情報活用②(3年生のみ選択可)	
	◎社会と情報	2		2		2		
文化教養							★囲碁② ★囲碁Ⅱ② ★将棋② ★生活教養②	
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目 (専 門 教 科 ・ 科 目)	商業						◇簿記④ ◇財務会計Ⅰ④ ◇情報処理② ★ビジネスマナー② ★ビジネス計算②	
	家庭						◇子ども文化② ◇服飾手芸② ◇フードデザイン②	
	福祉						◇介護福祉基礎② ◇コミュニケーション技術② ◇こころからだの理解② ★手話レク②	
	体育						◇スポーツⅡ②(2年生のみ選択可) ★スポーツ課題研究②(3年生のみ選択可) ★古武術Ⅰ② ★古武術Ⅱ② ★琉球舞踊Ⅰ② ★琉球舞踊Ⅱ② ★フィットネス②	
	音楽						◇音楽理論② ◇声楽② ◇器楽② ◇音楽史② ★声楽探究② ★器楽探究②	
	美術						◇絵画④ ◇デジタルデザイン④ ◇グラフィックデザイン④ ◇環境造形④ ★陶芸一般④ ★写真一般④ ★美術課題研究④	
	美術 専 門 必 修	□美術史	1~2			2	10	
□素描		2~6		2				
美術 専 門 指 定 科 目	□構成	2~6			2	4	共通必修選択	
	□★コース基礎演習		4					
専 門 選 択 科 目	■素描	2~6				4	共通必修選択 2科目より1科目履修	
	■情報メディアデザイン	4						
	■★陶芸							
専 門 選 択 科 目	■★平面メディア表現			4		4	※2年次より左記の3つの専攻で科目選択	
	■映像表現					8		
共通科目単位数 合計				1年次(24単位) 2年次(14単位) 3年次(8単位) 合計46単位				
専門科目単位数 合計				1年次(4単位) 2年次(6単位) 3年次(12単位) 合計22単位				
自由選択科目単位数 合計				1年次(0単位) 2年次(8単位) 3年次(8単位) 合計16単位				
科目単位数 合計				各年次:28単位				
総合的な探究の時間				各年次1単位 合計3単位				
特別活動				各年次1単位 合計3単位				
単位数 総合計				各年次:30単位 卒業時の合計単位数(74~87単位)				

◎必修科目 ○選択必修科目 ☆共通履修科目 □コース必修科目 ■コース選択必修科目 ◇自由選択科目(★学校設定科目)
※2・3年次自由選択履修科目においては、時間割作成上登録できない科目もある。②・④は単位数

【備考】 ☆現代文B 分割履修(2, 3年次) ◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)
☆2,3年次選択科目「手話」→「手話レク」に名称変更

令和3年度入学 普通科(普通コース)教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日制課程

共・専	教科	科目	標準 単位	1 年次	2 年次	3 年次	各教科 単位数 合計	自由選択履修科目	
								1年次選択科目	2・3年次選択科目
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 (共 通 教 科 ・ 科 目)	国語	◎国語総合	4	4			8	★国語入門②	◇国語表現④ ◇現代文A② ◇古典A②(3年生のみ選択可) ★発展国語②(3年のみ選択可)
		☆現代文B	4		2	2			
	地理歴史	◎世界史A	2	2			4		◇世界史B④ ◇日本史B④(2科目は3年生のみ選択可) ◇地理探求④ ★世界史基礎② ★日本史基礎② ★沖縄の歴史②
		○日本史A	2		2				
		○地理A	2						
	公民	◎現代社会	2			2	2		★就職社会②
	数学	◎数学 I	3	4			4	◇数学A②	◇数学Ⅱ④ ◇数学Ⅲ⑥ ◇数学A② ◇数学B② ◇数学活用② ★発展数学② ★就職数学② ★数学基
	理科	◎科学と人間生活	2	2			4~6		◇物理基礎② ◇物理④ ◇化学基礎② ◇化学④ ◇生物基礎② ◇生物④ ◇地学基礎② ◇地学④ ★化学実習② ★生活の科学② ★環境の科学② ★郷土の自然 ※物理、化学、生物、地学はそれぞれの基礎科目を履修後選択することができる
		○化学基礎	2		2				
		○地学基礎	2						
		☆物理基礎 ☆生物基礎			② ②				
	保健体育	◎体育	7~8	4	2	2	10		
		◎保健	2	2					
芸術	○音楽 I	2	2			2~4	★硬筆②	◇音楽Ⅲ② ◇美術Ⅲ② ◇書道Ⅲ② (上記の科目は3年のみ選択可) ★硬筆② ★書の表現(基礎)② ★書の表現(応用)② ★沖縄の音楽②	
	○美術 I	2							
	○書道 I	2							
	1科目選択 ☆音楽Ⅱ ☆美術Ⅱ ☆書道Ⅱ	2 2 2	② ② ②						
外国語	◎コミュニケーション英語 I	3	4			4	★中国語基礎②	◇コミュニケーション英語Ⅱ④ ◇コミュニケーション英語Ⅲ④ ◇英語表現 I ② ◇英語会話② ★英語演習基礎②(2年生のみ) ★英語演習応用④(3年生のみ) ★中国語基礎② ★中国語 I ④ ★中国語Ⅱ④ ★スペイン語基礎② ★スペイン語 I ④ ★スペイン語Ⅱ④	
家庭	◎家庭総合	4		2	2	4			
情報	◎社会と情報	2	2			2		★情報活用(3年生のみ選択可)	
文化教養							★生活教養② ★ベーシック(英数)②	★囲碁② ★囲碁Ⅱ② ★将棋② ★生活教養②	
主として専門学科において開設される各教科・科目 (専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目)	商業							◇簿記④ ◇財務会計Ⅰ④ ◇情報処理② ★ビジネススキル② ★ビジネス計算②	
	家庭							◇子ども文化② ◇服飾手芸② ◇フードデザイン②	
	福祉							★手話② ◇介護福祉基礎② ◇コミュニケーション技術② ◇こころとからだの理解② ★手話レク②	
	体育							★古武術Ⅰ② ★琉球舞踊Ⅰ② ◇スポーツⅡ②(2年のみ選択可) ★スポーツ課題研究②(3年のみ選択可) ★古武術Ⅱ② ★古武術Ⅲ② ★琉球舞踊Ⅱ② ★琉球舞踊Ⅲ② ★フィットネス②	
	音楽							◇音楽理論② ◇声楽② ◇器楽② ◇音楽史② ◇器楽② ★声楽探究② ★器楽探究②	
	美術							◇絵画④ ◇ビジュアルデザイン④ ◇素描一般② ◇クラフトデザイン④ ◇環境造形④ ★陶芸一般④ ★写真一般④ ★美術課題研究④	
		◎必・○選択必・☆共通履修の単位数 ◇自由選択・★学校設定科目の単位数		26 2	12 16	8 20	46 38		
共通科目単位数 合計				1年次(26単位) 2年次(12単位) 3年次(8単位) 合計46単位					
選択科目単位数 合計				1年次(2単位) 2年次(16単位) 3年次(20単位) 合計38単位					
科目単位数 合計				各年次:28単位					
総合的な探究の時間				各年次1単位 合計3単位					
特別活動	ホームルーム活動			各年次1単位 合計3単位					
単位数 総合計				各年次:30単位 卒業時の合計単位数(74~87単位)					

◎必履修科目 ○選択必履修科目 ☆共通履修科目 ◇自由選択科目(★学校設定科目)
※2・3年次自由選択履修科目においては、時間割作成上登録できない科目もある。②・④は単位数

【備考】 ☆現代文B 分割履修(2, 3年次)、◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)
☆音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ・物理基礎・生物基礎の中から1科目選択する(2年次)
☆2,3年次選択科目「手話」→「手話レク」に名称変更

令和4年度入学生 みらい福祉科 教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日課程

共・専	学年・類型等		標準 単位数	1 年 次	2 年 次	3 年 次	各教科単 位数合計	備考	
	教科	科目							
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 (共 通 教 科 ・ 科 目)	国語	◎現代の国語	2	2			4~8	※2年次「標準国語」「数学A」 から1科目選択 ※3年次「発展国語」「化学基 礎」「論理・表現 I」から1科目 選択	
		◎言語文化	2	2					
		☆標準国語			②				
		★発展国語				②			
	地理歴史	◎地理総合	2	2				4	
		◎歴史総合	2				2		
	公民	◎公共	2		2			2	
	数学	◎数学 I	3	4				4~6	※2年次「標準国語」「数学A」 から1科目選択
		☆数学A			②				
	理科	◎科学と人間生活	2		2			4~6	※3年次「発展国語」「化学基 礎」「論理・表現 I」から1科目 選択
		◎生物基礎	2		2				
		☆化学基礎	2				②		
	保健体育	◎体育	7~8	4	2	2		8	
		◎保健	2						
	芸術	○音楽 I	2	2				2	※「音楽 I」「美術 I」「書道 I」 から1科目選択
○美術 I		2							
○書道 I		2							
外国語	◎英語コミュニケーション I	3	4				4~6	※3年次「発展国語」「化学基 礎」「論理・表現 I」から1科目 選択	
	☆論理・表現 I	2				②			
家庭	◎家庭総合	4		2	2		4	※福祉専門選択科目「人間と社会」 として読み替え可	
情報	◎情報 I	2		2			2		
主 と し て 専 門 学 科 に お け る 専 門 科 目 (専 門 科 目 に お け る 専 門 科 目 ・ 開 設 さ れ る 科 目)	福祉専門 指定科目	□社会福祉基礎	2~6		2	2	4		
		□介護福祉基礎	2~6	3			2	5	
		□コミュニケーション技術	2~4	2				2	
		□生活支援技術	4~12			5	6	11	
		□介護過程	2~6			2	2	4	
		□介護総合演習	2~6	1	1	1	3		
		□介護実習	2~16	1	2	3	6		
		□こころとからだの理解	2~8	2	2	4	8		
		合計			29	28	28	85	
共通科目単位数 合計				1年次(20単位) 2年次(12単位) 3年次(6単位) 合計38単位					
専門科目単位数 合計				1年次(9単位) 2年次(16単位) 3年次(22単位) 合計47単位					
科目単位数 合計				各年次:(28~29単位)					
総合的な探究の時間				2・3年次1単位 合計2単位 (1年次は介護総合演習で代替)					
特別活動				ホームルーム活動 各年次1単位 合計3単位					
単位数 総合計				合計単位数(87単位)					

◎必修修科目 ○選択必修修科目 □学科必修修科目 ☆共通履修科目 ★学校設定科目

介護福祉士国家試験受験資格取得のため、「■介護実習」を夏季休業期間中に実施する。

但し、夏季休業期間中の「■介護実習」は卒業単位に含まない。

1年次8日間(2単位)、2年次11日間(3単位)、3年次8日間(2単位)

【備考】◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)

令和4年度入学 普通科(クリエイティブ・アーツコース)教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日制課程

共・専	学年・類型等		標準 単位 数	1 年 次	2 年 次	3 年 次	各教科 単位数 合計	自由選択履修科目 (2・3年次)
	教科	科目						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 (共 通 教 科 ・ 科 目)	国語	◎現代の国語	2	2			8	◇国語表現④(3年生のみ選択可)
		◎言語文化	2	2				★古典読解②(3年生のみ選択可) ★標準国語②(2年生のみ選択可)
		☆文学国語	4		2	2		★発展国語②(3年生のみ選択可)
	地理歴史	◎地理総合	2	2			4	◇地理探究④
		◎歴史総合	2			2		★世界史基礎② ★日本史基礎②-★沖縄の歴史②
	公民	◎公共	2		2		2	★就職社会②
	数学	◎数学 I	3	4			4	◇数学A② ◇数学B② ★発展数学② ★就職数学② ★数学基礎②
	理科	◎科学と人間生活	2	2			4	◇物理基礎② ◇物理④ ◇化学基礎② ◇化学④
		◎生物基礎	2		2			◇生物④ ◇地学基礎② ◇地学④ ★化学実習② ★生活の科学② ★郷土の自然② ※物理、化学、生物、地学はそれぞれの基礎科目を履修後選択することができる
	保健体育	◎体育	7~8	4	2	2	10	
◎保健		2	2					
芸術	◎美術 I	2	2			4	◇美術Ⅲ② ★沖縄の音楽②	
	□美術 II	2		2			★硬筆② ★書の表現(基礎)② ★書の表現(応用)②	
外国語	◎英語コミュニケーション I	3	4			4	◇英語コミュニケーションⅡ④ ◇英語コミュニケーションⅢ④ ◇論理・表現Ⅰ② ★英語会話② ★英語演習基礎② ★英語演習応用④ ★中国語基礎② ★中国語Ⅰ④ ★中国語Ⅱ④ ★スペイン語基礎② ★スペイン語Ⅰ④ ★スペイン語Ⅱ④	
家庭 情報	◎家庭総合	4		2	2	4		
	◎情報 I	2		2		2	★情報活用	
文化教養							★囲碁② ★囲碁Ⅱ② ★将棋② ★生活教養②	
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目 (専 門 教 科 ・ 科 目)	商業						◇簿記④ ◇財務会計Ⅰ④ ◇情報処理② ★ビジネスマナー② ★ビジネス計算②	
	家庭						◇保育基礎② ◇服飾手芸② ◇フードデザイン②	
	福祉						◇介護福祉基礎② ◇コミュニケーション技術② ◇こころとからだの理解② ★手話レク②	
	体育						◇スポーツⅡ②(2年のみ選択可) ★スポーツ課題研究②(3年のみ選択可) ★古武術Ⅰ② ★古武術Ⅱ② ★琉球舞踊Ⅰ② ★琉球舞踊Ⅱ② ★ダンス②	
	音楽						◇音楽理論② ◇声楽② ◇器楽② ◇音楽史② ★声楽探究② ★器楽探究②	
	美術							◇絵画④ ◇ビジュアルデザイン④ ◇クラフトデザイン④ ◇環境造形④ ★陶芸一般④ ★写真一般④ ★美術課題研究④
		専門必修	□美術史	1~2			2	10
		□素描	2~8		2			
		□構成	2~8			2		
		□★コース基礎演習		4				
美術専門指定科目	共通必修選択	■素描	2~8			4	4	共通必修選択 2科目より1科目履修
		■情報メディアデザイン	2~6					
コース選択必修	陶芸専攻	■★陶芸					8	※2年次より左記の3つの専攻で科目選択
	イラスト・まんが表現専攻	■★平面メディア表現			4	4		
	写真・映像デザイン専攻	■映像表現	2~6					
共通科目単位数 合計				1年次(24単位) 2年次(14単位) 3年次(8単位) 合計46単位				
専門科目単位数 合計				1年次(4単位) 2年次(6単位) 3年次(12単位) 合計22単位				
自由選択科目単位数 合計				1年次(0単位) 2年次(8単位) 3年次(8単位) 合計16単位				
科目単位数 合計				各年次:28単位				
総合的な探究の時間				各年次1単位 合計3単位				
特別活動 ホームルーム活動				各年次1単位 合計3単位				
単位数 総合計				各年次:30単位 卒業時の合計単位数(74~87単位)				

◎必修科目 ○選択必修科目 ☆共通履修科目 □コース必修科目 ■コース選択必修科目 ◇自由選択科目(★学校設定科目)
 ※2・3年次自由選択履修科目においては、時間割作成上登録できない科目もある。②・④は単位数

【備考】 ☆文学国語 分割履修(2, 3年次) ◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)

令和4年度入学 普通科(普通コース)教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日制課程

共・専	教科	科目	標準 単位	1 年 次	2 年 次	3 年 次	各教科 単位数 合計	自由選択履修科目		
								1年次選択科目	2・3年次選択科目	
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 (共 通 教 科 ・ 科 目)	国語	◎現代の国語	2	2			8	★国語入門②	◇国語表現④(3年生のみ選択可) ★古典読解②(3年生のみ選択可) ★標準国語②(2年生のみ選択可) ★発展国語②(3年生のみ選択可)	
		◎言語文化	2	2						
		☆文学国語	4		2	2				
	地理歴史	◎地理総合	2	2			4		◇世界史探究④ ◇日本史探究④ ◇地理探究④ ★世界史基礎② ★日本史基礎② ★沖縄の歴史② ★就職社会②	
		◎歴史総合	2		2					
	公民	◎公共	2		2		4] ②		
		☆倫理	2							
		☆政治・経済	2							
	数学	◎数学Ⅰ	3	4			4	◇数学A②	◇数学Ⅱ④ ◇数学A② ◇数学B② ★発展数学② ★就職数学② ★数学基礎②	
	理科	◎科学と人間生活	2	2			4~6] 2 ②] ②]		◇物理基礎② ◇物理④ ◇化学基礎② ◇化学④ ◇生物基礎② ◇生物④ ◇地学基礎② ◇地学④ ★化学実習② ★生活の科学② ★郷土の自然② ★環境の科学② ※物理、化学、生物、地学はそれぞれの基礎科目を履修後選択することができる
		○化学基礎	2							
		○地学基礎	2							
		☆物理基礎 ☆生物基礎								
	保健体育	◎体育	7~8	4	2	2	10			
◎保健		2	2							
芸術	○音楽Ⅰ	2] 2			2~4		★硬筆②	◇音楽Ⅲ② ◇美術Ⅲ② ◇書道Ⅲ②(3年のみ選択可) ★硬筆② ★書の表現(基礎)② ★書の表現(応用)②(3年のみ選択可) ★沖縄の音楽②	
	○美術Ⅰ	2								
	○書道Ⅰ	2								
	1科目選択									
	☆音楽Ⅱ ☆美術Ⅱ ☆書道Ⅱ Iの連続で1科目選択	2 2 2		②] ②] ②]						
◎英語コミュニケーションⅠ	3	4			4	★中国語基礎②	◇英語コミュニケーションⅡ④ ◇英語コミュニケーションⅢ④ ◇論理・表現Ⅰ② ★英語会話② ★英語演習基礎② ★英語演習応用④ ★中国語基礎② ★中国語Ⅰ④ ★中国語Ⅱ④ ★スペイン語基礎② ★スペイン語Ⅰ④ ★スペイン語Ⅱ④			
家庭	◎家庭総合	4		2	2	4				
情報	◎情報Ⅰ	2	2			2		★情報活用		
文化教養							★生活教養② ★ベーシック(英数)②	★囲碁② ★囲碁Ⅱ② ★将棋② ★生活教養②		
主として専門学科において開設される各教科・科目 (専門教科・科目)	商業								◇簿記④ ◇財務会計Ⅰ④ ◇情報処理② ★ビジネスマナー② ★ビジネス計算②	
	家庭								◇保育基礎② ◇服飾手芸② ◇フードデザイン②	
	福祉							★手話レク②	◇介護福祉基礎② ◇コミュニケーション技術② ◇ここらとからだの理解② ★手話レク②	
	体育							★古武術Ⅰ② ★琉球舞踊Ⅰ②	◇スポーツⅡ②(2年のみ) ★スポーツ課題研究②(3年のみ) ★古武術Ⅰ② ★古武術Ⅱ② ★琉球舞踊Ⅰ② ★琉球舞踊Ⅱ② ★ダンス②	
	音楽							◇声楽② ◇器楽②	◇音楽理論② ◇声楽② ◇器楽② ◇音楽史② ★声楽探究② ★器楽探究②	
	美術								◇絵画④ ◇ビジュアルデザイン④ ◇素描 ◇クラフトデザイン④ ◇環境造形④ ★陶芸一般④ ★写真一般④ ★美術課題研究④	
		◎必・○選択必・☆共通履修の単位数 ◇自由選択・★学校設定科目の単位数	26 2	14 14	8 20	48 36				
共通科目単位数 合計				1年次(26単位) 2年次(14単位) 3年次(8単位) 合計48単位						
選択科目単位数 合計				1年次(2単位) 2年次(14単位) 3年次(20単位) 合計36単位						
科目単位数 合計				各年次:28単位						
総合的な探究の時間				各年次1単位 合計3単位						
特別活動				各年次1単位 合計3単位						
単位数 総合計				各年次:30単位 卒業時の合計単位数(74~87単位)						

◎必履修科目 ○選択必履修科目 ☆共通履修科目 ◇自由選択科目(★学校設定科目)
※2・3年次自由選択履修科目においては、時間割作成上登録できない科目もある。②・④は単位数

【備考】 ☆文学国語 分割履修(2, 3年次)、◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)
☆音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ・物理基礎・生物基礎の中から1科目選択する(2年次)

令和5年度入学生 みらい福祉科 教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日課程

共・専	学年・類型等		標準 単位数	1 年 次	2 年 次	3 年 次	各教科単 位数合計	備考	
	教科	科目							
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 (共 通 教 科 ・ 科 目)	国語	◎現代の国語	2	2			4~8	※2年次「標準国語」「数学A」 から1科目選択 ※3年次「発展国語」「化学基 礎」「論理・表現I」から1科目 選択	
		◎言語文化	2	2					
		☆標準国語			②				
		★発展国語				②			
	地理歴史	◎地理総合	2	2				4	
		◎歴史総合	2				2		
	公民	◎公共	2		2			2	
	数学	◎数学I	3	4				4~6	※2年次「標準国語」「数学A」 から1科目選択
		☆数学A			②				
	理科	◎科学と人間生活	2		2			4~6	※3年次「発展国語」「化学基 礎」「論理・表現I」から1科目 選択
		◎生物基礎	2		2				
		☆化学基礎	2				②		
	保健体育	◎体育	7~8	4	2	2		8	
		◎保健	2						
	芸術	○音楽I	2	2				2	※「音楽I」「美術I」「書道I」 から1科目選択
○美術I		2							
○書道I		2							
外国語	◎英語コミュニケーションI	3	4				4~6	※3年次「発展国語」「化学基 礎」「論理・表現I」から1科目 選択	
	☆論理・表現I	2				②			
家庭	◎家庭総合	4		2	2		4	※福祉専門選択科目「人間と社会」 として読み替え可	
情報	◎情報I	2		2			2		
主 と し て 専 門 学 科 に お け る 専 門 科 目 (専 門 科 目 に お け る 専 門 科 目 ・ 開 設 さ れ る 科 目)	福祉専門 指定科目	□社会福祉基礎	2~6		2	2	4		
		□介護福祉基礎	2~6	3			2	5	
		□コミュニケーション技術	2~4	2				2	
		□生活支援技術	4~12			5	6	11	
		□介護過程	2~6			2	2	4	
		□介護総合演習	2~6	1	1	1	3		
		□介護実習	2~16	1	2	3	6		
		□こころとからだの理解	2~8	2	2	4	8		
		合計			29	28	28	85	
共通科目単位数 合計				1年次(20単位) 2年次(12単位) 3年次(6単位) 合計38単位					
専門科目単位数 合計				1年次(9単位) 2年次(16単位) 3年次(22単位) 合計47単位					
科目単位数 合計				各年次:(28~29単位)					
総合的な探究の時間				2・3年次1単位 合計2単位 (1年次は介護総合演習で代替)					
特別活動				ホームルーム活動 各年次1単位 合計3単位					
単位数 総合計				合計単位数(87単位)					

◎必修修科目 ○選択必修修科目 □学科必修修科目 ☆共通履修科目 ★学校設定科目

介護福祉士国家試験受験資格取得のため、「■介護実習」を夏季休業期間中に実施する。

但し、夏季休業期間中の「■介護実習」は卒業単位に含まない。

1年次8日間(2単位)、2年次11日間(3単位)、3年次8日間(2単位)

【備考】◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)

令和5年度入学 普通科(クリエイティブアーツコース)教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日制課程

共・専	学年・類型等		標準 単位 数	1 年 次	2 年 次	3 年 次	各教科 単位数 合計	自由選択履修科目 (2・3年次)	
	教科	科目							
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 (共 通 教 科 ・ 科 目)	国語	◎現代の国語	2	2			8	◇国語表現④(3年生のみ選択可) ★古典読解②(3年生のみ選択可) ★標準国語②(2年生のみ選択可) ★発展国語②(3年生のみ選択可)	
		◎言語文化	2	2					
		☆文学国語	4		2	2			
	地理歴史	◎地理総合	2	2			4	◇地理探究④ ★沖縄の歴史②	
		◎歴史総合	2			2			
	公民	◎公共	2		2		2	★就職社会②	
	数学	◎数学Ⅰ	3	4			4	◇数学Ⅱ④ ◇数学A② ◇数学B② ★発展数学② ★就職数学② ★数学基礎②	
	理科	◎科学と人間生活	2	2			4	◇物理基礎② ◇化学基礎② ★化学実習② ★生活の科学② ★郷土の自然②	
		◎生物基礎	2		2				
	保健体育	◎体育	7~8	4	2	2	10		
◎保健		2	2						
芸術	◎美術Ⅰ	2	2			4	◇美術Ⅲ② ★沖縄の音楽② ★硬筆② ★書の表現(基礎)② ★書の表現(応用)②(3年のみ選択可)		
	□美術Ⅱ	2		2					
外国語	◎英語コミュニケーションⅠ	3	4			4	◇英語コミュニケーションⅡ④ ◇英語コミュニケーションⅢ④ ◇論理・表現Ⅰ② ★英語会話② ★英語演習基礎②(2年生のみ) ★英語演習応用④(3年生のみ) ★中国語基礎② ★中国語Ⅰ④ ★中国語Ⅱ④ ★スペイン語基礎② ★スペイン語Ⅰ④ ★スペイン語Ⅱ④		
家庭	◎家庭総合	4		2	2	4			
情報	◎情報Ⅰ	2		2		2	★情報活用		
文化教養							★囲碁② ★囲碁Ⅱ② ★将棋② ★生活教養②		
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目 (専 門 教 科 ・ 科 目)	商業						◇簿記④ ◇財務会計Ⅰ④ ◇情報処理② ★ビジネスマナー② ★ビジネス計算②		
	家庭						◇保育基礎② ◇服飾手芸② ◇フードデザイン②		
	福祉						◇介護福祉基礎② ◇コミュニケーション技術② ◇こころとからだの理解② ★手話レク②		
	体育						◇スポーツⅡ②(2年のみ選択可) ★スポーツ課題研究②(3年のみ選択可) ★古武術Ⅰ② ★古武術Ⅱ② ★琉球舞踊Ⅰ② ★琉球舞踊Ⅱ② ★ダンス②		
	音楽						◇音楽理論② ◇声楽② ◇器楽② ◇音楽史② ★声楽探究② ★器楽探究②		
	美術						◇絵画④ ◇ビジュアルデザイン④ ◇グラフィックデザイン④ ◇環境造形④ ★陶芸一般④ ★写真一般④ ★美術課題研究④		
	美術 専 門 指 定 科 目	専門必修	□美術史	1~2			2	10	
			□素描	2~8		2			
			□構成	2~8			2		
			□★コース基礎演習		4				
共通必修選択	■素描	2~8				4	4	共通必修選択 2科目より1科目履修	
	■情報メディアデザイン	2~6							
コース 選 択 必 修	陶芸専攻	■★陶芸						※2年次より左記の3つの専攻で科目選択	
		■★平面メディア表現			4		4		8
コース 選 択 必 修	イラスト・まんが表現専攻	■★映像表現	2~6						
		■映像表現	2~6						
共通科目単位数 合計				1年次(24単位) 2年次(14単位) 3年次(8単位) 合計46単位					
専門科目単位数 合計				1年次(4単位) 2年次(6単位) 3年次(12単位) 合計22単位					
自由選択科目単位数 合計				1年次(0単位) 2年次(8単位) 3年次(8単位) 合計16単位					
科目単位数 合計				各年次:28単位					
総合的な探究の時間				各年次1単位 合計3単位					
特別活動				各年次1単位 合計3単位					
単位数 総合計				各年次:30単位 卒業時の合計単位数(74~87単位)					

◎必修科目 ○選択必修科目 ☆共通履修科目 □コース必修履修科目 ■コース選択必修履修科目 ◇自由選択科目(★学校設定科目)
※2・3年次自由選択履修科目においては、時間割作成上登録できない科目もある。②・④は単位数

【備考】 ☆文学国語 分割履修(2, 3年次) ◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)

令和5年度入学 普通科(普通コース)教育課程表

【様式2】

沖縄県立真和志高等学校 全日制課程

共・専	教科	科目	標準 単位	1 年次	2 年次	3 年次	各教科 単位数 合計	自由選択履修科目		
								1年次選択科目	2・3年次選択科目	
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目 (共 通 教 科 ・ 科 目)	国語	◎現代の国語	2	2			8	★国語入門②	◇国語表現④ ★古典読解②(3年生のみ選択可) ★標準国語②(2年生のみ選択可) ★発展国語②(3年生のみ選択可)	
		◎言語文化	2	2						
		☆文学国語	4		2	2				
	地理歴史	◎地理総合	2	2			4		◇世界史探究④ ◇日本史探究④ ◇地理探究④ ★沖縄の歴史②	
		◎歴史総合	2		2					
	公民	◎公共	2		2		4] ②	★就職社会②	
		☆倫理	2							
		☆政治・経済	2							
	数学	◎数学Ⅰ	3	4			4	◇数学A②	◇数学Ⅱ④ ◇数学A② ◇数学B② ★発展数学② ★就職数学② ★数学基礎②	
	理科	◎科学と人間生活	2	2			4~6] 2 ②] ②]		◇物理基礎② ◇物理④ ◇化学基礎② ◇化学④ ◇生物基礎② ◇生物④ ◇地学基礎② ◇地学④ ★化学実習② ★生活の科学② ★郷土の自然② ★環境の科学 ※物理、化学、生物、地学はそれぞれの基礎科目を履修後選択することができる
		○化学基礎	2							
		○地学基礎	2							
		☆物理基礎								
☆生物基礎										
保健体育	◎体育	7~8	4	2	2	10				
	◎保健	2	2							
芸術	○音楽Ⅰ	2] 2			2~4] ②] ②] ②]	★硬筆②	◇音楽Ⅲ②◇美術Ⅲ②◇書道Ⅲ②(3科目は3年生のみ選択可) ★硬筆② ★書の表現(基礎)② ★書の表現(応用)②(3年のみ選択可) ★沖縄の音楽②	
	○美術Ⅰ	2								
	○書道Ⅰ	2								
	1科目選択									
	☆音楽Ⅱ	2								
☆美術Ⅱ	2									
☆書道Ⅱ	2									
Iの連続で1科目選択										
外国語	◎英語コミュニケーションⅠ	3	4			4		★中国語基礎②	◇英語コミュニケーションⅡ④ ◇英語コミュニケーションⅢ④ ◇論理・表現Ⅰ② ★英語会話② ★英語演習基礎②(2年生のみ) ★英語演習応用④(3年生のみ) ★中国語基礎② ★中国語Ⅰ④ ★中国語Ⅱ④ ★スペイン語基礎② ★スペイン語Ⅰ④ ★スペイン語Ⅱ④	
	◎家庭総合	4		2	2	4				
家庭情報	◎情報Ⅰ	2	2			2		★情報活用		
文化教養								★生活教養② ★ベーシック(英数)②	★囲碁② ★囲碁Ⅱ② ★将棋② ★生活教養②	
									◇簿記④ ◇財務会計Ⅰ④ ◇情報処理② ★ビジネスマナー② ★ビジネス計算②	
主として専門学科において開設される各教科・科目 (専門教科・科目)	商業								◇保育基礎② ◇服飾手芸② ◇フードデザイン②	
	家庭								★手話レク②	
	福祉								◇介護福祉基礎② ◇コミュニケーション技術② ◇ここからからの理解② ★手話レク②	
	体育							★古武術Ⅰ② ★琉球舞踊Ⅰ②	◇スポーツⅡ② ★スポーツ課題研究② ★古武術Ⅰ② ★古武術Ⅱ② ★琉球舞踊Ⅰ② ★琉球舞踊Ⅱ② ★ダンス②	
	音楽							◇声楽② ◇器楽②	◇音楽理論② ◇声楽② ◇器楽② ◇音楽史② ★声楽探究② ★器楽探究②	
	美術								◇絵画④ ◇ビジュアルデザイン④ ◇素描 ◇クラフトデザイン④ ◇環境造形④ ★陶芸一般④ ★写真一般④ ★美術課題研究④	
◎必・○選択必・☆共通履修の単位数			26	14	8	48				
◇自由選択・★学校設定科目の単位数			2	14	20	36				
共通科目単位数 合計			1年次(26単位) 2年次(14単位) 3年次(8単位) 合計48単位							
選択科目単位数 合計			1年次(2単位) 2年次(14単位) 3年次(20単位) 合計36単位							
科目単位数 合計			各年次:28単位							
総合的な探究の時間			各年次1単位 合計3単位							
特別活動			各年次1単位 合計3単位							
ホームルーム活動			各年次1単位 合計3単位							
単位数 総合計			各年次:30単位 卒業時の合計単位数(74~87単位)							

◎必履修科目 ○選択必履修科目 ☆共通履修科目 ◇自由選択科目(★学校設定科目)
※2・3年次自由選択履修科目においては、時間割作成上登録できない科目もある。②・④は単位数

【備考】 ☆文学国語 分割履修(2, 3年次)、◎家庭総合 分割履修(2, 3年次)
☆音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ・物理基礎・生物基礎の中から1科目選択する(2年次)

令和5年度 部・同好会担当顧問

(4) 部・同好会

外=外部コーチ

(体育系)		顧問名			
1	硬式野球				
2	男子バスケット				
3	男子バレーボール				
4	女子バレーボール				
5	男子テニス				
6	男子サッカー				
7	男女バドミントン				
8	弓道				
9	陸上競技				
10	ボウリング				
(文化系)		顧問名			
1	インターメディア				
2	美術				
3	イラスト				
4	書道				
5	放送				
6	軽音楽				
7	ボランティア				
8	陶芸				
9	吹奏楽				
10	手話				
11	囲碁部				
同好会 (体育・文化)		顧問名			
1	家庭活動クラブ				
2	茶道クラブ				
3	ダンス				
4	ビジネススキルクリエイション				
5	動画研究会				
6	ソフトテニス				
7	卓球				
8	空手				

9. 学校保健安全計画

(1) 学校保健計画

月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3	
月の重点	・自己の健康状態を知ろう ・感染症予防の徹底	・疾病、異常の早期治療 ・感染症予防の徹底	・歯と口腔の健康について考えよう ・感染症予防の徹底	・夏季の健康生活 ・感染症予防の徹底	・夏休み後の生活リズムを回復しよう ・応急手当を学ぼう ・感染症予防の徹底	・目の健康とトラブルについて理解しよう ・感染症予防の徹底	・心の健康について考えよう ・感染症予防の徹底	・エイズについて理解を深めよう ・感染症予防の徹底	・規則正しい生活をしよう ・感染症予防の徹底	・生活習慣病の予防・感染症予防の徹底	・健康生活の反省をしよう ・感染症予防の徹底	
学校保健関係行事	・保健調査 尿検査 内科検診 身体測定 ・三者面談 ・校外研修 ・新入生歓迎球技	・胸部X線、心電図 歯科検診 ★セラプラス ・前期中間考査 ・高校総体	・未受診者追加検診 ・拡大学年會	・期末考査 ★性教育講話 ・夏季休業前全体集會 ・薬物乱用防止講話	・リーダー研修 ・学校保健委員会 ・真和志フェスティバルの取り組み ・オープンスクール ・前期卒業式/終業式	・後期始業式 ・真和志フェスティバル ・人権講話	・後期中間考査 ・献血講話(3年生) ・福祉オープンスクール	・献血(3年) ・クリエイティブ卒展 ・冬季休業前全体集會	・冬季休業明け全体集會 ・推薦入試	・スポレク/予餞会 ・ワックスかけ ・学校保健委員会	・卒業式 ・高校入試 ・修了式 ・合格者オリエンテーション ・次年度健診準備	
保健管理	対人管理	*健康診断計画と実施/健康観察/疾病予防/健康状態の把握 ・持病のある生徒の健康相談/保健指導、保護者面談 ・保健調査票のチェック/健康管理者リスト作成/要治療者への治療勧告 ★ここところからのアンケート/セラプラス *日本スポーツ振興センター加入手続き		・検診結果通知 ・治療勧告 ・健康相談/保健指導	・健康相談/保健指導 ・検診後の受診状況把握 ・疾病治療状況調査	・健康相談/保健指導 ★ここところからのアンケート ・真和志フェスティバルの保健安全について	・健康相談/保健指導	・健康相談/保健指導 ・次年度定期健診日程調整(関係機関) ・保健行事計画案作成	・持病のある生徒の健康相談/保健指導 ・スポレク/予餞会に向けての保健指導・推薦入試書類確認	・持病のある生徒の健康相談/保健指導 ・要管理者リスト作成 ・一般入試書類確認	・要管理者リスト作成 ・一般入試書類確認 ・本年度総括、反省 ・災害共済給付状況まとめ ・次年度健診準備	
	対物管理	学校環境の整備 ・救急体制の確認・弁当業者と契約・水質検査/プール施設設備の点検 ・校舎内外/学校施設の点検・室内の換気 ・医薬品の管理 ・医薬及び衛生用品の点検と購入計画 ・備品管理と購入計画/保健室機材の整備		学校環境の管理 ・プール、飲料水の水質検査、貯水槽清掃 ・体育館、プール施設設備点検 ・ダニ、ダニアレルゲン検査 ・教室の空気検査/室内の換気 ・医薬品の管理		・校舎内外/学校施設の点検及び清掃活動 ・水道水の日常検査 ・室内の換気 ・医薬品の管理	・校舎内外/学校施設の点検及び清掃活動 ・水道水の日常検査 ・室内の換気 ・医薬品の管理	・校舎内外/学校施設の点検及び清掃活動 ・水道水の日常検査 ・医薬品の管理 ・照度測定 ・室内の換気	・校舎内外/学校施設の点検及び清掃活動 ・水道水の日常検査 ・室内の換気 ・医薬品の管理 ・ワックス作業	・校舎内外/学校施設の点検及び清掃活動 ・水道水の日常検査 ・室内の換気 ・医薬品の管理 ・ワックス作業	・校舎内外/学校施設の点検及び清掃活動 ・水道水の日常検査 ・医薬品の管理	
保健教育	教科等	(1年) ・国民の健康水準の向上と変化する健康課題 ・健康の保持増進とヘルスプロモーション ・感染症の予防	(1年) ・性感染症とその予防 ・生活習慣病の予防 ・食事と健康 ・健康と運動、休養・睡眠	(1年) ・がんの発生と予防 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康	(1年) ・薬物乱用とその防止 ・脳と神経の働き ・欲求不安と適応機制 ・欲求と適応規制	(1年) ★心の健康と精神疾患 ・精神疾患の予防と回復のために ・交通事故と安全の確保 ・安全・安心な社会づくり	(1年) ・適切な応急手当の手順 ・心肺蘇生法の実践 ・日常的な応急手当	(1年) ・思春期と健康 ・春期の体と健康 ・結婚生活と健康 ★新しい生命の誕生 ・家族計画と不妊治療	(1年) ・加齢と健康 ・労働者の健康・安全と健康問題 ・労働災害・職業病とその予防 ・労働者の健康づくりと働き方改革	(1年) ・環境汚染の広がりとその影響 ・大気汚染の健康への影響と対策 ・水質汚濁と土壌汚染の健康への影響と対策 ・廃棄物の処理と健康	(1年) ・環境衛生活動 ・食品の安全性の確保 ・保健・医療制度 ・地域の保健機関・医療機関の活用	(1年) ・医薬品と健康 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加
	関連教科	(家庭総合) ・家庭経営 ・高齢者の生活と課題(福祉) ・生活の変化	(生物基礎) ・生命を維持する働き (家庭総合) ・食生活の設計と調理	(生物基礎) ★生物としての人間、親から子へ (家庭総合) ・乳幼児の保育と親の役割(福祉) ・ライフサイクル	(現代社会) ・科学技術の発達と私たちの生命(生物) ・生殖と発生(福祉) ・人の一生	(現代社会) ・青年期と自己の形成(生物基礎) ・生物としての人間(福祉) ・自立生活支援(家庭総合) ・住まいの防災	(現代社会) ・青年期と自己形成(生物基礎) ・生物と環境(福祉) ・社会福祉を支える諸原理	(現代社会) ・社会保障と福祉社会(福祉) ・社会福祉サービスの特質	(現代社会) ・民主社会に生きる倫理(生物基礎) ・地球と人間(福祉) ・自立を支える社会サービス ・普通救命講習(3年)	(家庭総合) ★生命の誕生と母性、父性、保育	(家庭総合) ・食品の衛生と安全	(科学と人間生活) ・人間の活動と地球環境の変化(家庭総合) ・食品の衛生と安全
	総合的な学習	・保健調査の実施	・セラプラスの実施 ・自己理解/ルールについて(1年)	・ここところからのアンケート・職業体験授業(1年)	★性教育講話 ・薬物乱用防止講話	・真和志フェスティバルの取り組み	・真和志フェスティバルの取り組み	・防災訓練 ・インターシップ代替(2年) ・献血講話(3年)	・献血教室(3年)	・スポレク/予餞会に向けての保健指導	・スポレク/予餞会の安全指導 ・ワックス作業の安全指導	
	特別活動	・健康診断事前指導 ・保健だよりの発行	・健康診断未受診者の保健指導 ・保健だよりの発行	・健康診断未受診者の保健指導 ・保健だよりの発行	・夏休みの健康安全について ・保健だよりの発行	・真和志フェスティバルの取り組み ・保健だよりの発行	・真和志フェスティバルの保健指導 ・保健だよりの発行	・環境学習(2年) ・保健だよりの発行	・環境学習/(3年) ・献血教室(3年) ・保健だよりの発行	・スポレク/予餞会に向けての保健指導 ・保健だよりの発行	・保健だよりの発行	・1年間の健康生活の自己評価
	生徒会	・新入生歓迎球技大会 ・対面式・部紹介	・高校総体激励会	・生徒総会 ・野球部激励会	・生徒会長選挙	・野球部激励会 ・リーダー研修	・新入大会激励会 ・真和志フェスティバル、後夜祭	・グリーンデー活動	・予餞会準備	・予餞会 ・卒業式準備	・卒業式第二部セレモニー ・次年度の準備	
個別・日常指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	・来室者の健康相談/保健指導 ・要管理、要精密検査、治療勧告生徒への保健指導	
組織活動	・保健相談中退部会 ・校内職員研修 ・生徒支援会議	・保健相談中退部会 ・生徒支援会議 ・いじめ人権対策委員会	・保健部相談中退部会 ・生徒支援会議	・保健部相談中退部会 ・生徒支援会議 ・校内職員研修	・保健部相談中退部会 ・生徒支援会議 ・学校保健委員会	・保健部相談中退部会 ・生徒支援会議 ・いじめ防止対策委員会 ・生徒支援会議	・保健部相談中退部会 ・生徒支援会議	・中退対策委員会 ・生徒支援会議	・中退対策委員会 ・生徒支援会議 ・学校保健委員会	・学校保健委員会 ・中退対策委員会 ・生徒支援会議	・中退対策委員会 ・生徒支援会議	

(2) 学校安全計画

月	4	5	6	7・8	9	10	11	12	1	2	3	
月の重点	・校則の遵守 ・交通マナーを高める	・校内外での安全 ・交通マナーを高める	・梅雨期の安全 ・交通マナーを高める	・夏休みの安全について ・交通マナーを高める	・生活リズムを整える、交通マナーを高める	・安全な通学 ・交通マナーを高める	・防犯防災、安全意识を高める ・交通マナーを高める	・交通マナーを高める ・冬休みの安全	・交通マナーを高める	・安全な通学 ・交通マナーを高める	・一年間の生活反省	
学校行事	・入学式、始業式 ・健康診断(4～6月) ・三者面談 ・校外研修 ・交通安全講話 ・新入生歓迎球技 ・対面式、部紹介	・三者面談 ・中間考査 ・高校総体	・サイバー犯罪防止講話 ・防災訓練 ・生徒総会 ・拡大学年會	・夏季休業前全体集會	・リーダー研修 ・学校説明會	・前期卒業式 ・前期終業式 ・後期始業式 ・真和志フェスティバル	・環境学習 ・グリーンデー ・献血講話	・芸術鑑賞會 ・献血(3年) ・クリエイティブ卒展 ・冬季休業前全体集會	・冬季休業明け全体集會	・スポレク大会/予餞會 ・ワックスがけ	・卒業式 ・高校入試1次2次 ・修了式 ・合格者オリエンテーション	
安全教育	教科	(保健体育) ①体育施設・用具の安全点検 ②体育実技の安全指導：水泳時の安全(6月～9月)、各スポーツにおける安全、熱中症予防、応急手当 (美術) 実習中の安全指導：刃物、彫刻刀、電動工具等の安全な使用方法、塗料の使用、安全な作品展示、室内の整理整頓や環境整備など (理科) 実験・実習中の安全指導(薬品の安全な取り扱い方、施設器具・機械の取り扱いと安全な使用方法)、施設設備・薬品管理棟の点検 (家庭科) ①調理実習中の安全指導：刃物、ガス、火気、器具等の安全な使用方法 ②被服実習中の安全指導：ミシン、ハサミ、針、アイロンなどの安全な使用方法										
	総合的な学習	・校外研修にむけて ・歓迎球技大会に向けて ・交通安全講話	・ルールについて(1年)	・生徒総会・防災訓練	・夏季休業前全体集會	・地域安全マップ作成	・真和志フェスティバルにおける安全指導	・献血講話(3年) ・環境学習(2年) ・インターシップ代替(2年)	・献血教室(3年) ・環境学習(1・3年)	・スポレク/予餞會に向けて	・スポレク/予餞會 ・ワックスがけ(1・2年)	
	HR活動	・校外研修にむけて ・新入生歓迎球技大会に向けて ・交通安全について	・新入生歓迎球技大会での安全指導	・防災訓練	・夏休みの心得、交通安全指導 ・熱中症予防 ・薬物乱用防止教室	・免許所持者調べ	・真和志フェスティバル出店班の衛生講習會及び安全指導	・献血講話(3年) ・環境学習(2年)	・冬休みの心得 ・献血教室(3年) ・環境学習(1・3年)	・冬の交通安全指導 ・スポレク/予餞會事前安全指導	・卒業式に向けた環境美化(1・2年) ・ワックス作業時の安全について ・進学・就職準備期間の心得(3年)	・入試休み、春休みの心得
	生徒会活動	・歓迎球技大会 ・対面式、部紹介	・高校総体激励會	・生徒総会 ・野球部激励會	・高校生代表者會議 ・生徒會長選挙	・リーダー研修 ・真和志フェスティバルの取り組み	・新人大会激励式 ・真和志フェスティバル、後夜祭	・グリーンデー活動	・予餞會準備	・予餞會 ・卒業式準備	・卒業式第二部セレモニー ・次年度の準備	
安全管理	対人管理 学校生活	・登下校時の安全指導、連休前安全指導 ・救急体制の確認・校内外巡回指導 ・日本スポーツ振興センターへの加入 ・自転車通学者集會	・部活中の安全、部室の使用心得 ・生徒引率時の安全について ・校内外巡回指導	・夏休休業前の交通安全指導 ・校内外巡回指導	・免許取得者、車両所持者の調査 ・校内外巡回指導	・真和志フェスティバルにおける安全指導 ・校内外巡回指導	・高校生の交通問題を自ら考える実践交流会参加 ・校内外巡回指導	・休業前の交通安全指導(全体及び個別指導) ・校内外巡回指導	・免許取得者、車両所持者、通学方法の調査 ・校内外巡回指導	・スポレク/予餞會での安全指導 ・校内外巡回指導	・学校安全の反省とまとめ ・校内外巡回指導	
	対物管理 学校環境	・校舎内外/学校施設の点検及び整備 ・弁当業者との契約 ・医薬品の管理 ・清掃活動 ・水道水の日常点検	・プール、飲料水水質検査 ・医薬品の管理 ・空気中化学物質検査 ・ダニ、ダニアレルゲン検査 ・清掃活動 ・水道水の日常点検 ・電気設備点検、貯水槽清掃	・校舎内外/学校施設の点検及び整備 ・医薬品の管理 ・清掃活動 ・水道水の日常点検	・真和志フェスティバル物品整備 ・医薬品の管理 ・水道水の日常点検 ・清掃活動 ・照度測定	・校舎内外/学校施設の点検及び整備 ・医薬品の管理 ・水道水の日常点検 ・清掃活動 ・騒音測定	・校舎内外/学校施設の点検及び整備 ・医薬品の管理 ・水道水の日常点検 ・清掃活動	・校舎内外/学校施設の点検及び整備 ・教室の換気 ・医薬品の管理 ・水道水の日常点検 ・清掃活動	・校舎内外/学校施設の点検及び整備 ・教室の換気 ・医薬品の管理 ・水道水の日常点検 ・清掃活動	・教室、机椅子、清掃用具の整備 ・校舎内外/学校施設の点検及び整備 ・医薬品の管理 ・水道水の日常点検 ・清掃活動		
安全確保に関する点検	・学校環境の点検 ・水質検査、施設設備の点検	・校内危険箇所点検 ・体育館、プールの施設設備点検 ・防災避難経路点検	・校内危険箇所点検 ・真和志フェスティバルの物品点検	・運動場の点検	・学校環境の安全点検 ・真和志フェスティバルの物品点検	・校内危険箇所点検	・学校環境の安全点検	・消防設備法定点検	・校内危険箇所点検			
課外指導 個別指導	・校門遅刻指導 ・自転車通学生の安全指導	・校門遅刻指導	・校門遅刻指導	・免許取得者の安全指導 ・校門遅刻指導	・自転車通学生の安全指導 ・校門遅刻指導	・校門遅刻指導	・校門遅刻指導	・免許取得者の安全指導 ・校門遅刻指導	・校門遅刻指導	・校門遅刻指導	・校門遅刻指導	
P T A等組織活動		・P T A総會	・地区夜間補導協力	・地区夜間補導協力	・P T A美化作業 ・地区夜間補導協力 ・学校保健委員会	・地区夜間補導協力	・地区夜間補導協力	・地区夜間補導協力	・地区夜間補導協力	・P T A美化作業 ・地区夜間補導協力 ・学校保健委員会	・地区夜間補導協力	

令和5年度シラバス【 手話レク 】

教科	福祉	単位数	2単位	履修年次	2・3年次	授業形態	講義 実技
学習目標	【2年次】						
	<p>○手話単語や手話ソング、手話での会話を通した平和教育等を理解させる。（知識、技能）</p> <p>○日常会話で用いる手話表現について、基本的な単語や文型などを理解させる。（思考、判断、表現）</p> <p>○手話ソングなどを用いた魅せる手話表現を身体で表現するなど、主体的に学ばせる。（主体的に取り組む態度）</p>						
学習内容	【3年次】						
	<p>○日常的に使う基礎的な手話単語を歌や会話、平和教育等を通して理解させる。</p> <p>○日常会話の手話表現について、基本的な単語や文型などを理解させる。</p> <p>○魅せる手話表現として、体で表現するなど主体的に学ばせる。</p>						
履修したほうがよい生徒	全生徒						
履修の条件	特になし						
評価のポイント	自己表現力。手話を楽しんでいるか。上記の学習目標に沿い、総合的に評価を行う。						
使用する教材	自作教材						
備考							

学習計画

月	単元名	学習内容	備考
4	・オリエンテーション	①学習の進め方 ②自己紹介・あいさつ・指文字	
5	・日常使う基礎的な単語①	①歌を通して手話単語を覚える ・まほうのことば ・みんなのことば ・大きな古時計	これまでの習得状況などについて確認を行う。
6	・日常使う基礎的な単語② 会話編 平和	①平和学習と手話 ・スマイル ・時を超え (HY) ・HEY 和 (ゆず)	
7	・沖縄県手話言語条例について ・日常使う基礎的な単語③	①沖縄の手話条例の現状について話し合う。	これまでの習得状況などについて確認を行う。
8 ～ 9	日常会話の表現①	①基本的な単語や文型を理解する。 ②手話の表現・ダンス等	
10	日常会話の表現②	ビデオ学習① ・みんなの手話 (NHK)	これまでの習得状況などについて確認を行う。
11	日常会話の表現③	ビデオ学習② ・オレンジデイズ	
12	魅せる手話表現 (舞台) 体で表現① 立練習・立稽古	クリスマスパーティーでグループ発表	
1	体で表現②	思い出づくり ・ビデオ撮影①	これまでの習得状況などについて確認を行う。
2	体で表現③	思い出づくり ・ビデオ撮影②	
3	手話通訳とは	ビデオ学習	